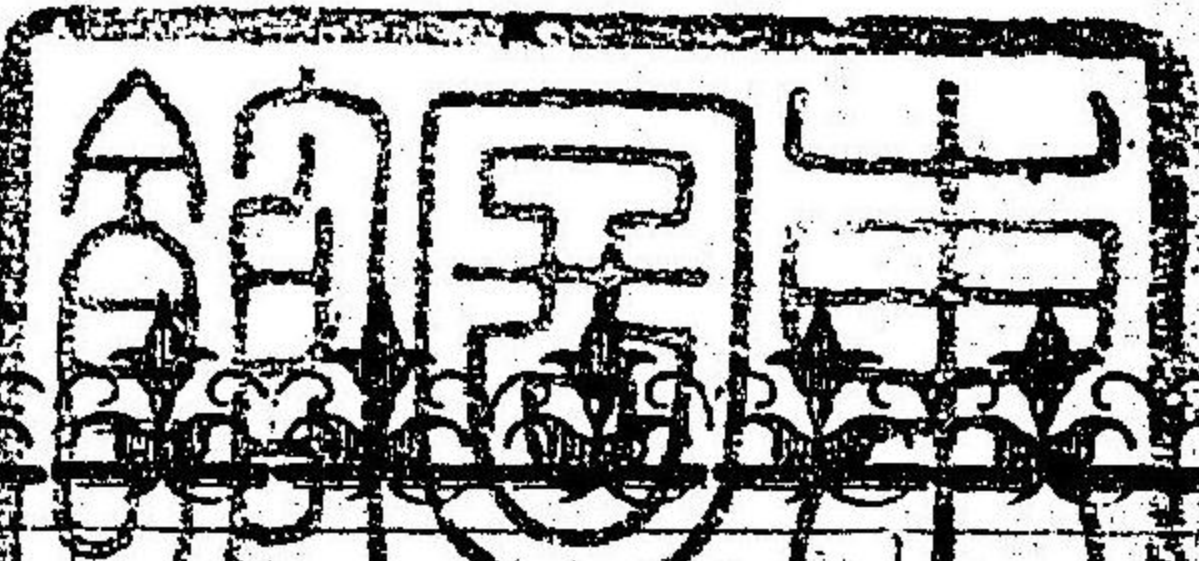


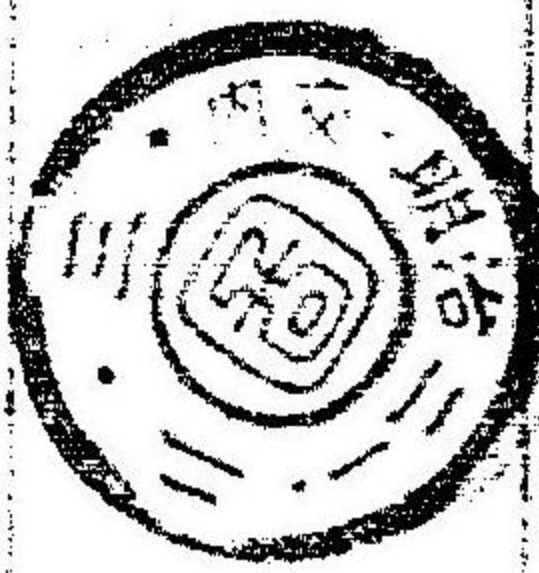
No 5193



舊法講義

第六册

舊太政官商法編纂局御反譯
佛國巴里法律大學教師法律博士ボウスター先生著
外務省參事官法律學士杉村虎一先生
檢事法律學士立木頼三先生
合譯



內閣法制局參事官商法編纂委員

長森敬斐君

內閣法制局參事官法律學士商法編纂委員

岸本辰雄君

校閱



此目錄ハ假
リニ添ヘタ
ルモノナレ
ハ全部出版
ノ上更ニ總
目錄ヲ付ス
ルトスヘ
シ

第二編

海上通商(第千百八號乃至第千百九號)

海上法總論(第千百十號乃至第千百十五號)

第一、運送方法(第千百十一號)

第二、運送請負(第千百十二號)

第三、運送契約(第千百十三號)

第四、海上危險(第千百十四號)

第五、期滿得免(第千百十五號)

第一卷 海船及ヒ其他海用ノ諸船(第千百十六號)

第一章 海船名籍(第千百十七號乃至第千百二十一號)

第二章 海船所有權ノ管理法(第千百二十二號)

第一項 海船上ノ特權(第千百二十三號)

第一 最終ノ航海後ニ生シタル債主權(第千百二十五號)

乃至第一千三百三十一號

第二 總テノ航海前又ハ最終ノ航海前ニ生シタル債主
權(第一千三百三十二號乃至第一千四百十三號)

第二項 諸債主ノ追跡ノ權及ヒ其消滅(第一千四百十四號乃至
第一千五百十號)

第三項 海船ノ隨意ノ賣拂(第一千五百一十一號乃至第一千五百
五號)

附錄 海船ノ所有權ニ適用ス可キ期滿得免ノ事(第一千
五十六號)

第四項 海船ノ書入質權(第一千五百五十七號乃至第一千百六十六
號)

第二卷 海船ノ差押及ヒ其賣拂(第一千六百六十七號乃至第一千七百十

號)

第三卷 海船ノ所有者(第一千七百七十一號乃至第一千九百九十號)

第一章 海船ノ共有權(第一千七百七十一號乃至第一千七百七十七號)

第二章 船長雇入ノ契約(第一千七百七十八號乃至第一千八百八十二號)

第三章 船長ノ所爲ニ付他人ニ對スル海船ノ所有者ノ義務(第
千八百八十三號乃至第一千九百九十號)

第四卷 船長ノ事(第一千九百九十一號乃至第一千二百十五號)

第一章 船長ノ其代理委任者ニ對スル責任ノ一般ノ元則(第千
百九十二號乃至第一千九百九十四號)

第二章 船長ノ權利(第一千九百九十五號乃至第一千二百四號)

第三章 船長ノ義務(第一千二百五號乃至第一千二百十五號)

第一項 特別ノ義務(第一千二百六號)

第二項 船長ノ履行ス可キ法式(第千二百九號乃至第千二百十五號)

四

第五卷 水夫及ヒ其他ノ乗組人ノ雇入ノ事(第千二百十六號乃至第千二百三十一號)

第六卷 海船賃貸借書、海船賃貸借契約又ハノリヌマン(第千二百三十二號乃至第千二百四十二號)

第一章 海船賃貸借契約ノ法式(第千二百三十二號乃至第千二百四十號)

第二章 海船賃貸借契約ヨリ生スル諸義務(第千二百四十一號乃至第千二百四十二號)

第七卷 積荷目錄ノ事(第千二百四十三乃至第千二百五十四號)

第一章 積荷目錄ノ法式(第千二百四十四號乃至第千二百四十四號)

六號

第二章 積荷目錄ノ効果(第千二百四十七號乃至第千二百四十八號)

第三章 積入レタル荷物ニ關シ船長ノ義務并ニ權力ノ事(第千二百四十九號乃至第千二百五十四號)

第八卷 海船賃貸借料ノ事(第千二百五十五號乃至第千二百六十八號)

第一章 海船賃貸借料ヲ拂フノ義務(第千二百五十五號乃至第千二百六十四號)

第二章 契約者ノ相互ノ擔保ノ事(第千二百六十五號乃至第千二百六十八號)

第一項 相互ノ特權(第千二百六十五號乃至第千二百六十六號)

五

號

第二項 船長ノ拂テ得ル爲メ荷物ヲ賣拂フノ權利(第千二百六十七號)

第三項 船長ニ對シ留置權ノ拒絕(第千二百六十八號)

第十一卷 海上損失ノ事(第千二百六十九號乃至第千三百四號)

第一章 普通海上損失ト特別海上損失トノ區別ノ事(第千二百七十二號乃至第千二百八十八號)

第二章 普通海上損失ノ算定即チ釀償ノ事(第千二百八十九號乃至第千三百一號)

第一 荷物ノ評價ノ事(第千二百九十二號乃至第千二百九十四號)

第二 海海及ヒ其附屬物ノ評價ノ事(第千二百九十五號)

六

至第千三百一號

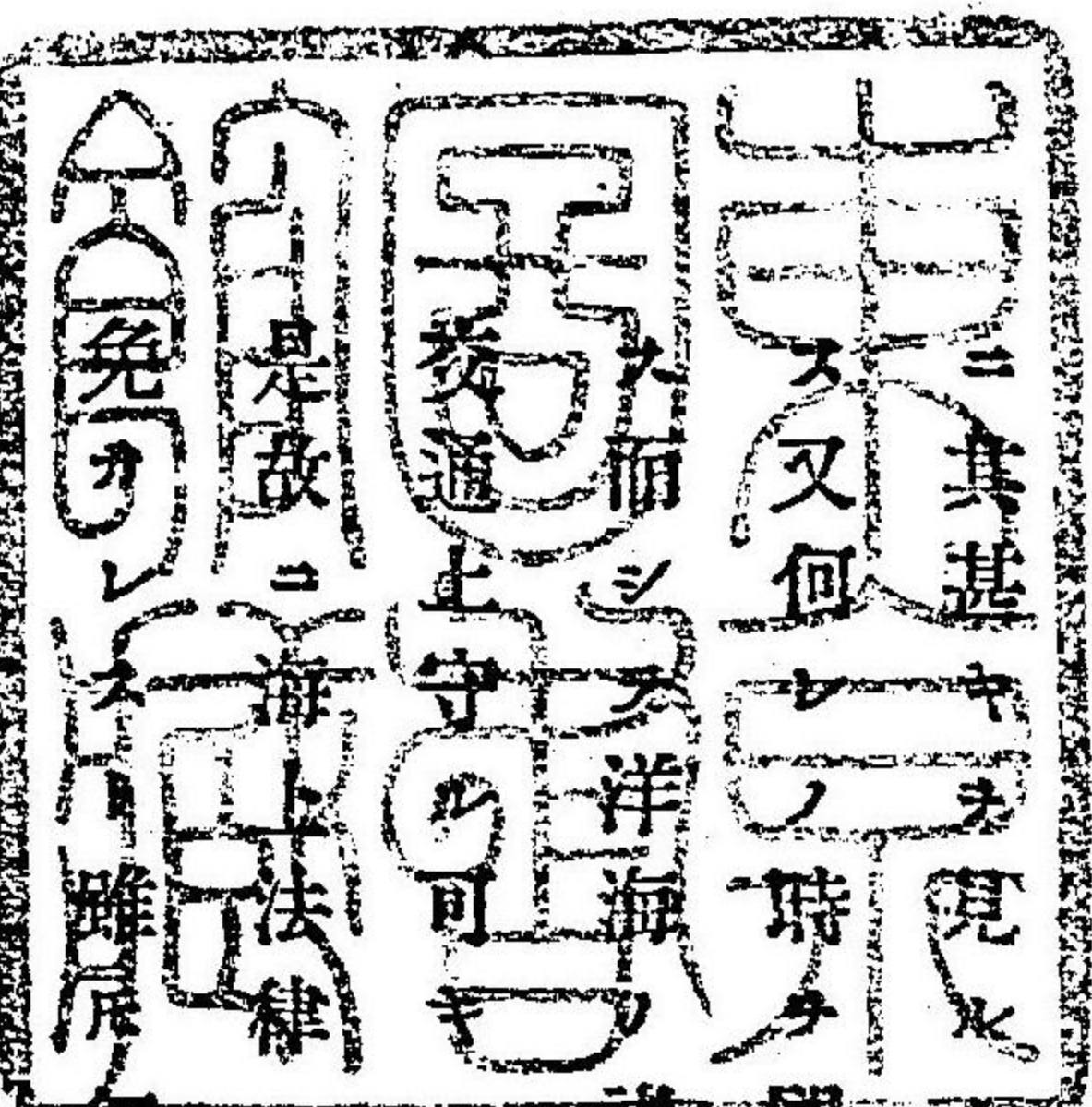
第三章 海船ノ衝突ノ事(第千三百二號乃至第千三百四號)

第十二卷 投荷及損失分擔ノ事(第千三百五號)

七

第二編 海上通商

(第千八百號) 抑々商法ハ時代ニ付テ觀ルルキハ古今不變ノ性質ト地方



ニ付テ觀ルルキハ萬國普通ノ性質トヲ帶有スト雖凡海上法律ニ於テ殊
ニ其甚キヲ見ルナリ海上交通ニ依リ生スル諸需要ハ何レノ國ヲ問ハ
ス又何レノ時ヲ問ハス均一ニシテ其起ルヤ諸國ニ於テ其由來ヲ同フ
大抵シテ洋海ノ諸國人民ヲシテ常ニ交通セシメタルヲ其人民ヲシテ
交通ニ守ル可キ制法ハ彼我相同シキヲ要スルヲテ判定セシメタリ
是故ニ海上法律ヲ諸元則ハ其詳細ノ事件ニ至テハ些少ノ差異ナキヲ
免カレシメ雖凡何レノ國ヲ問ハス相同シキモノナリトス即チ余輩ハ
古代ヨリ存スル海上法律ハ多クハ相同シキヲ示シタリ(第八丁以下)

今世ノ各種ノ法律ニ於ケルモ同一ナリトス
余輩ハ海上通商ニ關スル立法ノ沿革ヲ再說セズ蓋シ余輩ノ已ニ論シ

タル如ク商法ノ沿革ハ久時ノ間ハ海上法律ノ沿革タルニ過キス而シテ此書ノ初メニ海上通商ノ沿革ノ事ニ付要領タルモノヲ枚擧シタリ余輩ノ爰ニ唯々再言ス可キヲアリ乃チ夫ノ有名ノ千六百八十一年ノ王令第二編及ヒ第三編ニ係ルモノハ吾カ商法典第二編ノ模範トナリタルモノニシテ多クハ其正條ヲ全ク取リタルモノアリ且其王令ノ註解者ナル「ウレン」エメリゴン「ボチエー」ノ諸氏ノ如キハ尙ホ今時法律ヲ解スルニハ最良ノ解釋者タリト言フ可キナリ○又夫ノ王令ノ其他所諸編即チ第三編第四編又第一編ノ如キハ（我カ司法構成及ヒ行政構成ノ變更シタルニ依リ多クハ改正ハナシタルドモ）尙ホ當時行ハルノモノタルコトヲ余輩ハ再言セサルヲ得ス其諸編ノ諸規則ハ殊ニ港内取締及ヒ海獵ノ事ニ付又特ニ商事上ノ點ニ付海岸又ハ海上ニ於テ發見シタル物件或ハ難船ヨリ到來シタル物件上ニ存スル諸權利ノ處

分定則及ヒ乗組人ノ拋棄シタル海船ノ救助ノ事ニ付尙ホ適用ス可キモノタリ

航海ノ一般取締規則ノ事我カ海船ヲシテ外國ノ海船ト競争セシムルタメ設定シタル保護ノ諸規則ノ事及ヒ多クハ此保護ノ目的ヲ以テ折衷設定シタル關稅ノ事ニ付テハ余輩ハ保護主義ト自由貿易主義トニ付テノ我カ立法ノ定則ヲ説キタルヲ說明シタリ（以上第四百二十四號以下參觀）又其時ニ余輩ハ噸稅、船旗稅、倉庫稅ノヲ殊ニ說明シタリ故ニ之レヲ再言スルヲ要セストス

（第千百九號）商法典第二編ハ千八百七年ノ頒布以來之ヲ變更シタルヲナシ二三ノ法令其細則ノ諸條ヲ改正シタルノミ余輩ハ之レヲ講スルヲ說明ス可シ○近頃今世ノ需要ト今世ノ經濟上ノ理論トニ我カ海上法律ヲシテ調和適合セシムルタメ之レヲ修正スルヲ務メタリ己

ナ書入質ニナスヲ得可シトセリ(第一卷第二卷參看)

(第千百十二號) 第二 運送諸員

運送諸員トハ左ノ如シ

(第一) 海船ノ所有者 海船ノ所有者ノ權利ニ付海船共有ノ場合ニ

於テハ特別ノ事アリトス海船共有ノ場合ハ實際最モ多クアルナ

リ(第三卷)

(第二) 艤船者 艤船者トハ海船ハ何所ヘ航行ス可キカヲ決定スル者

ヲ云フ即チ海船ヲ艤裝スル者之ヲ詳言スレハ決定シタル航行ヲ

ナサシムル爲メ海船ノ諸具ヲ備付シ乗組人ヲ組織シ糧食ヲ備供

スル所ノ者ヲ云フ指定ノ港ニ運送ス可キ荷物ヲ供出スル積荷人

ヲ搜索スルハ場合ニ因リ又其任タリ○艤船者ハ多クハ海船ノ所

有者タルコトアリト雖モ又自己ノ要用ノ爲メ又ハ他人ノタメニ運

送ヲナスニ付キ海船ノ全部ヲ賃借スル者タルコトアリ

(第三) 船長 船長ハ海船航行ノ指揮ヲナスモノナリ故ニ海船ノ安

着スルコトニ利害ヲ有スル各種ノ人ハ代理者タリトス即チ共有者

ニ對シテハ海船ノ所有權ニ關スル一切ノ事ニ付、艤船者(所有者タ

ルト否トチ問ハス)ニ對シテハ運送ノ事又ハ賃借ノ名義ニ於テ海

船ノ使用ノ事ニ付、積荷人ニ對シテハ荷物ニ注意ヲナス事ニ付、其

各人ノ代理者タルナリ此積荷人ノ代理者タルコトニ付テハ船長

ノ權利及ヒ義務ハ契約又ハ場合ニ依リ其境域ニ於テ伸縮スルコ

トアリ若シ積荷人其荷物ヲ監督セシムル爲メ特別代理者即チ所謂

「シユブレカルグ」ヲ撰任シタルトハ船長ノ權利義務ノ境域大ニ短

縮スルコトアリ○其他今余輩ノ示シタル一切ノ場合ニ於テハ船長

ノ代理ノ事ニ關シ通常一般ノ度ヲ超越シタル規則數多アリ其故

何トナレハ船長ハ代理委任者ト非常ニ遠ク隔絶シ且不慮ノ事變ニ許多逢遭スルコトアルヲ以テ自カラ諸事ヲ必ラス斷決セサルヲ得ス而シテ之レヲ斷決スルニハ重大ノ權力ヲ有セサルヲ得サレハナリ

(第四) 水夫及ヒ乗組人

水夫及ヒ乗組人ニ付テハ第五卷ニ於テ其雇入契約ニ關スル諸要件ヲ規定ス

(第千百十三號) 第三 運送契約

運送契約ハ實際ニ於テハ海船ノ全部又ハ一部ノ賃貸借契約ノ姿ニテ顯ハル、チ常トス何トナレハ示定ノ海船ヲ以テ荷物ヲ運送スルコトヲ約スルハ歸スル所約スル者ニ付テ云フキハ運送ノタメ海船ヲ賃貸スルコトニシテ其約ヲ受ル者ニ付テ云フキハ其海船ヲ賃借スルコトナリ此海船ノ全部又ハ一部ノ賃借ヲ「アフレットマン」又ハ「ノリスマン」ノ契

約ト云フ其語ハ異ナリト雖モ其意義ニ至テハ差異ナキナリ(第二百七十三條參看)

此契約ニ左ノ二種ノ書付付屬スルモノトス

(第一) 「シヤルト、ハルチ」(第六卷參看)譯シテ海船賃借書 海船賃

貸借書トハ「フレット」譯シテ海船賃主ヨリ(船長多クハ其名代ト

ナル或ハ兼テ海船ノ所有者タルコトアリ或ハ又艦船者タルコトアリ)何々ノ荷物ヲ運送スル爲メ「アフレット」譯シテ海船賃主ノ使

用ニ海船ヲ供スルコトヲ約束スルコトト海船賃借主ヨリ運送賃料

即チ「フレット」ヲ拂フコトヲ約束スルコトト證明シタル書付ニシテ即

チ海船賃貸借契約ノ證書ナリトス(第八卷參看)

(第二)積荷目録 積荷目録トハ船長ニ荷物ヲ引渡シタルコトヲ證明

スル書付即チ海船賃借主ヨリ海船賃貸借契約ノ一部分ヲ執行シタ

ルコトヲ證明スル書付ナリ依テ此書付ハ荷物ヲ運送スルコト、之レニ一切ノ注意ヲナスコト、ノ船長ノ負擔シタル義務ヲ新章ニシ且之レヲ定固ニスルナリ則チ陸上運送契約ニ於ケル如ク荷物ノ引渡アルニ依テ前ノ本契約ノ補約即チ新契約起生スルナリ(以下第五百三十八號參看)

(第千百十四號) 第四 海上危險

海船及ヒ其載積スル所ノ物品ハ千種万般ノ災變ニ依リ著大ノ危險ヲ受クルコトアリ而シテ其千種万般ノ災變ヲ總稱シテ「フタルチ」「イヌド」「メー」「ル」又ハ「シ」「ニ」「スト」今譯シテ「海難」ト云フ此海難ノ爲メ海船及ヒ其載積スル所ノ物品全ク消滅スルアリ又ハ全ク消滅スルコトナキモ或ハ著大或ハ輕少ノ毀損即チ「アウ」「ワ」「リ」譯シテ海上損失ヲ受クルコトアリ、常則チ以テ論スルキハ消滅又ハ海上損失ハ(第十一卷參看)海難ヲ受ケ

タル物件ノ所有者之ヲ負擔ス(第百條參照)但シ其消滅又ハ海上損失某人ノ過失ニ依リ起生シタルキハ此例ニ非ス此場合ニ於テハ其過失アル某人ニ對シテ所有者ヨリ償ヲ要求スルコト得是レ「ア」「ヴ」「リ」「セ」「ン」譯シテ「單一海上損失」即チ「ア」「ウ」「リ」「ハ」譯シテ「特別海上損失」ト稱スル通常ノ海上損失ノ場合ノミニ全ク適施スル規則ナリトス然レモ「ア」「ウ」「リ」「コ」「ン」譯シテ「普通海上損失」即チ「ア」「ウ」「リ」「グ」「ロ」譯シテ「重大海上損失」ト稱スルモノ即チ積荷ト船舶トノ安全ヲ圖ルタメ海船又ハ積荷ニ故ラニ受ケシメタル損害アル場合ニハ其規則ヲ適用セズ此損害ハ海船又ハ荷物ニ關係ヲ有スル諸人ニ其利益ノ割合ヲ以テ分擔セシム(第四百一條)其處分上ノ則例チ「コ」「ン」「ト」「リ」「プ」「ユ」譯シテ「損失釐償例」ト云フ是レ第十二卷ニ定メタル「ゼ」譯シテ「投荷ノ場合即チ海船ト積荷トヲ救助スルタメ其二三ノ物品ヲ海中ニ投入

運賃主之ヲ受クルナリ其他少細ノコトニ付テ論スルハ猶ホ數多ノ差
異アリ余輩ハ後ニ之レヲ説ク可シ

(第千百十五號) 第五 期滿得免

商法典第二編ノ最終ノ二卷ニ於テ海上事件ニ適用ス可キ短縮ノ二三
ノ(ア。レ。ス。ク。リ。ブ。シ。ヨ。ン)譯シテ期滿得免ノ事ト(第十三卷拒訟ノ事ト)
定ム拒訟ノ事ハ最モ短縮期滿得免ノ如ク看做ス可キ得可シ(第十四卷
余輩ハ以上記シタル略論ニ於テ指定シタル順序ニ從ヒ講説ヲナス可
シ其順序ハ最モ論理上ノ順序ニ適合ス依テ余輩ノ講説ヲ以テ最モ確
明ニシテ且ツ商法典ノ順序ト大異ナシトス唯々第九卷第十卷第十二
卷第三卷ヲ前後シタルノミ

第一卷 「ナウイール」海船及ヒ「テートル、パチマン、ド、メール」其他海用
ノ諸船

(第千百十六號) 「ナウイール」譯シテ海船ナル語ハ形体ノ如何ト諸器械
裝置ノ如何ト大小ノ如何トヲ問ハス海用ニ供スル一般ノ諸船ヲ總稱
スル術語ナリ實際ニ於テハ海船ニ形体ノ如何ト諸器械裝置ノ如何ト
大小ノ如何トニ依リ種々ノ名稱アリ「トロワ、マー」(三檣船ノ名)ト云ヒ「ブ
リツク」(二檣小船ノ名)ト云ヒ「バルク」(船名)ト云フガ如シ「ナウイール」即チ
海船ナル語ハ皆之ヲ總括シテ指言ス

以上論スル所ニ因テ觀ルルハ「テートル、パチマン、ド、メール」譯シテ其他
海用ノ諸船ノ語ハ本卷ノ題目ニ置クハ重複ニシテ全ク不要タルガ如
シ(此語アルキハ重複ニシテ不要タルノミナラス「バルク、ト、ブレザンス」
(遊散船)ノ如キ實ニ航海ヲサハル或船ヲモ海船トシテ論スルコト
得)然レモ其語アルモ敢テ無益ニアラサルナリ是レ商法典編纂録ニ於
テ証表スル所ナリ本卷ノ定規ハ勿論第二編ノ諸定規ハ海用ノ諸船舶
ノミニ適用ス可キモノニシテ特ニ「バート、ト、河船」ト稱スル河川ニ用キ

ル諸船舶ニ決シテ適用ス可キモノニアラサルヲ是レ其數語ノ示ス所ナリ○「ウエリ」ノ語ハ通俗言語ニ於テハ「ナウイール」ノ語ト同様ニ用キルト雖モ少シク學術上ニ關スル言語ニ係ルキハ政府ノ軍艦ノミチ指言ス但シ「マルセイユ」府ニ於テハ其例ニアラズトス

海船トハ木材又ハ鐵材ヲ以テ建造シタル所ノ航海ニ供用スルモノヲ云フ而シテ其附屬物ト共ニ分ツ可カラサル一体ヲ成ス故ニ「ナウイール」即チ海船ノ語諸法令中又ハ諸證書中ニ用キラレタルキハ「コイル、デユナウイール」譯シテ船身ヲ包含スルノミナラス尙ホ「ア、ク、レ、イ、エ、ア、バ、ロ」譯シテ諸船具ヲモ包含ス而シテ諸船具ノ語ハ「檣、柁、バ、ス、テ、ン、ガ、イ、ヂ」ユノ如ク全ク海船ト一部ヲ成シテ海船ヲ毀損スルニ非ラサレハ分離スルヲ能ハサル所ノ附屬物ハ勿論又「ウエルク」(帆架)「ブ、ー、リ、ー」(荷揚器)「カ、ベ、ス、タ、ン」(荷卷揚車)「鐵、シ、ヤ、ル、ー、ア」(艇)ノ如ク唯々ニ海船ニ附着シ又ハ船

用ニ供用スル所ノ一切ノモノヲ含蓄スルモノトス此等ノ物件ハ使用ニ依テノ不動産ノ如ク其附着スル所ノ物件ノ一部ヲナスナリ而シテ其附着スル實ニ附着スルトト又附着シタル如ク看做ス可キトテ問ハサルナリ○此等ノ物件ハ船身ノ語ヲ廣漠ノ意義ニ用キルキハ皆其中ニ包含ス例ヘハ船身ノ語ヲ「フ、ワ、キ、ユ、ル、テ、ー」(船能)即チ船ノ載積スル所ノ荷物ト相對シテ用キルキノ如シ

海船ハ古昔佛蘭西ノ或地方ニ於テ例ヘハ「プロウエンス」州ノ諸港ノ如キニテハ不動産ノ如ク看做サレタリ故ニ此等ノ地方ニ於テハ海船ハ書入質トナスヲ得又「ルトレ、リ、グ、ナ、ゼ、ー」(賣主ノ近親ノ家族ガ買主ニテ取還スル)譯シテ家産取戻ノ訴權ヲ受ケ又「ロ、ー、ド、ニ、バ、ン」(貴族己ノ於テ土地家屋ヲ賣買ス)譯シテ不動産買賣稅ヲ拂フ可キモノトセリ千六百六十六年十月八日「エ、デ、イ、ー」(法令)ハ海船ハ佛蘭西國內一般ニ總テ

動産ナリト公布シタリ爾來動産ノ書入質權ヲ許スノ諸州ヲ除クノ外
 他ノ諸州ニ在テハ不動産ノ書入質ヲナスコトヲ得スシテ動産書入質規
 則ニ從フモノトナリタリ千六百八十一年ノ法令ハ亦其誤謬ニ倣ヒ全
 ク動産トセリ因テ商法典モ亦海船ハ動産ナリトシタリ(第九十條)然
 レモ海船ハ其形体著大ニシテ其價額巨大ナルヲ以テ觀ルキハ種々ノ
 點ニ於テ不動産ニ類似ス近頃頒布シタル新法ハ海船ニ書入質權ヲ付
 スルコトヲ許シ以テ又一層不動産ニ類似スルモノトセリ

海船ニ係ル諸規則ハ多クハ行政法ト航海取締規則トニ屬ス之ヲ説ク
 キハ事細少ニ流レ繁劇ニ涉ルヲ以テ余輩ハ之ヲ講ゼス千八百六十六
 年十一月七日ノ「レীগロマンゼチター」譯シテ總規則書(第四編第百
 四十一條以下)ニ就テ其全体ヲ見ル可シ(余輩ハ此總規則書ヲ引用スル
 一、マリチーム(海上區)スーカルチエ、マリチーム(海上小區)センデイカ、
 マリチーム(海上分區)ノ組織條例ト海上登記ト海兵募集ト航海取締ト

海獵トニ係ルナリ其目的トシタル所ハ諸法令諸勅令諸規則等ノ中
 ニ散乱シテ諸規則ヲ拾集序定スルニアリ此等ノ規則ヲ三百十三條
 ニ公賦シテ簡明ニシテ各條例ノ下ニ之レヲ如何ナル法律ヨリ拾取シ
 タルカヲ示ス決シテ新定ノ勅令ニ依リ認可サレタリ故ニ其總規則書ハ千
 八百六十六年十一月七日ノ勅令ニ依リ認可サレタリ故ニ其總規則書ハ千
 ン、デ、ロ、ワ、一、法、令、公、布、誌、ニ、記、載、セ、サ、リ、シ、ナ、リ、此、書、ハ、官、ノ、印、刷、局、ニ、於、テ、
 一冊ニシテ刊行シタリ賣物ニアラサルヲ以テ海(余輩ハ二章ニ於テ第
 一、海船ニ出願スルニ非ラザレハ得ルコトヲ得ス)余輩ハ二章ニ於テ第
 一ニ海船ノ名籍第二ニ海船ノ所有權ノ管理法ヲ説カン

第一章 海船名籍

(第千百十七號) 海船ノ所屬ノ國ヲ定ムルハ甚ク緊要ノコトニ殊ニ關
 稅ノ點ニ於テ最モ切要ナリ何トナレハ余輩ノ已ニ説キタル如ク(第四
 百二十七號第四百二十八號)關稅ノ徵收及ヒ其額ハ佛蘭西ノミナラス
 又外國ニ於テモ海船ノ懸揚スル所ノ旌旗ニ從フテ別アレバナリ又國
 際法ノ點ニ於テ亦最モ緊要ナリ何トナレハ海船ノ所屬ノ國ノ如何即
 十某旌旗ヲ有スルノ權ニ付甚ク緊要重大ナル許多ノ結果ヲ生スレハ

ナリ例トヘハ自國ノ交際官吏ノ保護又ハ海陸ノ軍兵ノ保護ヲ受クルノ權又ハ治外法權等ノ生スルカ如シ

海船ノ所屬ノ國ヲ定ムルハ不動産ニ於ケルト大ニ異トナリ海船ハ確定ノ位置ナク又國土ノ一部ヲナサス而シテ之ヲ定ムルハ最モ大切ナルモノナルヲ以テ動産ニ適用スル所ノ規則ヲ海船ニ適施セス此規則ニ依ルキハ動産ノ所屬ノ國ト其從フ可キ法律ハ其所有者ノ所屬ノ國ニ從フテ變スルモノトス(民法典第三條及ヒ此條ノ註解參看)

海船ノ所屬ノ國ハ入ニ於ケルト同シ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム此規則ハ所謂ノ海船ノ佛國船トシテノ要件ヲ規定ス此事件ニ於テハ海船ハ人ノ如ク取扱ハル、ナリ其他ノ事件ニ付テモ亦然ルアリ而シテ規則ニ從ヒ定メラレタル名稱(エター、シウイール)ヲ有ス(英語ニテハ亦海船トナリ故ニ男女ノ性ヲ有セタル物ニ於テハ中性ヲ用ルルヲ規則トスト雖モ海船ヲ言フニハ之ヲ女性トス是故ニ軍艦ヲエ、メ、ン、ヌ、ヲ、フ、ウ、オ

一ルト云フ即チ軍人ト云フノ意ナリ○又クレスプ及ヒローレン(二氏ハ猶ホ一步ヲ進メ我カ法律ニ於テ海船ハ民事上ノ人ナリトセリ)五十九)故ニ海船ニハ必ス名前ナカル可カラス千八百三十六年七月五日ノ法令第八條ニ於テ海船ノソノ体ヲ爲シテ存スルノ間ハ其名前ヲ變改スルヲ固ク禁ス此名前ハ海船ノ定繫港ノ名ト登記番号ト共ニ高サ少ナクモ八サンナメートルノ白字ヲ以テ舳ニ於テ黒地ノ上ニ記スヘキモノトス(千八百五十二年三月十九日敕令第六條)○千八百六十六年總規則書第七十一條參看○又海船ハ法律上ノ住所(ドミシール、レガール)ヲ有ス即チ其ポール、ダク、イ、シ、ユ、譯シテ定繫港ナリトス(千八百六十六年總規則書第七十條參看)其定繫港ニ於テ海船ハ海員ト同シク海上登記局ノ簿冊ニ登記サレ且又關稅局ニ登記セラレ、モノトス(千八百六十六年總規則書第六十八條乃至第七十六條參看)又海船ハ國旗ノ外ニ其屬スル海上區ノ特旗ヲ有セザルヲ得ス(千八百十七年十二

月三日王令第三條(定繫港ハ許可ナク變換スルヲ得ス(千八百六十六年總規則書第七十二條)而シテ此許可ヲ請フキハ必ス之ヲ拒ムヲ得サルナリ外國ニ於テ海船ヲ賣拂フコ付履行ス可キ法式ハ千八百六十六年ノ總規則書第七十三條乃至第七十六條ニ就テ見ル可シ○海船ハ航行免狀ヲ有スルヲナク航行ヲナスヲ得ス(以下第千二百一十一參看)○又海船ノ所有權ヲ移轉(即チ其身分ノ變換ニ均シ)ハ皆ナルヲストル、マトリキエール譯ノ船名簿ト佛國船證書トニ記入シテ以テ證明ス佛國船證書ハ船名簿ノ抜書ノ如シ(以下參看)

(第千百十八號) 佛國船タルノ諸要件(千八百六十六年總規則書第四百一十一條參看)

第一要件

古昔ニ於テハ海船佛國又ハ其所領ノ地ニテ製造サレタルヲアルヲ要シタリ(千七百九十三年九月二十一日法令第二條)

以テ佛國船舶製造人ヲ保護スルノ一法トナシタリキ○去レモ當時已ニ其例外ヲ設ケタリ即チ第一コハ敵ヨリ奪取シ又ハ佛國政府ニ於テ没入シタル諸海船(千七百九十三年九月二十一日勅令第二條)第二ニハ大海ニ於テ佛國人ノ救助シテ法律上ノ期限内ニ請求ナキヲ以テ賣拂フタル諸海船(千六百八十一年王令第二十七條)千八百三十二年六月一日ノ決定第三ニハ海岸ニ投棄シタル諸船ニシテ佛國政府ニ依リ賣拂フタルモノ、此等海船ニ付テハ佛國船タルニハ佛國又ハ其所領ノ地ニ於テ製造セラル、ヲ要セストセリ但シ第三ノ場合ニ就テハ其海船ハ佛國又ハ其所領ノ地ニ於テ其賣買ノ價額ヨリ少ナクモ四倍ニ適スル金額ヲ要シタル修復ヲ受ケタルヲ要ストセリ(共和政第十一年ウワンデミニール第二十七日敕令第七條)

前ノ一般規則ニ一時ノ種々ナル例外ヲ設ケ且又通商條約ニ於テ各國ノ海船ノタメ其一般規則ニ反シタルコトヲ定メタリ遂ニ此一般ノ規則ハ商船ニ關スル千八百六十六年五月十九日ノ法令ヲ以テ全ク廢止シ此法令第三條ニ於テ外國海船ト雖モ船積一噸ニ付二フランノ輸入税ヲ拂フニ於テハ佛國船タルコトヲ得ルコト自由ナリトセリ此稅額ハ千八百七十二一年一月三十日ノ法令第五條ヲ以テ著シク増加シタリ

第二要件

從前ハ海船全部佛國人ニ屬スルコトヲ要シタリ今日ニ在テハ其所有權ノ半部佛國人ニ屬スルヲ以テ足レリトス(千八百四十五年六月九日法令第十一條)

第三要件

海船ニ乗組ム所ノ海員ハ佛國人タルヲ要ス即チ船長及ヒ船内諸役員ハ皆チ必ス佛國人タルヲ要ス且氷夫ノ四分ノ三

ハ亦タ佛國人タルヲ要ス(千七百九十三年九月二十一日ノ法令第二條)

(第千百十九號) 佛國船タルコトヲ失フコト

海船ノ佛國船タルコトハ一噸ニ付六フラン以上ノ代價ニ付外國ニ於テ修復ヲ加ヘタルニ依リ失フ可シ但シ船長及ヒ其他船内役員ノ數名ノ手署シタル報告書ニシテ土地ノ便宜ニ依リ佛國領事又ハ其地ノ佛國官吏又ハ其土地ノ商人二人ノ認メヲ受ケタルモノヲ以テ其修復ヲ要スルコトヲ證明シタルキハ其例ニアラストス(千九百九十七年十月十八日勅令第八條)又海船ノ形体或ハ噸數等ヲ變更シタルニ依リ佛國船タルコトヲ失フ可シ但シ此場合ニ於テハ再ヒ佛國船タルコトヲ得ヘシ(第千百二十號)「アクト、ド、フランシザシヨシ」譯シテ佛國船證書(千八百六十六年總規則書第四百十五條乃至第四百六十條參看)

佛國船證書トハ海船ノ所有者ニ渡サハル書付ニシテ佛蘭西ノ國旗ヲ
掲揚スルノ權ト其權ニ屬スル諸利益ヲ得ルノ權トヲ證認スルモノナ
ク云フ(千八百六十六年總規則書第四百十五條參看)

此證書ハ海船上登記局ト關稅局トノ船名簿ニ依リ之ヲ渡スナリ(共和
政第十一年ウツンデミエール)廿七日敕令第三十九條及ヒ千八百六十六
年總規則書第五百十二條參看)此船名簿ニハ海船ハ其海船ニ相違ナキ
ヲ認定セシムル總テノ事件ヲ記載ス即チ艤裝シタルト艤裝ヲ解キ
タルトノ一切ノ事所有者ノ變更海船ノ消滅又ハ其航海スルト能ハサ
ルキハ其屆等皆ナ之ニ記載ス此等ノ事件ハ又所有者ノ求メニ依リ佛
國船證書ノ裏面ニ之ヲ記入ス可キモノトス(共和政第十一年ウツンデシ
エール)二十七日敕令第條〇千八百六十六年總規則第五百十四條)此記
入ハ關稅局ノ官吏之ヲナスナリ是レ海船ノ所有權移轉ノ最モ貴重ノ

公告ノ一方法タルナリ(以下第千百四十七號第千百五十號第千百五十
二號參看)

佛國船證書ハ前ノ如ク船名簿ニ依リテ渡スノミナラズ又海船ノ所有
者ノ佛國船タルニ付テノ一切ノ要件ヲ履行シタルヲ誓ヘ(共和政第十
一年ウツンデミエール)二十七日ノ敕令第十三條但シ此條ハ千八百四十
五年六月九日法令第十五條ト參照ス可シ及ヒ千八百六十六年五月十
九日法令但シ此法令ハ佛國船タルヲ要件ヲ變更シタリ)且此證書ヲ
決シテ賣リ貸シ又與フルヲナキノ保証人ヲ立ツルニ非ラザレハ之ヲ
其所有者ニ渡サス(共和政第十一年ウツンデミエール)二十七日敕令第十
六條及ヒ千八百六十六年總規則書第四百十七條第四百十八條參看)〇
海船ノ所有者ハ又常ニ海船ヲ佛國ニ運廻スルヲノ保証人ヲ立ノルヲ
要ス

(第千百二十一號) 又右證書ハ海船ノ「シヤウシヤシ」譯シテ船積量定
 ノ後ニ非ラザレバ之ヲ渡サス何トナレハ其噸數ヲ記載スルハ海船ハ
 其海船ニ相違ナキヲ認定セシムルノ諸元素中ノ一タレハナリ此諸
 元素ハ皆ナ之ヲ船名簿ト佛國船證書トニ記載スルヲ要ス又之ヲ記載
 スルモノハ關稅局ナリトス(且噸數ハ「メートル」ノ前面ト後面トニ
 十四日ノ敕令第一條)○ボ「ト」ハ少ク上ニ曲形ヲナシ横ニ通リタル柱
 ニシテ甲板ヲ支ヘル者ナリ(「メートル」ハ船副ノ最モ廣キ所ニ横
 柱ヲ云フ)○海船ノ噸數(「ト」ナリ「シヤ」ハ其容積高ヲ示スモノニシテ即
 チ其包含スル所ノ「ト」ノ數ヲ示表スル所ノ數ナリ「ト」ノ語ハ此
 所ニテハ海船ノ大サ又廣サノ度量ト解ス可シ即チ海船ノ容積上ノ噸
 (「ト」)ナリトス(「ト」ノ語ノ種々ナル意義ニ付テハ以下參看即チ第
 四百七十六條參看)千六百八十一年ノ王令ニ於テ「ト」即チ一噸ヲ
 二十四「ピエ」度量ノ名立方ナリト定メタリ今日ニ在テハ「メートル」立

方四十四「サン」チ「メートル」ニ當ルナリ今マ容積ノ噸ト重目ノ噸トノ關
 係ヲ説カン夫レ重目ノ一噸ハ目方一千「キロ、グラシム」ニ當ル(共和政第
 九年「ブルエメール」十三日ノ布令)○同三年「セルミナール」十八日法令若
 シ之ヲ水又ハ水ノ重力ト同シキ重力ノ物件ヲ以テ其目方コテ度リ之
 チ積ミ直シテ量ルトキハ「メートル」立方積ニ當ルナリ然ルニ常ニ船
 舶ニ積載スルノ物品水ト同一ノ重力アルコトナシ或ハ水ヨリ重力ノ重
 キモノアリ或ハ水ヨリ輕キモノアリ(此如ク差異種々ナルヲ以テ海船
 六十一年八月二十五日ノ勅令ヲ以テ荷物ノ各種ニ付キ特ニ「噸數」ハ「千八百
 定メタリ其數甚タ相異ナルモノトス以上第四百七十六參看)而シテ船
 舶ハ或ハ其重キモノヲ積載シ或ハ其輕キ物ヲ積載ス故ニ必ス彼此ノ
 重力ノ平均數ヲ求メサルヲ得ス海船ニ積載スル物品ノ平均ノ重力ハ
 水ノ重力ノ百分ノ七即「ト」チナルコトヲ求メ得タリ故ニ水一噸ノ積即チ
 「メートル」立方チ「ト」チ以テ除セザルヲ得ス然ルキハ左ノ數ヲ得

143 即チ「メートル」立方四十三サンチメートルナリ之ニ依テ觀ルキハ古昔ノ量目ニ關スル舊規則ニ依リ得ルノ數ト大低同シキモノヲ得ルナリ

「シヨジャールシユ」即チ船積量定トハ海船利用スルコトヲ得可キ容積ノ全部ヲ算定スルコトナリ此算定チナスノ方法ハ以前ニ在テハ共和政第十一年「ニウチーズ」十二日ノ法令及千八百三十七年十一月十八日ノ王令ニ於テ定メタリ爾來數十年ノ經驗ニ於テ其精密ナラサルコトヲ知リ依テ千八百七十三年五月二十四日ノ勅令ヲ以テ改正ヲナシタリ此勅令ニ於テハ英國ニ行ハル、所ノ法方ヲ採用シタリ此勅令ハ海船ノ内部ノ空虛ノ所ノ「メートル」立方ノ全容積ノ數ヲ大抵正密ニ得ルノ方法ヲ示シテ其得タル全數チ「283」ノ數ヲ以テ除スヘシトセリ如此除方チナスキハ海船ノ主タル容積ヲ得其除シテ得タル數ニ甲板上ニアル建

造物ノ廣積ノ數ヲ加ス可シ而シテ蒸氣船ニ付テハ其加シテ得タル數ヨリ機械ノ領スル場所ノ廣積ノ數ヲ減ス可シ如此クスルキハ海船ノ公認ノ噸數ヲ得可シ即チ海船ノ利用ス可キ容積ヲ公正ニ示指スル所ノ數ヲ得ルナリ

283 ノ數ハ右勅令ニテ英人ノ用キル起數即チ「百」立方ニ當リタルモノトシテ採用シタリ佛國政府此數ヲ採用シタルハ單ニ諸國ニ於テ噸數ニ準シテ大低徵収スル所ノ數多ノ稅ヲ佛國ノ海船ヲシテ外國ノ海船ヨリ少シク拂ハシメテ其取扱方ヲ善良ニセント欲セシナリ然ルニ此 283 ノ分母ハ甚タ過數タルハ明然タリ因テ公認ノ噸數ハ實際海船ノ利用ス可キ容積ノ數即チ海船ノ「ポートル、レ、ル」ヨリ少ナリトス其差數十分ノ八弱ナリ故ニ一海船ニシテ公認ノ噸數ハ百噸ナルキハ實際千噸以上ニシテ目方ニテ千「キロクランム」以上ヲ積載ス又容積ニ付

テ云フキハ其目方ニ適合スル容積アルモノトス

千八百七十三年五月二十四日ノ敕令頒布サレタルニ因テ舊ノ「メートル」立方四十四「サンチメートル」ノ噸數ハ海船ノ容積ヲ量定スルニハ全ク益ナキモノトナレリ何トナレハ此數ハ己ニ示シタル算定ノ方法ニ於テ用サルフナケレハナリ然レモ此容積上ノ噸數即チ「メートル立方四十四」サンチメートルノ數ハ猶ホ要用チ存スルコトアリ余輩ノ己ニ説明シタル如ク商品千キロノ目方ニ適スル平均ノ容積ノ數ヲ示表ス故ニ「ポルドー」ニ於テハ荷物ノ運賃ハ目方千「キロ」ニ付若干又容積「メートル」立方四十四「サンチメートル」ニ付テハ若干ナリトシテ之レヲ定ムナリ

第二章 海船所有權ノ管理法

第九十條 海船及ヒ其他海用ノ諸船ハ動産ナリトス

然レモ海船及ヒ其他海用ノ諸船ハ其賣主ノ負債ニ引當ラレ且法律特權アリト定メタル負債ニ殊ニ引當ラレタルモノトス

(第一千二十二號) 此條ハ千六百八十一年王令(第二編第十卷第一條)及ヒ民法典第五百三十一條ノ後ニ於テ海船ハ動産ノ性質タルコトヲ示定ス是又海船ニ關シテハ普通法ノ重大ノ例外ヲ示ス此例外トハ海船ノ所有者ノ(債主ハ海船上ニ動産上ニ於ケルト同シク)追跡ノ權ヲ有スル是ナリ(第九十條第二項)又其最モ非常ナルモノハ追跡ノ權ハ其通常債主亦之ヲ有ストスル是レナリ(同條同項)然レモ其權ヲ消滅セシムルコト甚タ容易ナリトス(第九十三條參看)○又他ニ海船ニ特別ナル規則アリ即チ商法典ニ於テハ海船上ニ存スル諸特權ノ全ク特別ナル表ヲ示定シタル是レナリ○又千八百七十四年十二月十日ノ法令ハ普通法ノ新例外ヲ設定シタリ此例外ハ他ノ例外ヨリ最モ著シキモノトス

即チ此法令ニテ海船ニハ不動産ト同シク書入質權ヲ付スヲ得ヘシトセリ○茲ニ一言ス可キヲアリ未ダ法律ノ明文ナシト雖モ夫ノ動産ノ付テ占有ヲ以テ所有權アルノ證トスルノ規則ハ海船ニハ適用セス故ニ余輩ハ海船ニ適用スル期滿免除ノ付ニ付二三言ヲ陳ス可シ(以下第千百五十六號參看)

余輩ハ以下開説スル所ヲ四項ニ分チ第一項海船上ノ特權第二項債主ノ追跡ノ權及ヒ其消滅第三項海船ノ賣拂(附録ニ期滿免除ノ付ヲ述フ)第四項海船ノ書入質權トス(余輩ハ初テ海上法律ヲ學ブ者ニ論言ス此テ其事海上法律ノ他ノ部分ヨリ緊要タル少ナク依テ此章卷及ヒ次卷ヲ學フヲ後ニスヘシ後ニ之レヲ讀ムキハ益ヲ得ルヲ最モ多シトス)

第一項 海船上ノ特權
(第千百二十三號) 第百九十一條ハ海船上諸特權ノ表ヲ示シ第百九十二條ハ各特權ニ付其擔保スル所ノ諸債主權ヲ證明スルノ方法ヲ定ム

余輩ハ第百九十二條ノ諸定規ヲ悉ク註解セス唯々本條ヲ掲記シテ止ム可シ其諸定規ハ自カラ理解シ得ヘク又自カラ理解スルコト能ハサルモ余輩、後ニ與フルノ參考タル所ノモノニ依リ解釋セラル、可シ茲ニハ唯々第百九十一條ノ号數ト第百九十二條ノ号數ト相對合スルモノヲ示ス其解ハ此書中之レヲ解スルノ參照トナル事ヲ示ス所ニ就キ之ヲ求ム可シ

第百九十一條 以下記列スル所ノ諸債權ハ其記列ノ順序ニ從ヒ特權アリトス

- 第一 海船ヲ賣拂ヒ及ヒ其代金ヲ分派スルニ至ルニ付要シタル裁判費用及ヒ其他ノ費用
- 第二 水先案内税噸稅波戶塲稅碇泊稅繫塲稅
- 第三 船舶ノ港内ニ入りタル時ヨリ其賣拂ニナル迄船舶ノ監守人

ノ謝料及ヒ監守ノ費用

第四 諸船具ヲ藏ムル倉庫ノ賃賃

第五 最終ノ航海以來及ヒ港内ニ入リタル以來船舶及ヒ其諸船具ノ維持ノ費用

第六 最終ノ航海中ニ使用セラレシ船長及ヒ其他乗組人ノ給料及ヒ雇賃

第七 最終ノ航海中船舶ノ入用ノ爲メ船長ニ貸シタル金高并ニ其同一ノ入用ノ爲メ船長ノ賣拂フタル荷物ノ代價ノ償還

第八 海船未タ航海セサルキハ其供給者又ハ其製造ニ使用セラレタル工丁又ハ其賣主ニ支拂フ可キ金高及ヒ海船已ニ航海シタルキハ其出帆前船身ノ修覆又ハ食料又ハ艤裝又ハエキブマンノ爲メ物品ヲ供給シ又ハ工事ヲ爲シ又ハ勞役シタルニ付テノ諸債主

ニ支拂フ可キ金高

第九 海船ノ出帆前船身ノ修覆食料艤裝エキブマンノ爲メ船身龍材船具上ニ運賃シタル金高

第十 最終ノ航海ニ付負フタル船身又ハ龍材又ハ船具又ハ艤裝又ハエキブマンニ付爲シタル保險ノ賃料ノ高

第十一 海船賃借主ノ積入レタル商品ハ引渡ナキ爲メ其海船賃借主ニ支拂フ可キ賃金又ハ船長或ハ乗組人ノ過失ニ因リ其商品ニ受テシメタル海上損失ノ償還ニ付其海船賃借主ニ支拂フヘキ賃金

此條ノ每號ニ記スル諸債主ハ海船ノ賣拂代金ノ不足ナルキハ相共ニ高割ニ準シテ償還ヲ得ヘシ

第九十二條 前條ニ記シタル諸負債ニ付與シタル所ノ諸特權ハ左

ノ方法ニ依リ證明セラレタル時ニアラサレハ之ヲ行フ可カラス
第一 裁判費用ハ掛リ裁判所ニテ算定シタル費用目録ヲ以テ證ス
可シ

第二 噸税及ヒ其他ノ諸税ハ收税官ノ真正ナル受取書ヲ以テ證ス
可シ

第三 第九十一條ノ第一第二第三第四第五ニ記シタル諸負債ハ
商事裁判所ノ所長ノ算定シタル目録ヲ以テ證ス可シ

第四 乗組人ノ給料及ヒ雇賃ハ海上登記局ニ依リ造定シタル艤裝
帳及ヒ艤裝解散帳ヲ以テ證ス可シ

第五 最終ノ航海中海船ノ入用ノ爲メ借入レシ金高及ヒ賣拂ヒシ
商品ノ代價ハ船長ノ算定シタル目録ニシテ船長ト乗組人中ノ重
立チタル者トニテ手署セシ始末書ヲ以テ證ス可シ

第六 海船ノ賣拂ハ日附ノ儘カナル證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ又海
船ノ食料又ハ艤裝又ハエキアマンノ爲メ諸物件ヲ供給シタル
ハ船長ノ檢印シ艤船者ノ算定シタル目録又ハ勘定書又ハ覺書ヲ
以テ證ス可シ但シ海船ノ出帆前又ハ遅クモ出帆ヨリ十日内ニ其
覺書又ハ勘定書又ハ目録ノ一通ヲ商事裁判所ノ書記局ニ差出ス
可シ

第七 (千八百七十四年十二月十日ノ法令第二十七條ニ於テ廢止ス)

第八 保險ノ賃料ハ保險契約書又ハ保險世話人ノ簿冊ノ抜書ヲ以
テ之ヲ證ス可シ

第九 海船賃借主ノ得可キ償金ハ裁判言渡書又ハ仲裁判斷書ヲ以

(第一千二百二十四號) 第九十一條ハ特權ノ表ヲ示スノミナラス特權債主ノ分配ヲ受ク可キ順序ヲ定ム是レ其相互ノ等級ヲ定ムルニ付紛論ノ起ルヲ豫メ防クナリ如斯キハ民事ニ於テ動産上ニ存スル諸特權ノ特別ナルモノニ付テアラサル所ノ便利タリ(民法典第一千二百二條參看) ○商事立法者ノ因テ以テ教導トナシタル所ノ一般ノ諸元則ハ民法典ノ註解者カ第一千二百二條ヲ適施スルニ付キ論スル所ノ諸元則ト全一タリ第九十一條ニ於テ特權アル諸債主權ノ發生スル所ニ從ヒ其期ヲ三期ニ區別スルヲ得可シ即三期トハ第一最終ノ航海後(第一乃至第五)〇第二最終ノ航海中(第六第七)〇第三最終ノ航海前又ハ總テノ航海前(第八乃至第十二)ノ三トス最初ノ二期ノ一切ノ特權ハ海船ノ價額ヲ其所有者ノ資産中ニ保全シタルニ基クナリ此際ニ於テ債主トナリテ

ル者ハ凡ソ債主ノ引當品ヲ保全シテ他ノ一切ノ債主ニ益シタル故ニ此他ノ一切ノ債主ヨリ先キニ分配ヲ受クルハ至當ナリ若シ是理ヲ推シテ第九十一條ニ記ス所ノ特權ヲ有スル諸債主ニ及ホスキハ後ニ債主トナリタル者ハ先キニ債主トナリタル者ニ其特權ヲ行フ可キ財產ヲ保全シテ以テ益シタリ而ルニ先キニ債主トナリタル者ハ後ニ債主トナリタル者ニ一モ益シタルヲナシ故ニ理論上ニ於テハ此等ノ特權ヲ債主權ノ發生シタル日附ハ逆順序ヲ以テ列定スルハ至當ナリトハ乃チ一言以テ之ヲ云フキハ最新者ハ最舊者ニ勝優ス〇第三期ノ諸特權即チ第八ノ特權ハ負債主ノ資産中ニ貨物ヲ増加シタルニ基因ス第九第十第十一ノ特權ハ通常ノ動産ニ於テ所謂質入ノ點契約アルニ基因ス然レモ此場合ニ於テハ債主ハ其海船ヲ占有セサルカ故ニ質入ノ語ヲ用サルハ穩當ナラス依テ余輩ハ負債ノ辨償ニ契約者ノ存意ヲ

以テ特別ニ海船ヲ引當ニシ之ヲ法律ニテ見認メタルニ原因スト云フ
其實默許ノ特權アル書入質權タルニ過キス此第三期ニハ一般前期ノ
規則ト反對ノ規則ヲ適用ス可シ乃チ最舊者ハ最新者ニ勝優ス即チア
リヨール、タンボレイ、ボチヨール、ジュレ、是レナリ

一言スヘキコアリ 第九十一條各全項ニ記スル所ノ一切ノ債主ハ先
取權ナク相互ニ高割ヲ以テ分配ヲ受クルヲ以テ常トス(第九十一條
最尾)

第一 最終ノ航海後ニ生シタル債主權

(第千百二十五號)

第一〇海船ヲ賣拂ヒ及ヒ其代金ヲ分派スルニ至ルニ付要シタル裁
判費用及ヒ其他ノ費用(民法典第二千二百一條ノ第一比較)

此費用ハ特權債主ト否トテ問ハス一人モ取除ケナク一切ノ債主ノ爲

メニ費用シタルナリ何トナレハ其費用ヲ要シタル所ノ事件ハ其債主
カ支拂ヲ受クルニ付キ實ニ必要ノコトナレハナリ。是故ニ此項ニ於テ
定ムル所ノモノハ債主一般ノ利益ニ付キ要シタル所ノ費用ニ限ルモ
ノトナサ、ルヲ得ス而シテ各債主一己ノ利益ニ付キ要シタル所ノ入
費例ヘハ債主權ノ差出シノ費用又ハ故障ノ生シタルキハ其權利ノ有
無ノ證明スルニ付キ要スル費用等ノ如キモノニ此項ヲ適用スルヲ得
ス此等ノ費用ハ唯々其債主權ヲ増スノミニシテ其債主權ト同等ノ地
位ニ列ス(第二百十四條第二項)

(其他ノ費用)ノ語中ニハ海船ノ賣拂ヲ取リ行フニ付并ニ競賣ニ於テ其
海船ヲ買取リタル者ニ其船ヲ自由ニ使用スルヲ得ヒシムルニ付要
シタル費用ヲ計入ス可シ是レ競賣ノ代金ヲ拂ハシメ且之ヲ債主ニ分
配スルニ付必要ノ事件ノ一タルヲ以テナリ又其語中ニ例ヘハ海船ノ

賣拂前ニ關稅ニ付登記稅ニ付キ支拂フ可キ金高ニシテ法令ニ於テ特權アリトナシタルモノ、如キチ計入ス可シ然レモ關稅局ニテ海船所有權移轉ノ費用及ヒ海船競買者ノ爲メ登記ノ費用ハ之ヲ計入ス可カラス何トナレハ此等ノ費用ハ其競買者ノ負擔ニシテ其賣主ノ負フ可キモノニアラハレハナリ
此等ノ積主權ノ證明ニ付テハ第百九十二條第一項及ヒ第三項ヲ參看ス可シ

(第千百二十六號)

第二 水先案内稅、噸稅、波戶場稅、碇泊稅、繫場稅(第百九十二條第二比較)

此諸稅ハ海船ヲ安全ニ港内ニ碇泊セシムルニ付テ支拂フモノナリ唯々此諸稅能ク海船ヲシテ差押ヘ且之ヲ賣拂フヲ得セシム且海船ヲ

他ニ運轉セサル前ニ行政府ニ支拂フヲ要ス故ニ此諸稅ハ海船ノ競買者ニ自由ニ其使用ヲ得セシムルニ付必要タリ此理合ナルカ故ニ第一項ニ附屬スルモノトス

(第千百二十七號)

第三 船舶ノ港内ニ入りタル時ヨリ其賣拂ニナル迄船舶ノ監守人ハ謝料及ヒ監守ノ費用(第百九十二條ノ第三參看)

此ニ云フ所ノモノハ海船ノ差押前ノ監守ノ入費ニシテ其所有者ヨリ拂フ可キ者タルハ論ヲ俟タサルナリ此入費ハ第二ノ部類ノ費用ト同シク債主ノ引當品ヲ保全シタリ又第二ノ部類ノモノト同時ニ要スルモノナリ故ニ商法典ニ於テ之ヲ第二ノ中ニ置カサルハ怪ム可キナリ或ハ法律ノ定ムル所ヲ贊シテ曰ク第三項ノモノハ第二項ノモノ、如ク海船ノ競買者ヲシテ其海船ヲ自由ニ使用スルヲ得セシムルヲ

儲ムルニ付必要ヲラヌ故ニ第一項ノモノト同一ノ關節アラスト〇然レレ論者ノ説ノ如クシハ海船ノ差押後其海船ニ付設ケサルヲ得ル所ノ監守人ノ入費ヲ此番號ノ部類中ニ列加セサルヲ得ス(第二百條末尾) 又是レ差押ノコトニ付キ普通法タリトナサ、ルヲ得ス(訴訟法典第五百九十六條以下)〇第六百二十八條(尤モ此ノ監守人ノ入費ハ通常ハ差押ノ諸入費中ニ含ムモノナリ而シテ之ヲ含ムモノトシテハ第一ノ部中ニ入レシムルコトヲ得然レレ如何セン法律ニ明文アリテ如此クスルコト能ハス即チ法律ニハ(賣拂ニナル迄)監守ノ費用ト記シアリ此レウツレシ氏ノ論定スル所ニ適合スウツレン氏ハ差押ノ以前ト以後トヲ問ハス監守ノ費用云々ト説キタリ

(第千百二十八號)

第四 諸船具ヲ藏ムル倉庫ノ貸賃(第九十二條第三比較)

倉庫ノ所有者ハ船ノ入港以來船具ヲ我カ倉庫ニ藏メシメテ其價額ヲ減セシテ之ヲ賣拂フ爲メ保全シタルナリ法律ニ於テハ債主ヲシテ船具ヲ海船ト分離シテ賣拂ハシムルコトヲ欲セス又此レ甚タ不利ナルヲ以テ其倉庫貸主ニ海船全部ニ付テ特權ヲ得セシメタリ然レレ其貸主タル者ハ海船ノ全部ニアラスシテ全ク其附屬物ノミヲ保全シタルヲ以テ同時ニ船身ヲ保全シタル所ノ者ノ後ニ列ス可キハ當然タリ

(論題) 其他ニ其倉庫貸主ハ貸賃シタル場所ヲ具備シタル物件トシテ諸船具上ニ不動産貸賃主ノ特權ヲ有スル乎(民法典第二千百二條ノ第一比較)

余輩ハ之ヲ有セサルトス請フ之ヲ説カン夫レ第九十一條ニ於テ倉庫貸賃主即チ不動産貸賃主ノコトヲ定ムルハ以テ民法典第二千百二條ニ其不動産貸賃主ノ爲メ定メタル特例ニ代ヘタルノ意ナル可シ海船

上ト其從タル物件上トニ特權ヲ存セシムルハ通常ノ特權適施ヲ變更シテ其境域ヲ廣ムルナリ故ニ倉庫貸主ハ此二ノ利益ヲ共ニ得ント求ムルヲ得ス又商法典編纂錄ニ就テ証徴スルニ余輩ノ説ノ如ク解説ス

○余輩ハ以下説ク所ニ依テ倉庫ノ所有者ハ諸船具ノ價額ニ付引當品ヲ有スル諸債主中ノ第一列ヲ占メンガタメ其評價ヲナサシメ其價額ノ分配ヲ得ント求ムルヲ得ス又必ス第百九十一條ノ最初ノ三項ノ債主ヲシテ己レヨリ先キニ分配ヲ受ケシメサルヲ得ス且又自己ノ内ニ預ケテレタル所ノ物件上ニドロワド、レタンシヨ(物權ヲ差押テ)ン譯シテ留置ノ權ヲ行フヲ得ストス何トナレハ若シ此權ヲ行フキハ彼ヨリ先キニ分配ヲ受ク可キ他ノ債主ノ權利ヲシテ効ナカラシムルレハナリ

然レモ若シ船具ヲ海船ト分別シテ賣拂フキハ此定理ニ例外ヲ設ケサ

ルヲ得ス何トナレハ此場合ニ於テハ船具ハ海船ト分別サレタルヲ以テ海船上ニ存スル所ノ特權ヲ其船具ニ存セシムルヲ得サレハナリ且其船具ハ乃チ通常ノ動産タルモノニシテ民法典第二千二百二條ノミチ適旋ス可キナリ是レ夫ノ商法典編纂錄ニ於テ記ス所ナリ

前ノ如ク海船ト區別シテ船具ヲ賣ルハ稀レニシテ債主ノ爲メニ利益最モ少ナリ是故ニ諸債主ハ如此キ賣拂ヲナスト拒ムトヲ得ヘシ而シテ倉庫所有者ハ其諸債主中ニアルモノナリ

(第千二百二十九號)

第五 最終ノ航海以來及ヒ港内ニ入りタル以來船舶及ヒ其諸船具ハ維持ノ費用第百九十二條第三比較

此項ハヘダリド氏ノ憑據理由ナク反對ノ解釋アルニ拘ハラス最終ノ航海中ニ非ラスシテ其航海ノ終イタル時以來費シタル入費ヲ云フ

モノナリト解説ス可シ是レ本條ノ自然ニ顯ハル、所ノ意義タルヤ明ナリ其最初ノ二語即チ港内ニ入りタル以來又ハ最終ノ航海以來ノ語ハ同意ノ語ナリトス又是レ第九十二條ノ第三ニ依ルニ然カラハルヲ得ス此條ニテ此入費ヲ證明スルニハ前數項ノ債主權ニ於ケルト同シク裁判所ノ所長ノ許可シタル目錄ヲ要ス是レ爰ニ云フ所ノ所長ハ前ト同一ノ所長タルノ意ヲ表示シ且此入費ハ佛國ニ在テ費ヤシタルヲ表示ス此場合ハ最終ノ航海中ニ係ル入費ニ付テハ稀レニシテ且又最終ノ航海中ニ費ヤシタル入費ナレハ此項ニ入ラスシテ第七項ニ入ル可キナリ

此項ハ余輩ノ如ク解スルハ其記スル所ノ債主權ハ何故ニ第五列ニアル乎ハ自カラ解セラル、ナリ日附ニ付テハ此債主權ハ前數項ノ債主權ヨリ新ニシテ後ノ項ニ記スル債主權トハ前ニアリト雖モ然レモ

共通ノ引當品ヲ保全シタルヲナシ唯タ其減少スルヲ防キタルノミニテ他ノ債主ニハ若シ修復ナキハ其賣拂ノ代金上ニ生ス可キ所ノ損失ト同一ノ價額ヲ得セシメ之ヲ益シタルナリ

第二 最終ノ航海中ニ生シタル債主權

(第千百三十號)

第六 最終ノ航海中ニ使用セラレシ船長及ヒ其他乗組人ノ給料及ヒ雇賃(第九十二條第四及ヒ以下第五卷第二百五十條參看)

船長及ヒ乗組人ノ勉勵ト注意トナテ航海中海船ヲ保全シテ其海上ニ他ノ諸債主ヲシテ其權利ヲ行フヲ得セシメマリ故ニ何レノ時代ヲ問ハス又殊ニ千八百八十一年ノ王令(第一編第十四卷第三十七條)ニ於テハ船長及ヒ乗組人ハ海船上ニ付第一等ノ特權ヲ有シタリキ然レモ如何ナル債主タルヲ問ハス凡ソ債主タル者ノ共同ノ爲メ要シ

タル裁判入費ハ船長及ヒ乗組人ノ特權ノ先キニ等列ヲ占ムルモノト
 セリ商法典ニ於テ第九十一條ノ前五項ノ諸債主權ヲ本項ノ諸債主
 權ノ前ニ列シタルハ理アリト云フヘシ何トナレハ前五項ノ諸入用ハ
 船長及ヒ乗組人ノ債主權ノ發生後ニ其引當品ヲ保全スル爲メ要シタ
 ルモノニシテ船長及ヒ乗組人ニ益スレハナリ○船長及ヒ乗組人ハ其
 他又海船賃貸料ニ付キ特權ヲ有ス(第二百七十一條)然レモ他ノ債主ハ
 船長及ヒ乗組人ノ海船上ニ有スル特權ヲ行ヒ收取シ得ヘキ分當高チ
 減少スル爲メ海船賃貸料ヲ以テ彼レヲシテ強ヒテ支拂ヒテ受ケシム
 ルヲ得ス船長及ヒ乗組人ハ二箇ノ引當品ヲ有スル債主ノ如ク其一
 チ拂フハ全ク其權内ニ在ルヲニシテ他人ノ敢テ之ニ啄チ容ル可キヲ
 ニアラストス
 水夫ノ(給料及ヒ雇賃)ノ語中ニハ或ハ一航海又ハ一ヶ月ヲ以テ定メタ

ル金額ノ体裁ニ於ケルモ或ハ利益ノ受前又ハ海船賃貸料ノ受前ノ体
 裁ニ於ケルモ總テ如何ナル体裁ヲ以テ受取方ヲ約シタルヲ問ハス其
 給金ヲ含ムモノトス其說ヲ左ニ陳セン○夫レ後ノ場合即チ利益ノ受
 前又ハ海船ノ賃貸料ノ受前ノ体裁ヲ以テ給料ヲ定メタル場合ニ於テ
 ハ水夫ノ用ヲナシ其報酬ヲ受クルヲ至テハ決シテ先ノ場合ト異ナ
 ルナシ且「ロワイエ」譯シテ雇賃ノ語ハ勞力ノ賃貸ト會社ノ一種ト混
 同シタル如キ場合(前ニ記ス所ノ後ノ場合)ニハ術語上ニ於テハ適用
 難シト雖モ立法者ノ思考中ニ於テハ夫ノ受前ノ体裁ニ於テ定メタル
 給金ヲモ其語中ニ含マシノタルナリ是レ第五卷ノ題目ト此卷中ノ諸
 定規トヲ比較シ且又前數條ニ於テハ種々ノ區別ヲナシタルニモ拘ハ
 ラス一般ニ且例外ヲモ定メス特權ヲ定ムル第二百七十一條ニ參照ス
 ルハ自カラ如此クナラサルヲ得ス○尤モ第二百六十條ハ利益ノ幾

部ヲ配當シ又ハ海船賃貸料ノ幾部ヲ配當スルノ約ヲ以テ水夫ヲ雇入
 レタル場合ニハ水夫ハ海船賃貸料ヲ以テノミ支拂ヲ受クト定ムト雖
 凡其條ニ於テ立法官ノ精神ハ一ニ其水夫ノ給金ノ高ヲ定ムルニアリ
 テ其支拂ヲ擔保スル引當品ヲ定ムルニアラス且其條ノ後ニアル所ノ
 條即チ第二百七十一條ハ全ク一般ニシテ何レノ場合ヲモ含ムモノト
 ス水夫ノ給金ノ附屬トシテ渡ストイテ約シタル物件又ハ金高及ヒ海船
 ノ所有者水夫ニ對シテ其雇入契約ノ結果トシテ自カラ負フヘキ總テ
 ノモノ例ヘハ疾病ノ入費航海停止ニ付キ支拂フヘキ償金歸路ノ費用
 等ニ付テモ以上陳スルト同様ナリトス
 然レ凡船長ノ勞ニ報クユルタメナシタル贈與ニ付テハ以上陳スル所
 ニ於ケルト同様タラストス(其贈與ハ乃チ原語「ドロワー、ド、シヤッホー」ト
 云フ所ノモノトス此原語ハ帽ノ權利ト云ノ意ナリ)以下第千二百三十

七號參看)何トナレハ此贈與ハ船長ヲ雇入レタル艤裝者ヨリ爲スニ非
 ラス船長ニ荷物ヲ依託シタル荷主ヨリ其艤裝者ニ支拂フ所ノ海船賃
 貸料ノ外ニ船長ニ與フモノアレハナリ是故ニ船長ハ其贈與ヲ得ルノ
 希望アルヲ以テ或ハ艤裝者ヨリ低少ノ給金ヲ受ケ雇入レテ約諾スル
 「アリト云フヲ得可シト雖モ其贈與ハ其給金ノ一部ナリト爲ス可ラ
 ス且ツ是レ海船ノ所有主ノ負債タラスト故ニ海船其引當品トナル「能
 ハサルナリ

(第千百三十一號)

第七 最終ハ航海中船ノ入用ノ爲メ船長ニ貸シタル金高並ニ其同
 一ハ入用ノ爲メ船長ハ賣拂フタル荷物ノ代價ハ償還(第百九十二
 條第五)

船長ハ必要ノ場合ニ於テハ航海中右等ノ目的ニ付船身ヲ引當トナシ

テ金額ヲ借入レ又積荷ヲ賣リ又ハ之ヲ抵當ニスルヲ得ルノ權アリ
 (第二百三十四條)斯クシテ得タル金額ハ即チ債主一同ノ引當物ヲ保全
 シ其船舶ヲシテ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘキ港ニ達セシムルヲ得セシ
 メタリ故ニ此金額ハ此借入レ以前ノ一切債主ニ益シタルナリ是レ其
 特權ヲ有スル所以ナリ○或ハ曰ク此ノ理合ニ依ルキハ之ヲ水夫ノ給
 料ノ前ニ列スルカ否ラサレハ少ナクモ其水夫ノ給料ト同列ニ置クヲ
 要スト商法典ニ於テハ如此クナスヲ要セストセリ何トナレハ水夫ハ
 船ノ修復ノ後ト雖モ猶ホ引續イテ船ヲ保全スルヲ盡力スレハナリ
 故ニ水夫ハ諸貸主ノ引當品ヲ保全セサルナリ何トナレハ修復ナキ
 故ニ如何ナル場所ヲ問ハス海船ヲ賣リタルキハ水夫ハ其代金ヲ以テ
 拂チ得可ケレハナリ
 前ニ記シタル第二百三十四條ニ依ルキハ船長ハ必要ノ場合ニ於テハ

船舶上ニ運借リヲナスコトヲ得ヘシト雖モ本項ニテ第七列ニ位スル
 モノニ特權ヲ與フルコト付運貨アリシヲ要セス通常ノ單純ナル貸借
 (海上貿易上ニ於テ通常ノ貸借ヲナスハ商法典ノ編纂セラレシ時代ニ
 在テハ殆ト稀ナリキ定繫港ノ金主ハ船長及ヒ船裝者ヲ知ラサルヲ
 以テ其危險ヲ冒スニ相償フニ當タル高利子ヲ取ルヘキヲ約シ船舶ノ
 ミニ信用ヲ置キシニ因ル故ニ船裝者カ定繫港ニ取引仲間ヲ有シタル
 ニ非ラサレハ通常ノ貸借ヲナスコト能ハサリシナリ今日ニテハ電信
 ノ効ニ依リ船長ハ何レノ場所ニ於テモ船裝者又ハ其銀行者ヲシテ借
 入ヲサシムルヲ得是故ニ海上利益ヲ拂フノ大任ヲ負フニ及ハス
 但シ船裝者ガ我が陸上財産ニ第二十六條ノ結果ヲ受ケシメサルカ
 タメ其大任ヲ負フヲ望ムキハ格別)ト雖モ第七列ニ位スルモノニシテ
 ナリトス(以下第千百八十六參看)ト雖モ第七列ニ位スルモノニシテ
 航海中船舶ヲ保全セスシテ且第二百九十一條ニ於テ第九列ニ在ル所
 ノ運賃ヨリ先キニ列ヲ占ムルモノトス若シ運賃ニシテ航海中船舶ヲ
 保全シタルニ於テハ商法典之ヲ第七列ニ置キ千八百七十四年十二月
 十日ノ法令亦如此クナシタリ其他此事ニ付テハ猶ホ他ニ差異アルト

アリ余輩ハ以下第十一卷ニ於テ説ク可シ
 法律ハ定繫港ニ於テ現金拂ニ非ラス即チ掛ケニテ海船等ノ修復ヲナ
 シ又ハ食料ヲ供給シタル者ヲ何レノ條ニ於テモ列定セス蓋シ余輩ハ
 之ヲ第五項ニ入ルモノトセサリシナリ然レモ彼レ食料買入又ハ船舶
 修復ノタメ金額ヲ貸シタル者ト頗ル理合ヲ同フシテ全ク相似タルモ
 ノナルヲ以テ之レト同視セザルヲ得ス何トナレハ現金拂ニ非ラス即
 チ掛ケニテ其物件ヲ供給シタルハ乃チ船長ニ其金額ノ立替ヲナシタ
 ルモノナレハナリ

第百九十一條末項ノ定規ニ依リ同一ノ海上損失ノ修補ニ出金シ又ハ
 盡力シタル總テノ人ハ直接ノ供給者タルト貸主タルト其修補ノタメ
 賣拂フタル荷物ノ所有者タルトチ問ハス皆チ平等ニ高割ヲ以テ分配
 チ受クル者トス○若シ同一ノ航海中船舶數度各種相異ノ海難ヲ受ケ

爲メニ種々ノ港又ハ同一ノ港ニ數度入港碇泊シテ修繕ヲナシタルキ
 ハ亦前ニ同キ乎○曰ク否ナリ最終ノ海上損失ノ修補ニ出金盡力シタ
 ル者ハ最初ノ修繕ニ助力シタル者ヨリ先チ分配ヲ受クヘシ是レ一
 ニ其一同ノ引當品ヲ保全シタルノ理ニ因ルナリ尤第百九十一條ノ末
 項ノ定規ニ固着スルキハ余輩ノ見解ト反對ノ見解ヲ下サ、ルヲ得ス
 ト雖モ漸次引續テ諸運賃ヲナシタル場合ニ第三百二十三條第二項ニ
 於テ明カニ余輩ノ見解ノ如ク定ム而シテ通常ノ貸借又ハ掛ケニテ供
 給ヲナシタル場合ニ於テモ亦同一ノ理由ニシテ如此クナラサル可
 カラス

○余輩ハ他ノ論定ヲナサ、ルヲ得サルノ場合アリ海船ニ積入レタル
 商品海船ニ數度繼續シテ受ケタル海難ニ依リテ生シタル損害ヲ修繕
 スル爲メ賣拂ハレタル場合はレナリ夫レ其商品チ一度ノミ賣拂フタ

リトセシ此場合ニテハ自餘ノ商品ニシテ毀損ヲ免カレタルモノハ其賣拂ハレタル商品ノ所有者ニ共ニ償ヲナサレルヲ得ス蓋シ余輩ノ解定セントスル論題ヲシテ實用アラシメンニハ海船ノ賣拂代價其所有者ニ償ヲナスコ不足ナリト假想セサルヲ得ス然ルニ此場合ニ於テハ海船ノ所有者其海船ヲ拋棄スルヤ必然ナリ果シテ然ルトキハ第二百九十八條第四項ヲ適施スルヲ要スルニ至ルナリ若シ假リニ載舶ノ商品ヲ數度引續テ賣拂フタリトスルモ次度ニ賣拂フタル商品ノ所有者ハ初度ニ賣拂フタル商品ノ所有者ヨリ先キニ海船ノ賣拂ヒ代金ヲ以テ支拂ヲ得ンヲ求ムルヲ得サルヘシ何トナレハ共ニ初度ノ賣拂ハレタル所有者ニ賠償ヲナスヲ要スレハナリ之ニ因テ觀ルキハ唯々一ノ論定アルノミ即チ海船ノ各種ノ需要ニ付キ數度引續キテ賣拂ハレタル商品ノ所有者ハ共ニ平等ニ高割ヲ以テ支拂ヲ受クヘシ乃チ此

場合ニ於テハ第九十一條ノ末項ノ規則ニ歸着スルノミ

第三 總テノ航海前又ハ最終ノ航海前ニ生シタル債主權

(第千百三十二號)

第八 海船未ダ航海セサルキハ其供給者又ハ其製造ニ使用セラレタル工丁又ハ其賣主ニ拂フ可キ金高及ヒ海船已ニ航海シタルキハ其出帆前船身ノ修復又ハ食料又ハ艙裝又ハ「エキアマン」ノ爲メ物品ヲ供給シ又ハ工事ヲ爲シ又ハ勞役シタルニ付テハ諸債主ニ拂フ可キ金高第九十二條第六項比較

本項ハ債主一同ノ引當品即チ海船ヲ保全シタルニ非ラスシテ其引當品トナルモノヲ負債主ノ資産中ニ増加シタル所ノ者ノ爲メ特權ヲ定ム即チ賣主又ハ製造人ハ海船ノ全部ニ付キ又ハ船舶ヲ修復シ又ハ艙裝ヲ備補シタル者ハ修復又ハ艙裝ニ依テ來シタル増價ニ付特權ヲ有

ス此等ノ債主ハ最終ノ航海中又ハ其以來船舶ヲ保全シタル者ヨリ先
キニ配當ヲ受クルハ至當ナリトス

本項ニ定メタル二箇ノ特權ニシテ其性質甚タ相異ナルモノアリ之ヲ
區別セサルヲ得ス即チ第一海船ノ賣主ノ特權第二海船ノ製造又ハ修
復又ハ艤裝ニ付テノ特權是レナリ

(第千百三十三號) (イ) 海船ハ賣主ノ特權

本項ヲ一讀スルキハ海船ノ賣主ハ其賣買海船ノ未タ一度モ航海ヲナ
サ、ル前ニアリシキニアラサレハ其特權ヲ有セサルモノト論定セサ
ルヲ得ス且海船一度航海ヲナシタル後ニナシタル其賣買ハ決シテ賣
主ヲシテ特權ヲ得セシメサルモノト論定セサルヲ得ス此論定ハ一モ
條理ニ適フコトナシト雖モ余輩ハ第一版ノ書ニ於テ本條ノ明文如此ク
夫レ明白ナルヲ以テ之ニ違フコト能ハストナシタリ蓋シ余輩ハ特權ハ

全ク例外ニ屬スル事件ニシテ且境域窄縮ノ法タルヲ以テ類似法ヲ以
テ擴張スルコト能ハストスルハ普通ノ規則ナリトセリ而シテ反對ノ論
定ヲナス所ノ諸學士アリト雖モ前理ヲ引援トナス論者ニ對シテ自己
論定ノ憑據ヲ充分ニ示シタルモノアルヲ見ス然レモ余輩ハ更ニ深思
熟慮シ且諸學士ノ所論及ヒ諸法律ヲ深ク講究シタル後反然前論定ノ
非ヲ悟リ今日ニ在テハ海船賣主ノ特權ハ其賣買ヲ如何ナル時ニナス
ト雖モ常ニ存スルモノト論定ス左ニ其理由ヲ説カン○抑々我カ立法
ノ全体ヲ通觀スルキハ今マ余輩ノ論セントスル場合ハ例外ニ屬スル
事件内ニアリテ全ク區域ノ狹少ナル法律中ニアリト言フハ正論ニア
ラス夫レ我カ法律ノ一般ニシテ不動ノ元則ハ總テ賣主ハ賣拂ハレタ
ル物件上ニ特權ヲ有スルモノトスルニアリ即チ第千百二條ニ於テ
動産上ニ此特權ヲ定メ第千百三條第一ニ於テ不動産上ニ此特權ヲ

定ム故ニ此二條ハ財産ノ全部ヲ包ムヤ明カナリ而シテ海船ヲ動産ナ
 リトスルト動産ト不動産トノ間ニアル者トスルトヲ問ハズ第二千百
 二條ト第二千百三條ト参照スルモ又之ヲ参照セサルモ第二千百二條
 中ニ海船ヲ入レサルヲ能ハス故ニ若シ第九十一條ナカリシキハ海
 船ノ賣主ハ其海船上ニ特權ヲ有ストスルモ決シテ疑フ者ナキナリ○
 如此ク先ツ論シ來ルキハ互ニ反對ノ二論者間ニ於テ證據ヲ立ツルノ
 責任ヲ變更ス可シ即チ第九十一條ニテ其特權ヲ制定シアルコトヲ
 見出スヲ要セス其特權ヲシテ成立セシムルニハ第九十一條ニテ間
 接ニモ又直接ニモ其特權ヲ制限セサルヲ示スヲ以テ足ルナリ○勿
 論第九十一條ニハ海船ノ未タ航海セカリシキノ言ヲ記ス此言ハ海
 船ノ賣主ノトニ關シテハ普通法ヲ制限シタルモノト甚タ確實ニ看做
 ストナ得可シト雖モ然レモ如此クナシ得ルニハ海船ノ賣主ノ權利ヲ

制限スルノ立法者ノ存意甚タ明白タルヲアルヲ要ス然ルニ全ク之レ
 ニ反シテ從前ノ法律又諸學士ノ所説及ヒ商法典編纂録ニ就テ觀ルキ
 ハ立法者ハ前ノ如ク制限スルノ存意アルヲ示ストナシ○千六百八
 十一年ノ王令第一編第十四卷ハ二箇ノ條ニ於テ第十六條及ヒ第十七
 條海船ノ己ニ航海シタルト未タ航海セサルトニ依テ諸特權ノ二表ヲ
 示シタリ勿論海船ノ賣主ノ特權ハ海船ノ己ニ航海ヲナシタルキノ諸
 特權ノ表中ニアラサリシ然レモ其二表共ニ完全ニシテ制限ヲ示シタ
 ルモノトセス其不備ヲ補フ爲メ學者執法者之ニ百般ノ増補ヲ加ヘタ
 リ(第千百三十號比較殊ニ海船ノ賣主ノトニ付テハ「ウレン」氏(第十七條
 ニ於テ)及ヒ「エメリゴン」氏(運契約第十二章第四款)ハ何レノ場合ヲ問ハ
 ス海船ノ賣主ハ特權ヲ有スルモノトシテ其特權ノトニ關シテハ第十
 六條ヲ補完シタリ而シテ其論旨ヲ助援スルニハ第十七條ニ於テハ特

權ノ表甚タ短簡コシテ海船ノ賣主ノコトヲ其餘コ入ルハ之ヲ附會スルト看做サ、ルチ得ス然ルコ前條即チ第十六條ニ在テハ決シテ然ラサルナリ○コンセイユ、デターニ於テ第九十一條ノ討議ノ際ニハ其草案中海船ノ賣主ノコトニ關シテハ本項ニモ又其他項ニモ一モ定規ナカリシナリ是コ於テ「ビゴ」ビゴ、ブレアマヌーブレアマヌー氏ハ動議ヲ起シ自己固有ノ説チ主張シタリ尤モ「ベリエー」氏ハ千六百八十一年ノ王令ヲ最モ區域ノ狹キ意義ニ解釋シテ其反對説チ主張セリ而シテ修正ノ動議者「ビゴ」、ブレアマヌーブレアマヌー氏ハ海船ノ賣主ニ付テハ普通法ヲ適施ス可キヲ主張シタリ如此ク諸氏ノ討論ノ後其賣主ノコトニ付テハ第九十一條ノ第八項ニ別ニ記載チナスコトニ議決チナセリ(千八百七年七月七日ノ會議○「ロクレ」氏第十八冊第二百九十九丁第三百丁)○此記載ハ其後之チナシタリト雖モ其文甚タ拙ニシテ若シ海船未ダ航海セサル、其ノ語ノ

海船ノ賣主コモ又其製造者ニモ兩方ニ關係スル如クナシタリ實ハ賣主ノ語ノ下ト前ニ引ク所ノ語ノ下トニ黑線ヲ引キ少シク其文意ヲ變セサルチ得サリシナリ(譯者案此段著者法律ノ原文ニ就テ論ス故ニ譯文ニ就テ觀ルルハ黑線ヲ引クモ文意ノ變スルコトナシ要スルニ海船未ダ航海セサルルノ語ヲ賣主ノ語ニ關係セサル様ニ書クヲ要スト言フノ意ナリ)然ルニ如此ク行文ノ拙ナルニ原キテ立法者ハ海船ノ賣主ノ權利ヲ制限スルノ存意アリシト云フハ許ス可カラサルコトナリ況ヤ其存意實ニ條理ニ反シ且實ニ其存意ナリシト斷言スルチ得サルノ理由アルニ於テチヤ○且余輩ハ後ニ第九十一條ノ示ス所ハ制限チ示シタルニ非ラス且猶ホ海船ニ付テハ第二千一百一條第二千二百二條ノ通法ヲ適施スルチ得可キヲ論ス可シ

海船賣主ノ特權ノ繼續時間ニ付テハ以下第千四百四十號ヲ參看ス可シ

(第一千三百三十四號) (ロ) 海船ハ製造又ハ修復又ハ艤裝ニ付テハ特權
 海船ノ未タ航海セサル場合ニ於テハ法律其供給者又ハ其製造ニ使用
 セラレタル工丁ニ特權ヲ付與ス○其最簡單ノ例ヲ舉クレハ即チ甲者
 自己ノ爲メ自カラ海船ヲ製造セシメ必要ノ材料ヲ買入レ直ニ工丁ト
 約束チナスノ場合是レナリ其材料ノ供給者及ヒ其工丁ハ特權ヲ得ル
 ナリ此製造ノ方法ヲコンストリユクシヨシ、バル、エコノミー(廉價製造
 ノ方法ト云フ意)ト云フ往昔ハ大ニ行ハレタリト雖モ今日ハ稀ナリ但
 シ今日ト雖モ海上運送ノ大事業ヲ起スキハ其方法ニ依ルコトアリ如此
 キ場合ニ於テハ更ニ製造所ヲ設クルコトヲ得可シ○本項ヲ適施スルコ
 前例ヨリ最難ノ場合アリ即チ海船ノ所有者ト工丁トノ間ニ受負人ノ
 加リタル場合は是レナリ此場合ニ於テハ特權ハ受負人ニ屬ス可キ乎將
 タ工丁ニ屬ス可キ乎之ヲ論答スルニハ猶此例ニ付二箇ノ場合ヲ區別

スルヲ要ス是レ許多ノ學士ノ混視スルモノナリ第一船舶ヲ製造セン
 トスル者即チ其所有者自カラ材料ヲ供與シテ受負人トハ唯々ニ職工
 ノコトニ付約定チナスノ場合アリ是レ受負製造ノ一種ノ場合ナリ此場
 合ハ今日ニ至ルマテハ甚ク稀ニ行ハレタルモノニシテ又今後モ甚ク
 稀ナル可シ然リト雖モ許多ノ學士ノ討論スルハ此場合ノミニシテ其
 論スル所善ク適施スルハ亦此場合ノミニナリ余輩ハ此場合ヲ論セス唯
 々左ノ言ヲ云フニ止マル可シ余輩ノ考ニテハ彼ノ工丁ハ民法典第千
 七百九十八條ニ依リ海船ノ所有者ニ對シテ直接ノ訴權ヲ有スルモノ
 トス且特權アルハ此訴權ナリトス何トナレハ第百九十一條第八項ノ
 法文直ニ定ムル所ハ工丁ナレハナリ受負人ハ亦工丁ニ任拂チナシタ
 ル後海船ノ所有者ヲ訴ヘ勞力ノ供給者ノ名義ニテ特權ヲ受クルコト
 チ得○第一ノ場合ヨリ許多アル可クシテ實際行ハレ得ルノ場合アリ

「コンストリクション、ア、ラントルプリーズ」又ハ「コンストリクション、ア、ホルフエー」(受負製造)ノ場合是レナリ即チ海船ヲ要スル者其製造ヲ製造受負人ニ依頼シ其受負人諸材料及ヒ勞力即チ職工等ヲ自カラ供シテ船舶ヲ作ルノ場合ナリ「此場合ニ於テハ民法典第七百九十八條ヲ適施スル」トテ得ス其理由甚ダ簡單ナリ即チ此場合ニ於テハ受負人他人ノ海船製造ノ爲メ諸工事ヲナスナリ且其工事未終ノ時間ハ海船ヲ構成ス可キ諸材料ハ其製造者ニ屬シテ決シテ其海船ヲ依頼シタル者ニ屬セス(附言)是故ニ海船ハ製造者兼所有者ノ手ニ在リテ其材料ノ供給者及ヒ工丁ハ其海船上ニ特權ヲ有スト雖モ其製造者ハ譯シテ之ヲ有スルトナシ唯々其製造者ハ其海船ヲ依頼者ニ引渡シタル後ハ賣主トナリ而シテ其賣主トシテ特權ヲ得ルナリ然レモ余輩ノ後ニ説ク如ク其製造者ハ材料ノ供給者及ヒ工丁ハ固ヨリ其債主タルヲ以テ

其供給者及ヒ工丁ノ後ニ列シテ分配ヲ受ケサルヲ得ス(第千百四十號)

(附言)夫レ海船ノ製造者ハ其材料ノ所有者タルヲ以テ其材料ヲ使用シテ製出シタル物件即チ海船ノ所有者タリ○勿論其海船ヲ賣拂フタルモハ其賣拂ニ依リ所有權ハ他人ニ移ルナリ然レモ是レ將來ノ物件ニハ適用セサルモノトス○諸材料ノ所有權ハ其材料ヲ海船製造ニ用キルコト從フテ他人ニ移ルト云フトテ得ス何トナレハ其製造者ノ賣拂フタルモノハ航海ニ適スル完全ノ海船ニシテ決シテ其海船ヲ組織スル材料ニアラサレハナリ而シテ其依頼者ニ對シテ有スル義務ハ不可分ノ義務ナリ依テ半部製造シタル海船ヲ依頼者ニ引渡ストモ決シテ其義務ヲ盡シタリトナス可カラス○其依頼者ハ完全ナル海船ノ引渡ヲ受ケサル限りハ約定ニ反クモノトシテ其半部製造シタル海船ヲ受取ルコトヲ拒絕スルコト

ヲ得而シテ其製造者ハ如斯キ場合ニハ他ニ約定ニ適シタル海船
アルキハ之ヲ引渡シテ自己ノ義務ヲ免カルヲ得○此事ニ付テ
ハ民法典第七百八十八條ノ法文甚タ明白ナリ何トナレハ職工
自カラ材料ヲ供出シタルキハ物件ノ引渡ノ終ルマテハ其損失ハ
自カラ之ヲ負擔ストアレハナリ

材料ノ供給者ハ製造請負人ト其供給ノ約束ヲナシタルキト雖モ船舶
ヲ定メテ供給ヲナシタルキニ非ラサレハ特權ヲ有セス然レモ大製造
所ニ於テハ木鐵其他ノ材料ノ許多ノ供給ヲ要スルヲ以テ明確ニ何々
ノ材料ハ何々ノ船舶製造ニ用ヰルモノナリト預メ其使用ヲ定メサル
トキハ其供給者ハ何物件ヲ特別ノ引當品ナリト頼ミ材料ヲ供シタリ
ト云フヲ能ハサルハ論ヲ俟タス故ニ特權ヲ有セサルナリ且實際ニ於
テハ其船舶ニ用ヰタル材料ハ誰某ノ供給品タルヲ多クハ定ムルヲ

能ハサルナリ

海船已ニ航海ヲナシタル場合ナルキハ船身ノ修復又ハ食料又ハ艙裝
又ハニ、キ、ア、ン、(艙裝ノ字ト略ホ同意)ノ爲メ物品ヲ供給シ又ハ工事ヲ
ナシ又ハ勞役シタルニ付テノ諸債主ハ特權ヲ有ス此諸債主ハ余輩ノ
論シ來リタル海船製造者ニ代ルナリ其製造者ノ特權ハ海船ノ航海ヲ
ナシタルニ因リテ消滅ス(以下第千百三十八號參看)

最初ノ航海前ニ海船ノ艙裝ノ爲メ物品ヲ供給シタル者及ヒ最初ノ航
海前ニ船身ノ修復ニ助力シタル者ハ特權ヲ有スヘシ此諸債主ハ本項
ノ文中ニ正ニ入ルモノトス諸學士ノ論スル如ク右等ノ場合ニ本項ヲ
セス○パ、ル、ド、シ、エ、一、氏、第、九、百、五、十、四、○、ダ、シ、ユ、イ、ル、氏、第、二、冊、第、二、十、
三、丁、○、ベ、ダ、リ、ド、氏、第、百、七、○、ア、ロ、ゼ、一、氏、第、千、六、百、五、十、二、○、ド、マ、ン、シ、
ヤ、氏、第、四、卷、第、六、十、四、丁、○、デ、エ、フ、ル、氏、第、百、五、十、一、○、以、下、ニ、於、テ、艙、裝、
ニ、付、テ、ハ、特、權、ヲ、與、ヘ、テ、最、初、ノ、航、海、前、船、身、ノ、修、復、ニ、付、テ、之、ヲ、與、ヘ、サ、ル、
ナ、リ、但、シ、其、特、權、ヲ、與、フ、ル、モ、第、二、千、百、
二、條、第、三、○、記、ス、所、ノ、モ、ノ、ミ、ナ、リ

第九 海船ハ出帆前船身ノ修覆、食料、艙裝、エキ、フ、マン、ノ爲メ、船身、龍材、船具、上ニ運借リシタル金高(第九十二條第七比較)

本項ハ千八百七十四年十二月十日ノ海船ノ書入質權ニ付テノ法令ヲ以テ廢シタリ故ニ余輩ハ唯々本項ノ意義ト本項ニ代リタル規則トヲ略說セン

先ツ本項ヲ一讀スルキハ本項ニ於テ前項ニ記ス所ノ修覆ニ付金額ヲ立替ヘタル者ニ特權ヲ與フルカ如シ且前項ニ記ス所ノ債主ハ本項ニ記ス所ノ債主ノ貸與シタル金高ヲ以テ支拂ヲ受ケタルコトアルモノニシテ本項ニ記ス所ノ債主ハ海船ノ爲メ盡ス所前項ノ者ト同一ナリ然ルニ之ニ同一ノ權利ヲ與ヘ同一ノ地位ニ置カザルハ其當ヲ得ザルコト似タリ或ハ之ニ答ヘテ曰ク若シ本項ノ債主ノ貸與シタル金高ヲ以テ

第八項ノ債主ヲ全ク辨償シタルキハ已ニ債主ノ地位ヲ失フヲ以テ第九項ハ第八項ト同様ナリト然リト雖モ或ハ又之ヲ駁シテ曰ク第八項ノ債主一部ノ支拂ヲ得テ全ク拂ヲ得ザレコトアリ然ルキハ運貨主ハ其全ク拂ヲ得ザル者ヨリ後ニ分配ヲ受ケザルヲ得ズト是說理アリ然レモ深ク理ヲ求メ本項ヲ解スルキハ本項ノ定ムル所ハ論者ノ解スル所ノ如キモノニ非ス本項ハ第七項ト異ナリ運貨ノコトノミヲ定ムナリ然ルニ前段ニ示ス所ノ理由ハ通常ノ貸借ニモ亦適施ス可シ又一方ニ在テハ第九十二條第七項ハ貸シタル金額ハ必ス海船ノ修覆又ハ船ノ艙裝ニ支消シタルノ証アルコトヲ要セス唯々要スルニ第九十二條第九項ノ法文ニ拘ハラヌ其金高何ノ爲メニ消費スルモ之ヲ問フヲ要セス結約者雙方カ運賃借ヲ爲スノ存意ナリシカチ知ルヲ緊要ナリトス本項ニ記ス所ノ特權ハ結約者雙方間ニ船舶ヲ引當質ニスルコトヲ

暗然約諾シタルニ原クナリ(質ハ質ノ語ハ穩當ナラス寧ロ書入質權ト云フ可シ何トナレハ其物件ノ占有ヲ債主ニ得セシメスシテ之ヲ保證トナスルハ質ト云フ能ハザレハナリ)是レ即チ第三百二十條ニ於テ運貸主ノタメ定メタル特權ヲ本項ニ於テ列定シテ之ヲ適施シタルナリ實ニ本項ハ第三百二十條ノ適施タルヲ要スルナリ何トナレハ若シ然ラサレハ第三百二十條ノ定ムル所ノ特權ヲ何クニ列定ス可キカチ知ルヲ能ハサレハナリ

千八百七十四年十二月十日ノ法令ハ本項ノ特權ヲ廢止シタリ其故何トナレハ運借ヲ以テ金額ヲ借リ入レ之ヲ船用ニ支消スルヲナキト雖モ其返還ノタメ特權ヲ以テ船舶ヲ抵當ニナスヲ得ベケレバナリ且夫レ此特權ヲ廢止セサルキハ運貸ヲ爲シテ以テ其以前ニ約定シテ登記シタル船舶ニ付テノ一切ノ書入質權ヲ何レノ時チ問ハス滅盡ス

ルヲ得可シ何トナレハ運貸主ハ特權ヲ有スルヲ以テ其一切ノ書入質權ヲ拒絕スルヲ得ベケレハナリ○又一方ニ在テハ此特權ヲ廢止スルモ實際ニ於テ不都合ノヲナシ何トナレハ負債ノ辨償ノ保證ニ船舶ヲ以テセンヲ欲スルナレハ新法令ニ定ムル簡略ノ方法ニ依ルヲ得此方法ハ其目的ヲ達スル最モ適當ニシテ他人ノ權利ヲ能ク保護スルナリ即チ書入質權是レナリ

然リト雖モ或ハ日ク船ノ艤裝又ハ修覆ノタメ實ニ金額ヲ運貸シタル者ハ特權ヲ得ルヲ能ハズヨシヤ書入質權ヲ得ルヲ約定スルヲ得ルト雖モ保險者及ヒ積荷者(第十一項第十二項)ハ之ヲ拒絕スルヲ得ルヲ以テ其効ナキナリト其レ然リ然レモ其債主權ヲ能ク保證スル所ノ一法アリ今日ハ無論舊法ノ行ハル、時ニ在テモ猶ホ存シタリ是レ他ナシ第八項ノ債主ニ直ニ拂チナシテ其權利ニ代ハルヲ是レナリ此

方法ニ依ルキハ其債主ハ第八項ノ債主ト同一ノ列ニ加ハルヲ得可
シ而シテ若シ第八項ノ債主ノ一部己ニ拂テ得ルトモ此債主ノ權利ニ
代リ他ノ債主ト共ニ分配ヲ受クルヲ得可シ○故ニ此書入質權ノ法
ハ非難ス可カラサルニシテ能ク正當ノ諸利益ヲ保護ス

(第千百三十六號)

第十 最終ノ航海ニ付負フタル船身又ハ龍材又ハ船具又ハ艤裝又
ハ、エキフマンニ付ナシタル保險ハ質料ハ高(第百九十二條第八項
比較)

余輩ハ本條ノ特權ハ結約者雙方間ニ暗然成立シタル契約ニ依リテ生
ズル船舶ヲ引當質トナスコトニ原クモノトス此ノ如ク結約者ノ存意ヲ
解釋スルハ商事上ノ確固タル慣例ニ依テ証明シ得可キ所ノモノナリ
且夫レ此特權ハ海船ヲ引當質トスル約定ニ原ク所ノ二箇ノ特權ノ間

ニ在リ又他ノ一方ニ在テハ其特權ハ債主ノ財産中ニ更ニ貨財ヲ増
加シタリトノ理ニ原クモノナリトスルコト能ハザルナリ其理ヲ説カン
○夫レ被保者ノ海船海難ニ依リ損失シタルハ保險者ヨリ被保者ニ償
金ヲ拂ヘシキハ被保者即チ負債主ノ資産中ニ其損失シタル海船ノ價
ヲ復スルナリ然レモ是レ通常債主ヲ益シテ特權債主ヲ益セザルナリ
一般ニ認メラレタル説ニ依ルキハ特權債主ノ諸權利ハ其海船上ヨリ
保險ノ償金上ニ移ルコトナキモノトス(以下第千百四十三號第千三百二
十號參看)故ニ保險者ハ唯々通常債主ヨリ先列ヲ占メテ先ニ拂テ受ク
ルノミ特權債主ニ對シテ先列ヲ占メ先ニ拂テ受クルハ只々第十一項
ノ債主ニ對スルノミ○且如何ニ各種ノ場合ヲ觀察スルトモ保險者ヨ
リ支拂フ所ノ償金ハ決シテ保險ノ質料ノ引當品トナラザルハ論ヲ俟
タサルナリ何トナレハ若シ海船海難ヲ受ケサルキハ假令ヒ保險者他

ノ債主ヲ益シタルコトナキモ其海船上ニ特權ヲ有ス若シ海船全滅シタルキハ其特權ノ有無ノ論起ルノ理ナシ唯タ保險者ハ其支拂ヲ可キ債金ノ一部ヲ以テ保險ノ賃料ト差引スルノ一方法ヲ有スルノミ又若シ船舶ノ一部破損シ若シ海上損失ヲ受ケタルキハ保險者ハ其保全セザル所ノ部分即チ無難ノ部分ニ付特權ヲ有ス其故何トナレバ船舶ノ破損シタル部分ノ爲メ債金ヲ拂フテ其價額ヲ負債主ノ資産中ニ保全シタレバナリ是ニ由テ知ル可シ保險者ノ特權ヲ行フニ引當ラレタル物件ハ其保全シタルモノニ非サルコト是故ニ其特權ヲ説明スルニ負債主ノ財産ヲ保全シ其資産ヲ増加シタリトノ理ヲ適用スルコト能ハサルナリ且船舶ノ一部破損シ或ハ海上損失ヲ受ケタル場合ト雖モ保險者カ其特權ヲ行フコト稀ナリ何トナレバ保險ノ賃料ニ付テノ債主權ハ其支拂フ所ノ債金ト差引スルヲ以テ消滅スルナリ其債金ハ最も多

クハ保險料ヨリ巨額ノモノナリ

若シ本項ノ特權ハ被保者カ默許ヲ以テ船舶ヲ保險者ニ抵當トナシタルコトニ原因スルトナスキハ何故ニ其特權ヲ本項ノ列ニ定メタルカハ最前ニ記シタル元則ニ依リテ自ラ解セラル可シ夫レ船舶ノ修覆ニ付テノ債主及ヒ運賃ニ付テノ債主ハ保險者ヨリ前ニ在ルヲ以テ先列ヲ占ム何トナレハ保險料ノ債主權ハ船舶ガ航海ヲナシ初メタル時ニ非サレハ生セサレハナリ(第三百四十一條第三百二十八條)積荷ヲナシタルハ出帆前ニ在リト雖モ荷物ノ海上損失ヲ受ケ又其引渡ノナキコトハ航海ヲ初メタル後ニ在ルヲ以テノ故ニ保險者ハ荷主ヨリ先例ヲ占メ先キ分配ヲ受クナリ

(第千百三十七號)

第十一 海船賃借主ノ積入レタル荷物ノ引渡ナキ爲メ又ハ船長或

ハ乗組人ハ過失ニ依リ其荷物ニ受ケシメタル海上損失ハ償還ノ爲メ其海船賃借主ニ拂フ可キ償金(第九十二條第九項比較)

此特權ハ船舶ヲ默許ヲ以テ荷主ノ要償權ヲ行フニ付キ保證引當トナシタルノ理ニ因テ生ス是レ諸學士ノ許ス所ニシテ第二百八十條ニ於テ之ヲ明記ス又本條ニ於テ艤裝者荷主ニ對シテ行フ所ノ要償權ニ付其荷物ヲ保證引當トス○第十一列ニ此特權ヲ定メタルノ理由ハ前項ニ於テ説キタル所ニ因リテ解セラル可シ

(論題) 海船賃借主ハ船長カ積入ヲ約諾シタル荷物ヲ積入ルハ忘レ又ハ拒ミタルキト雖モ此特權ヲ得ント求ムルヲ得可キ乎

余輩ハ求メ得可カラサルモノトス夫レ特權ハ此レヲ推シテ彼レニ及ホスヲ能ハスノ區域ノ狭少ナル法ニ屬ス且本項ニテハ積入レタル荷物ノミヲ記ス故ニ故此場合ニ於テハ海船賃借主ハ其荷物ノ積入ナキ

キハ特權ヲ有セザルナリ○勿論第二百八十九條ニハ積入レタル荷物トノ制限ヲ示スノ語ナシト雖モ此諸決定ノ全体ニ付テ觀ルキハ亦同一ノ結果ヲ來タス可シ何トナレハ若シ荷物ノ積入ナキ場合ニ於テハ艤裝者ハ亦其荷物ニ付特權ヲ有スルヲ能ハズ第二百八十條ニテハ前場合ト同ク荷物ノ積入ナキキハ荷主ハ特權ヲ有セズトシテ艤裝者ト其地位ヲ同一ニナシタルナリ

(第一千三百三十八號) 前ニ記ス所ノ諸特權ノ保續時間

余輩ハ此諸特權ノ通常ノ保續時間即チ法律カ此特權ヲ定メタルキ共ニ定ムル所ノモノ、ミテ説ク可シ其保續ノ時間ハ例ヘハ船舶ノ持主ノ變更スルヲ又ハ船舶上ニ存スル特權ヲ添除スルヲ如ク種々ノ情狀ニ依リテ變ス余輩ハ之ヲ説カズ(添除ノヲニ付テハ第二項ヲ見ル可シ)

第九十一條ノ第一項及ヒ第二項ハ海船ノ差押及ヒ賣拂ヲナスノ直前又ハ直後ニ要スル所ノ諸費用ヲ定ム此等ノ項ニ依ルニ其記ス所ノ特權ハ頗ル短編ノ期限内ニ行フ可キモノトス

海船ノ賣主ト其製造者トノ債主權ヲ除キ第九十一條ニ定ムル所ノ總テノ債主權ハ最終ノ航海ニ附屬スルモノニシテ更ニ又航海スルルハ消散スルモノトス但シ或ハ此最終ノ航海ノ爲メナシタル像備ノ事件ニ沂リテ之ニ付着スルコトアリ是レ法律ノ明文ニ依テ生スル所ナリ而シテ第四項及ヒ第十一項ニ於テハ最終ノ航海ニ附屬スルトノ明文ナシト雖モ此二項ニモ最終ノ航海ヲ特權ノ保續ノ時間トシ其以外ニ在テハ消散スルコト適施セサルヲ得ス今其理由ヲ説カント夫レ第四項ニ依ルルハ船具ハ尙ホ未ダ倉庫ニ藏メアルモノトスルヲ以テ其以來船舶ハ航海セザルモノトスルヤ明カナリ又第十一項ハ最終ノ航海ニ

付テノ荷主ノミニ適施ス何トナレバ荷主ノ地位ヲ運賃人及ヒ保險者ノ如キ其荷主ヨリ先キニ分配ヲ受クル總テノ債主ヨリハ善クスルコト能ハサレバナリ(第九項第十項)

以上論ス可キ所己ニ終リタリサレバ第九十一條ニ依ルルハ余輩ノ説ク所ノ一切ノ特權ハ海船カ更ニ又航海シタルルキハ消散ス可シ何トナレバ此航海ヲナシタル以來ハ余輩ノ説ク所ノ特權ヲ生セシメタル所ノ航海ハ最終タルヲ得ザレハナリ是レ其特權ノ消滅スルハ偶然生シタル事件ニ因リテ消滅スルコト非ス全ク其成立スル所ノ要件ノ欠クルニ因ルナリ恰モ民法典第二千百一條ニ定ムル所ノ最終ニ非サル疾病又ハ最終ノ六ヶ月以前若クハ一年以前ノ供給(第二千百一條第五項)ニ付テノ特權ノ如シ是故ニ前五項ノ諸債主ハ未ダ支拂ヲ得サル前ニ船舶ヲシテ航海セシム可カラズ且其他ノ諸債主ハ今マ船舶ノ爲サ

ントスル航海ヲ目的トシテ約定ヲナシタルヲ以テ其航海ヲ遂ケシムルハ自己ニ害ナシト雖モ一度此航海ヲ終リタルキハ已レ全ク辨償ヲ得ザルノ間ハ又更ニ航海ヲナサシム可カラズ法律ハ此期限ヲ以テ其債主等カ自己ノ權利ヲ行フニ充分ナリトス且其債主等ノ特權ヲシテ最モ永ク成立セシメタルキハ反テ他ノ債主ヲ害スルモノトス○第九十一條ノ諸債主ハ再度ノ航海ノ爲メ特權ヲ失フト雖モ通常ノ債主タルヲ得ルハ論ヲ俟タザルナリ

船舶ノ製造者ノ特權ヲ行フニハ法律ハ海船ノ未ダ航海セサレトキ要ス故ニ其製造者ハ前五項ノ債主ノ如ク先ツ船舶ノ出帆セサル前ニ諸權利ヲ行ハザルヲ得ズ○余輩ハ海船ノ賣主ノトハ暫時之ヲ説カサルナリ

(第千百三十九號) (論題) 海船ハ何レハ時前五項ノ諸特權ヲ消散スル

所ノ航海即チ前航海ニ屬スル諸特權ヲ消散シテ之レニ代フニ後航海ニ屬スル諸特權ヲ以テスルハ航海ヲナシタリトスル乎

此航海ハ如何ナルモノカハ法律ニ於テ決定セサレトキ第九十四條ハ二三ノ法律上ノ推測ヲ以テ諸債主ノ追跡ノ權ヲ消散スル所ノ航海ハ如何ナルカヲ義解ス(第百九十三條)

(論題) 先取權ヲ消散ス可キ場合ニ亦是チ適用ス可キ乎

此論題ヲ決定スル者二説アリ第一説ハ是チ適用ス可キモノトシ第二説ハ是チ適用ス可キモノニアラズトス○第一説ニ曰ク第百九十四條ハ立法者カ之ヲ置キタル所ニ依リ又其法文ノ最終ノ語ニ依ルキハ最直接ニ第百九十三條ニ關連シテ追跡ノ權ノ爲メ最直接ニ設ケタルハ勿論ナリト雖モ其定ムル所一般ニシテ凡ソ航海トハ如何ナルモノカヲ義解ス○其理由ハ亦先取權ニ適用ス乃チ立法者ハ二三時間ノ航海

即ち單ニ海上ニ遊航スル等ノ一ヲ以テ諸特權ヲ消散スルヲ豫防セシ
トシタルナリ故ニ其論題ヲ可決セザルヲ得ズト○第二說(余輩ハ之ヲ
取ルニ曰ク)第百九十四條ハ條理ニ甚タ適セザル推測ヲ定ム故ニ其推
測ハ明ニ定ムル場合外ニ推及シテ適用スルヲ得ス○其條ノ在ル所
ニ就テ觀ルキハ全ク追跡ノ權ノ爲メ定メラレタルハ明カニ證スル
ニ足ル且其法文ノ未段ハ賣主ノ諸債主ノ故障ノ一ヲ記シテ其適例ヲ
制限ス且其法文ノ初段ハ論者ノ以テ文意廣漠ニシテ一般ヲ定メタリ
ト云フト雖モ單ニ航行(ウワイヤーシユ)ト云ハズンテ第百九十三條ニア
ル處ノ海上航行(ウワイヤーシユ)ノ語ヲ再用スルヲ以テ觀レ
ハ一層第三百九十三條トノ關連ノ密ナルヲ知ル可シ故ニ其定ムル所
ノ場合ノ外ニ其定規ヲ適用スルヲ得サルナリ○先取權ヲ消散スル
ニハ實確ノ航海ヲナスヲ要スルハ勿論ナレハ其之ヲ確定スルハ事實

ノ情狀ニ依ル可クシテ決シテ第百九十四條ノ定ムル如キ不條理ノ規
則ニ依ルヲ能ハザルナリ法官ハ確實ノ航海ト虛妄ノ航海トハ事實ノ
推究ニ依リ判定スルヲ容易ナリ若シ第百九十四條ニ依ル可シトスル
キハ反テ之ヲ判定スルニ混雜ヲ來タス可シ(以下第百四十八號)故ニ
其條ニ依據スルハ無益ナリ○先取權ニ於テハ追跡ノ權ニ於ケル如ク
危害大ナラサルナリ何トナレハ海船ノ所有者ノ利害少ナレハナリ夫
レ一般ニ就テ云フキハ更ニ又航海ヲナストモ海上ニ存スル一切ノ特
權ヲ絶止セス唯タ前航海ニ屬スル特權ニ代フルニ更ニ後航海ニ屬ス
ル特權ヲ以テスルノミ以上ノ理由ナレカ故ニ其論題ヲ否決セサルヲ
得ズトス

第百九十四條ニ依據スル所ノ均一ノ規則ヲ法律ニテ余輩ノ今ニ論ス
ル場合ニ適施スルヲナキニ付多數ノ學士ハ最終ノ航海ノ語ハ第百九

十一條ノ各項ニ於テ同一ノ意義ニ解スルヲ能ハズ其各特權ニ付其意義相異ナルモノトス○其說ニ曰ク或場合ニ於テハ海船ノ航海スル事確實ナルキハ敢テ其長短ヲ論スルヲ要セサルヲアリ是レ商法典ニテ債主權ハ海船ノ港内ニ入リタル以來又ハ海船ノ出帆前ニ生スルモノトスル場合ナリ(第九十一條第三第五第八參看)○其他ノ場合ニ在テハ航海ノ繼續時間ハ實ニ航海ヲナシタルヲ依テ量定ス是レ債主ト債主トノ間ニ契約ヲ以テ例ヘハ第七項ニ於テノ如ク航海ノ語意ヲ確定セサルノ場合ナリ○然レモ若シ契約ヲ以テ其雙方ノ義務ノ保續時間ヲ定メタルキハ此保續時間ヲ以テ其義務ヲ保証スル所ノ特權ノ保續時間トス故ニ氷夫艤裝帳ニ依テ雇入レラレタルキハ其時以來受ク可キ給料ニ付テ特權ヲ有ス(第九十一條第六第九十二條第二)假令ヒ其時間中ニ海船數度航海ヲナスト雖モ其特權ハ依然存シテ消

散スルヲナシ故ニ保險者トノ關係ニ於テハ(第九十一條第十)最終ノ航海ハ保險契約ヲ以テ保險シタル總テノ時間即チ保險サレタル總テノ航海ノ意ニ解ス可シ其時間中海船數度航海ヲナスト雖モ決シテ之レニ關セサルナリ又若シ往路ノ航行ト歸路ノ航行トヲ相分テ保險シタルキハ歸航シタル後ハ歸路ノ保險者ノミ特權ヲ有ス何トナレバ此航海ノミ最終ノ航海タレバナリ又荷主トノ關係ニ於ケル亦同然ナリトスト○余輩ハ前說ヲ是認セズ之ヲ取ラザルナリ前說ハ特權債主ノ利害ヲ圖慮スルヲ甚過コシテ反テ當テ失ス○夫レ最終ノ航海ヲ以テ特權ノ保續時間トシ其以外ニ在テハ消散スルトナシタルハ是レ立法者ガ其特權債主ヲシテ其諸權利ヲ行ハシムルニ充分ニシテ且適當ナル時間ヲ與ヘタリトスル所ナリ且一弊ノアリテ存スルヲ豫防シタルナリ蓋シ其特權ヲシテ一層永キ時間保續セシムルキハ其債主或ハ自

己ノ不注意ニ依リ或ハ負債主ト串通シテ其特權ヲ永時ノ間行ハズシテ其以來積集シタル債主權ヲ一時ニ行フテ其債主ノ後ニ特權債主トナリタル者又ハ通常債主ニ損害ヲ受ケシムルコトアリ是レ立法者ノ豫防シタル一弊ナリ○如斯本條第九十一條ヲ説明スルハ最モ條理ニ適ス然ルニ適反對論者ノ説ニ依ルキハ水夫四年又ハ五年間雇入レラレタルキ又保險者四年又ハ五年間保險ヲナシタルキハ其年月中ニハ海船ハ二十度三十度又ハ百度ノ航海ヲナスコトヲ得ルナリ其後ニ至テ水夫ハ自己ノ給料又保險者ハ自己ノ保險ノ賃料ノ全高ヲ特權ヲ以テ請求シ得ルキハ海船ノ價額ノ全高ハ殆ト其二人ニテ收取スルニ至ルナリ豈ニ如斯理アラシヤ○立法者何レノ場合ニ於テモ「最終ノ航海」ノ同一ノ語ヲ示シタルハ諸債主ノ諸權利ヲ保護スルニ充分ナル同期限ヲ與ヘタルナリ○此期限ハ完全ノ航海ノ時間ヲ云フナリ完全ノ航海ト

ハ往航ト歸航トチ兼テ包ミタル航海ヲ云フ其航海中又ハ其航海ニ付債主トナリタル者ハ其權利ヲ行フニハ海船ノ佛國ニ歸着スルヲ待タサルヲ得ス然ルニ其歸着シタル時ニ其權利ヲ行ハサルハ其者ノ自由ニシテ決シテ正實ノ理由アルニアラサルナリ殊ニ水夫雇入ノ場合又保險契約ノアリシ場合ニ於テハ水夫又ハ保險者ハ海船ノ歸航シタルキハ其航海ニ付テ受ク可キモノヲ請求ス可キハ自然ノ理ナリ(殊ニ水夫ニ關シテハ以下第千二百十九號參看)以上ノ理由ナルカ故ニ余輩ハ前説ヲ是認セサルナリ

定繫港ハ海船ノ法律上ノ住所ナリ故ニ海船ハ其定繫港ヲ出帆シテ復タ此ニ歸着スルハ其常ナリ而シテ其出帆前ニハ必ズ何レノ港ニ歸着スルカヲ豫シメ常ニ告示スルナリ故ニ出帆前ニ債主トナリタル者ハ其權利ヲ行フニ甚タ容易ナリ立法者カ其規則ヲ設ケタルハ此常ニ在

ル所ノ場合ニ依リタルナリ海船時トシテハ定繫港ニ歸着セズシテ佛國ノ他ノ港又ハ歐洲ノ他ノ港ニ歸着スルコトアリ是又其出帆前ニ告示スヘシ故ニ諸債主ハ其歸着ノ港ニ於テ權利ヲ行フコトヲ得海船航海中ニ其方向ヲ轉シ指定港ヲ變シテ他港ニ航着スルコトアリ殊ニ歸路ノ航行ニ於テ多シトス而シテ之ヲ變換スルコトアルハ全ク其積荷ノ都合ニ依ルナリ此場合ニシテ若シ其他港ニ航達スルハ其附從タル航行タルキハ其定繫港ヲ去ルノ總テノ時間中ハ一航海ト看做サベルヲ得サルナリ(デニフール氏第百二十二第二百二十三〇ドマンシヤ氏第四卷第五十ニ)然レモ若シ其佛國ノ他港又ハ歐洲ノ他港ニ歸着シタル後管テナセシ航海ヨリ重大ノ航海ヲ定繫港ニ航行スルコトヲクシテ更ニナシタルキ或ハ佛國ニ歸航セスシテ直ニ兩外國ノ用ヲ辨スル爲メ其航行ニ從事シタルキハ其最初ノ航海ハ佛國又ハ歐洲ノ地ニ歸着シタルキ又ハ

其兩地ニ再タヒ歸航スルコトヲ暫時止メタルキ終リタルモノトナサベルヲ得ズ此場合ニ於テハ特權諸債主ハ其特權ヲ行フコト能ハザルノミナラス全ク船舶ノ所有者ヨリ欺カレタリト雖モ如何トモスルコト能ハズ決シテ二三ノ場合ニ於テ弊害ノ生セザル所ノ規則ハナキモノナリ而シテ其諸債主ノ損失ヲ受ケルハ此場合ノミナラズ海船海難ニ依テ毀損シタルキ許多ノ損失ヲ受ケザルヲ得ザルナリ且如何ニ法律ヲ設ケ思想上ノ條例ヲ設ケ其弊ヲ防カントスト雖モ決シテ適理ノモノヲ制定スルコト能ハザルナリ又其海船定繫港ニ歸着セザルノ間ハ一航海ト看做ストノ論ヲ主張スルコト能ハザルナリ(デニフール)及ヒドマンシヤ二氏ハ反説ヲ持ス

(第千百四十號) 余輩ハ此項ニ至ルマテハ海船ノ賣主ノ特權ヲ説カザリシナリ之ヲ説カザリシハ蓋シ故アルナリ夫レ余輩ハ海船賣主ノ特

權ハ海船ノ最終ノ航海ニ依テ消滅セズ又其海船買主ノ手ニアル限
 ハ如何ナル航海ヲナスト雖モ決シテ消滅セザルモノトス○海船ノ賣
 主ノ特權ハ賣買ノ後初度ノ航海ニ依テ消滅スルモノト主張スルハ第
 百九十一條第八項ヲ誤讀スルニ依ルナリ○夫レ若シ海船未タ航海セ
 サルキハノ語ヲ賣主ノ語ニ關セシムルキハ此解釋ハ前ニ余輩ノ排斥
 シタルモノナリ海船最初航海ヲナシタル後ハ幾度賣拂ヲナストモ決
 シテ特權ヲ生セサルモノトナサザルヲ得ズ然レモ論者ト雖モ如此意
 義ナリト爲サザル可シ其賣拂ヲナス毎ニ特權ヲ生スト雖モ其後航海
 ナナス毎ニ消滅ス可シトノ意義ナリトナスナル可シ是レ余輩ノ取ラ
 ザル所ナリ○又海船其買主ノ手ニアルキハ一度航海ヲナセバ第九
 十四條ニ依テ其賣主ノ特權ヲ消滅スルハ不可ナリ○此說ハ亦第九
 十四條ノ真意ヲ解セザルニ依テ起ルモノナリ本條ハ海船尙ホ買主ノ

手ニ存スルキ第九十條ニ從ヒ賣主ニ對シテ成立スル諸特權又ハ諸
 債主權ニ付定メラレタルモノナリ斯ノ追跡ノ權ハ第九十三條第百
 九十四條ニ記ス所ノ航海ニ依テ消滅ス然レモ此條ハ買主ニ對シテ生
 シタル特權ニシテ買主ニ對シテ先取權ヲ行ハントスル場合ニハ適用
 セザルナリ但唯々債主第二ノ買主ニ對シ追跡權ヲ行ハントスルキ適
 用スルノミ○以上ノ理由ニ依リテ觀レバ何レノ條ニ於テモ海船ノ賣
 主ノ特權ヲ制限スルヲナシ故ニ其特權ハ船舶ノ航海ヲ幾度ナストモ
 決シテ其度數ニ抱ハラズ其船舶其買主ノ手ニ存スルキハ常ニ存スル
 モノトス而シテ其理自ラ分明ナリ即チ海船ノ賣主ハ其買主ノ財産ニ
 海船ノ全價ヲ増加シタルナリ然レモ其他ノ特權債主ハ其價ノ一部ヲ
 増加シタルノミ又之ヲ増加シタルモ其賣主ニ比スルキハ只タ一時ノ
 一ニシテ永久ナラズ何トナレバ其諸債主權ヲ生シタル諸事件ハ一時

ニ終ルモノニシテ毎々更爲ス可キ事件ニシテ又之ヲ更爲スルヲ甚ク頻ナルナリ

海船ノ賣主ノ特權ハ民法典ニ於テ不動産ノ場合ニ於ケル如ク其海船賣主ノ身上ヨリ生シタル特權債主ノ後ニ列ス可キモノトス何トナレハ追跡ノ權存スルキハ其總テノ特權ハ海船ノ賣拂ノ後ト雖モ存スレバナリ而シテ其賣主ハ其特權債主ヨリ前ニ分配ヲ受ケンヲ求ムルヲ得ズ然レモ若シ其特權第九十三條第九十四條ニ依テ消滅シタルキハ其賣主ハ其買主ノ債主ニ對シテハ第九十一條第八項ノ列ヲ占ムルヲ得可シ

(第一千四百一十一號) 其他海船上ニ存スル諸特權

(論題) 海船上ニハ第九十一條ニ於テ列定スル諸特權ハ外尙ホ通常ハ諸特權存ス可キモノトス可キ乎(民法典第二千一百一十一條第二千一百二

條○商法典第九十五條第五百四十九條)

第九十一條ノ第一項ニ左ニ記列スル諸負債ハ其記列ノ順序ニ從ヒ特權アリトス「トアリ此文面ヲ一讀スルキハ立法者ハ通常ノ諸特權ハ海船上ニ存セストノ制限ヲ示シタルモノト看做サ、ルヲ得サルナリト云フヲ得可シ且其說ヲ確ニスル爲メ若シ普通法ニ依リテ他ノ諸特權ヲ海船上ニ許スルハ之ヲ如何ナル順序ヲ以テ列ス可キカ知ルヲ能ハス何トナレハ第九十一條ハ其記ス所ノ諸特權ヲ列定シ且其順序ヲ定ムルハ動ス可カラサルモノナレバナリト云フヲ得可シ然レモ其說非ナリ夫レ海船ハ動産ノ部類ニ入ルヲ以テ民法典第二千一百一十一條第九十二條ノ廣ク定ムル所ヲ以テ直ニ支配セラレザルヲ得ズ故ニ其二條ヲ海船ニ適用ス可カラズトスルニハ其事ヲ法律中ニ甚ク明確ニ定ム可キナリ然ルニ立法者ノ考意如何ニ付第九十一條ハ如何ナ

ル想像ヲ起サシムルトモ其法文中普通ノ適施ヲ明カニ制限シタリト
 ノヲ掲記セズ一〇普通特權ヲ有スル債主ハ立法者之ヲ大ニ保護ス
 ルヲ以テ負債主ノ動産タル總テノ財産ヲ以テ拂テ受ク可キモノナル
 ニ之ヲ得可カラズトシ且其財産中重大ノ部分タル海船ノヲ至テ之
 ヲ以テ拂テ受クルヲ能ハズトスルハ許ス可カラサルノヲナリ二〇特
 別特權ノ債主中ニ例ヘバ至少ノ動産ヲ保全シタル者ハ其價額ヲ以テ
 拂テ受ケ而シテ往々自己ノ身命ヲモ願ミズシテ海船ヲ救助シ又ハ保
 全シタル者ハ其海船ノ價額ヲ以テ拂テ受ク可カラズトスルハ決シテ
 アル可キノ理ナシ三〇論者ハ普通特權ノ順序ノヲ付之ヲ定ムルノ
 難キヲ引援スト雖モ余輩ノ後ニ示ス如ク余輩ノ觀ル所ニテハ最易々
 タリトス四〇此四理由アルヲ以テ余輩ハ普通特權ハ海船上ニモ存ス
 可キモノトス

普通法ノ諸特權ハ前ニ云フ如ク海船ニ適施ス可シト雖モ然レモ此ニ
 取除チナス可キヲアリ即チ第九十一條ニ記ス所ノ債主ニシテ其場
 ノ諸條件ノ區域内ニアラザル者ハ自己ニ適施ス可キ普通法ノ特權ニ
 關スル諸定規ヲ適施セラレノヲ求ムルヲ得ズ立法者第九十一
 條ニ於テ其債主等ノヲ定メタルハ其者ニ向フテ普通法ノ諸規則ヲ
 確定シ且改正シタルナリ故ニ氷夫又ハ船長ハ最終ノ航海ノ其直前ノ
 航海ノ自己ノ給料ニ付テハ僱使セラレシ者ノ部類(民法典第二千百二
 條第四)又ハ商家ノ手代及ヒ工丁ノ部類コ入ラノヲ求ムルヲ得ズ
 (第千百四十二號) 然レハ海船ニ適用ス可キ普通法ノ諸特權ハ如何ナ
 ルモノヲ云フ乎

先ツ第一ニハ民法典第二千百一條ノ一般ノ特權ナリ但シ此ニ注意ス
 可キアリ裁判ノ諸費用ハ第九十一條ニ於テ已ニ列記シテ第一列ニ

置キタリ ○其他ノ一般ノ諸特權ニ付テハ其順列ヲ定ムルハ余輩ノ爲
 ス如ク普通法ニ於テノ如ク一般ノ諸特權ハ特別ノ諸特權ノ下ニ列置
 スルモノトナスキハ容易ナリ而シテ第百九十一條ノ列定スル所ニ變
 更ヲ加フルヲ要セス唯タ一般ノ諸特權ヲ其後ニ置クノミ
 民法典第二千二百二條ノ特別ノ諸特權中海船ノ賣主ノ特權ト諸船具ヲ
 倉庫ニ藏メタル場合ニハ其倉庫ノ貸貸主ノ特權トヲ取除クモハ只タ
 海船ヲ保全シタルト并ニ之ヲ引當質トナシタルトニ原因スル所ノ
 諸特權ニ付キ論スルコトアルノミ

○其引當質トナシタルトニ付テハ己ニ海船上ニ質權ヲ構成スルコトヲ
 許シタルコトアリシト雖モ之ヲ質トスルニ付キ紛難ノコトアルハ債主之
 ナ占有スルヲ要スルコトナリ此要件ハ海船ニ於テ行ハレ難キコトナレ
 之ヲ要セスシテ質トナスコトヲ得ルノ諸方案ヲ制定シタリ是レ皆不充

分ナリトス獨リ千八百七十四年十二月十日ノ法令ハ實際需ムル所ヲ
 満足セシメタリ此法令ハ海上書入質ノコトヲ制定シタリ因テ純然ノ質
 權ノコト今テハ論スルヲ要セザルナリ ○物件(海船)ノ保全ニ原ク所ノ
 特權ハ之ヲ適施スルニ付甚々緊要ノ場合アリ即チ海船ノ救助ニ助力
 シタル者ニ拂テナス可キノ場合はレナリ第二千二百二條第三項ヲ適施
 スルキハ其助力シタル者ハ特權ヲ得ルナリ商法典第二百六十一條ハ
 其之ヲ得ルヤ否ヤニ付明確ナラス其者ハ海船救助以前ノ諸債主ヨリ
 前列ヲ占ム可クシテ彼レヨリ先ニ拂テ受ク可キモノトス何トナレハ
 其諸債主ヲ質物ヲ保全シタレバナリ是レ第百九十一條第二第三第五
 第七ノ諸項ニ於テ適施シタル元則ナリ其者ハ前ニ反シテ海船救助以
 後ノ諸債主ヨリ下列ニアリテ其債主ヨリ後ニ拂テ受ク可キモノトス
 其債主ノ特權ノ原ク所ニ至テハ前ト異ナルコトナシ此順列ハ第百九十

一條ノ順列ヲ變更スルヲ甚ク僅々ナリ

商法典ニ於テ仲買人ノ爲メ定メタル特權ハ海船上ニ成立ス可キ乎
人ハ皆海船ノ「コンシギヤテール」ノ爲メニハ其特權ハ成立ス可キモノ
トス「コンシギヤテール」トハ遠去ノ港ニ於テ海船ノ到着ヲ待テ之ヲ受
取り其世話ヲナシ且歸航ノ「」ニ關シテハ其一切ノ「」ヲ專爲スルノ任
ヲ特ニ受ケタル仲買人ノ「」ヲ云フ然レモ海船ハ之ヲ「送付」又ハ付托
シ又ハ賣ル爲メ預ケタル商品ノ中ニ入レシムル「」難シ○且余輩ハ余
輩ノ説ニ於テハ其問題ハ己ニ否決シタルナリ何トナレハ余輩ハ其特
權ハ海船ヲ賣拂フ「」ノ任ヲ受ケタル仲買人ノ爲メノ「」ニ存スルモノ
トナシ「」(第五百三十五號)然ルニ是レ海船ノ「コンシギヤテール」ト異ナ
ルモノナリ

(第千四百三十三號) 諸特權ノ所在

諸特權一切ノ附從物ヲ備ヘタル海船ノ全部ニ付キ成立スルモノトス
余輩前ニ第千百十六號ニ於テ論明シタル所ノ事特權ノ付着スル物件
ハ如何ナル者カヲ定メシムルニ付キ充分ナリ未タ解定セサル一ノ問
題アリ即チ特權ハ海船ノ消滅シタル「」ハ其海船ノ保險者ノ拂フ所ノ
償金ニ移ル乎ヲ知ル是レナリ余輩ハ此問題ヲ第千三百二十號ニ於テ
一般ノ點ヨリシテ論明ス可シ

第二項 諸債主ノ追跡ノ權及ヒ其ノ消滅

(第千四百四十四號) 動産ハ之レヲ書入質トスルモ追跡ノ權ナシト、(民
法典第二千百十九條)是レ民事ト商事トヲ問ハス我カ法律ノ一般ノ規
則ナリトス是レ書入質權ニ於ケルモ又特權ニ於ケルモ追跡ノ權ナシ
ト解セザルヲ得ズ第百九十條第二項ハ其一般ノ規則ニ違反ス其定ム
ル所ヲ以テ海船ハ動産ナリトノ原則ニ取除ヲナシタルモノトス本條

ハ海船ノ賣拂ノ場合ノコノ直ニ定メ海船ハ其ノ賣主ノ負債ノ引當品タルモノトス是レ賣主アルノ故ヲ以テ海船ヲ賣リタルノ後ト雖ヒ尙ホ其海船ハ其買主ノ手ニアリテ其賣主ノ負債ノ償辨ニ抵當トナリタルモノトストノ意タルヤ明ナリ

是レ不動産ニ關スル固有ノ規則ヲ船舶ニ及ホシタルモノニシテ余輩ノ已ニ論シタル特權債主ニ付テノ普通法ニ已ニ大ニ違反シタルモノニシテ其一大例外タリ然リ而シテ尙ホ是レヨリ甚シキモノアリ第百九十條ハ法律ノ特權アリトスル所ノ負債ニ殊ニ是定規ヲ適施シテ尙ホ歩ヲ進メテ海船ハ通常ノ負債ノ引當品ナリトス何トナレハ其ノ第二項ノ終リニ法律ノ特權アリト定メタル負債ニ殊ニ云々ノ語アルヲ以テ觀レハ其項ノ初メニハ通常ノ負債ヲモ含メハナリ通常ノ負債ニ付キ追跡ノ權ヲ許與スルハ我カ法律中決シテ他ニ類例ノナキナリ

二三學者ハ第百九十條第二項ハ負債主債主ノ權利ヲ害スル爲メナシタル諸賣拂諸贈與等凡テ自己ノ權利ヲ他人ニ移ス所ノ諸契約ヲ取消スコトテ其債主ニ許シタルモノニシテ即チ民法典第千百六十七條ノ適例ヲ示シタルニ過キスト然レモ此說ハ第百九十條法文ノ全体ト適合セス何トナレハ本條ハ海船ノ賣主ノ負債ニ海船ヲ引當ニスルコトヲ定メ第千百六十七條ノ解除ノ訴權(アクション、レウカトワール)ヲ行フニ付テノ必要ノ條件ヲ決シテ定メサレハナリ其條件トハ其賣主ノ無資力ナルコト其惡意ナルコト其買主ト申通シタルコトノ證ヲ立ツル是レナリ○且又第百九十六條第二項ハ債主ノ有スル二箇ノ權利即チ追跡ノ權ト第千百六十七條ノ解除ノ權トヲ注意シテ區別スレハナリ

前論ニ依ルキハ債主ハ其權利ヲ行フニハ別段ニ裁判所ニ出訴スルヲ要セス債主ハ賣主ノ手ニアル海船ヲ直ニ差押フルコトヲ得而シテ其賣

主ハ其海船ハ己ニ他人ニ賣渡シタルヲ申述ヘテ其請求ニ付故障ヲ述フルヲ得ストス(民法典第二千六百六十九條比較)此差押ヲナスノ權ハ第九十條第二項ノ法文ヨリ生ス其法文ニ於テ海船ハ己ニ之ヲ他ニ讓渡シタルキト雖モ尙ホ賣主ノ負債ニ引當ラレ、モノトス夫レ如何ナル種類ノ財産ヲ論セス財産ニシテ負債ニ引當ラレルトハ其負債ノ爲メ差押ヘラレルトヲ得ルトノ謂ナリ其買主ハ差押ノ訴訟手續ノ煩ヲ避クル爲メ買入レタル海船ヲ拋棄(デレスマン)スルヲ得レハ勿論ナリ(民法典第二千七百七十二條比較)何トナレハ此權利ハ其負債ニ付自カラ責ヲ負ハスシテ其引當トナリタル物件ヲ占有スル總テノ者ニ屬スレハナリ又其買主ハ海船ヲ差押ヘントスル所ノ諸債主ニ全ク拂ヲナシテ以テ其差押ヲ避クルヲ得此場合ニ於テハ其債主ハ決シテ故障ヲ言フヲ得ス(民法典第二千六百六十八條比較)又其買主ハ其債主

ニ海船ノ買入代金ヲ提供スルヲ得但シ此提供ハ特權又ハ書入質權ヲ濫除スルヲメナシタル提供ニ民法典ニテ屬セシメタル所ノ効ヲ有セサルモノトス(民法典第二千八百八十三條以下)而シテ其債主ハ提供ヲ諾スルト否トハ其權内ニアル者ニシテ之ヲ拒ムキト雖モ海船ヲ競賣スルノ義務ナシトス若シ債主此提供ヲ承諾シタルキハ差押ノ權ヲ失ユウ(氏第二册第五十四〇條)ハ(氏第九百五十〇條)ダシ第百五十一〇條(ア)ロゼ(氏第六百七十一條)何トナレハ如斯ノ義務アルニハ必ス法律ノ明文アルヲ要ス然ルニ此ニハ之レナケレハナリ商法典其他ニ特權ヲ濫除スルヲ制定シタリ余輩ハ之ヲ左ニ直ニ説示ス可シ

(第千四百四十五號) 此特別ノ濫除ハ最モ容易ニ最モ速カニ生スルモノトス即チ左ノ如シ
 第百九十三條 債主ノ特權ハ義務ノ消滅ノ一般ノ方法ノ外〇後卷ニ

定メタル法式ニ從ヒナシタル裁判上賣拂ニ係リ○又ハ海船隨意賣拂ノ後其賣主ノ債主ノ方ヨリノ故障ナク其買得者ノ名前ニテ且其擔當ニテ海上航行ヲナシタルキハ消滅スルモノトス

此條ハ「特權」ノ消滅スル下ノミチ定ムト雖モ通常債主ノ有スル追跡ノ權ニ亦適用スルヤ論ヲ俟タサルナリ○夫レ特權債主ノ追跡ノ權己ニ消滅シテ通常債主ノ追跡ノ權尙ホ消滅セサルトスルハ深ク怪ム可キナリ特權債主ノ追跡ノ權己ニ消滅ス况ンヤ通常債主ノ追跡ノ權ニ於ケルオヤト第百九十三條ニ於テ況法ノ解釋ヲナシテ前ノ如ク論定セサルヲ得ス○且千六百八十一年ノ王令ハ特權債主ノ追跡ノ權ヲ定ムル條ニ於テ通常債主ノ追跡ノ權ト其海上航行ニ依リ又ハ勅令ニ依テナス賣拂ニ依リ消滅スルトナシ共ニ定メタリ即チ第百九十條第二項ノ定規ト第百九十三條ノ定規チ一條ニ合定セタリ商法典ハ特權ノ表

ヲ掲記スル爲メ之ヲ二條ニ分テ定メタリ故ニ此二定規ハ密着ノ關係ヲ固ヨリ有スルナリ然ルニ立法者之ヲ破フリタルヲ示指スル所ノモノナキナリ

商法典ハ先ツ結果トシテ追跡ノ權ヲ消滅スルノ方法ヲ示ス是レ義務ヲ消滅スル一般ノ原由ナリ余輩ハ此事ニ付別ニ説ク「ナ」夫レ債主權己ニ消滅シタルキハ追跡ノ權ノ從フテ消滅スルハ論ヲ俟タサルナリ

又次ニ追跡ノ權ヲ消滅スル特別ノ原因アリ債主ノ追跡ノ權ヲ拋棄スルハ海船ノ消滅スルハ海船ノ奪掠セラレルハ是レナリ○又商法典海船上追跡ノ權ヲ滌除フルノ事件ヲ示ス即チ一方ニ在テハ普通法ニ從フテナス差押上賣拂是レナリ他方ニ在テハ賣主ノ債主ノ方ヨリノ故障ナク買主ノ名前ニテナス海上航行是レナリ「余輩」ハ此二箇ノ消滅ノ

方法ニ付左ニ論述スル所アル可シ

(第千四百十六號) 第一 差押上賣拂

是レ普通法ノ單純ナル適施ナリトス即チ訴訟法典第七百七十七條ニ參照ス可シ(差押上賣拂トハ債主支拂ヲ得ンカ爲メ負債主ノ財産ヲ差押ヘテ之ヲ賣拂フヲ云)○第百九十三條ハ裁判上賣拂ノ語ヲ用ユ其一語ノミアルキハ他ノ場合ヲモ含ムナリ例ヘハ幼者又ハ破産人ニ屬スル海船ノ賣拂(五百七十二條海船共有者ノ一致セサル場合ニ要スル其海船ノ賣拂(二百二十條第三項)是レナリ然レモ次卷ニ定ムル法式云々ノ語アルヲ以テ裁判上ノ賣拂ノ語意ヲ制限シテ其他ノ場合ヲモ含マシメサルナリ故ニ此ニ云フ所ノ賣拂トハ負債主ノ財産(海船)ニ差押ヘテ強ヒテ之ヲ賣拂フヲ云フ是レ亦第百九十七條ノ示ス所ナリ○且此論定ハ普通法ニ適合スルナリ普通法ニ依ルキハ特權及ヒ書入質

權ヲ濫除スルハ獨リ強迫賣拂ノミナリトス(訴訟法典第七百七十二條第三項)○同第七百七十七條末項○以上第千七十八號ヲ參照ス可シ○余輩ノ示シタル他ノ賣拂ハ次ノ場合ニ入ルナリ

(第千四百十七號) 第二 海上航行 但シ賣主ノ諸債主ノ方ヨリノ故障ナシ買主ノ名前ニテナスヲ要ス

海船海上航行ヲナシタルキハ其諸債主ハ買主ニ對シテ追跡ノ權ヲ行フヲ得ストス然レモ其航行ハ買主ノ名前ヲ以テシ且賣主ノ債主ヨリ故障ヲ述ヘタルヲナキノ諸要件ハ其諸債主ノ諸權利消滅スルニハ必ス欠ク可カラサルモノトス若シ其要件欠クルキハ其債主等ノ追跡ノ權ハ永然無窮ニ成立スルモノトス

海船ノ航行ハ買主ノ名前ニテ之ヲナシタルヲ要ス之ヲ詳言スレハ海船ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルヲ關稅局ノ姓名簿ト佛蘭西船證

書トニ登記シ且出港免狀ヲ買主ノ名前ニテ申請ケタル後航行シタル
 ヲ要スルコトナリ是レ他人ニ海船ノ所有權他ニ移轉シタルコトヲ知ラシ
 メ且ツ之レヲシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得サラシムル爲メ法律上定メ
 タル方法ナリ未ダ前ノ手續ヲ履マサルキハ其ノ所有權ノ他ニ移轉シ
 タルコトハ他人ニ對シ無効ナリトス然レモ其登記ヲナシタルヲ以テ尙
 ホ足レリトセス猶ホ海上航行ヲナスヲ要ス何トナレハ海船運行セサ
 ル以上ハ他人ハ其所有權移轉ノコトヲ已レニ知ラシムル者ナキヲ以テ
 關稅局ニ行テ姓名簿ヲ檢視シ又ハ佛蘭西船證書ヲ檢閱スルノ理由ナ
 ケレハナリ

且前項ニ於テ説キタル所ノ規則ト特權ノ保續時間ニ付キ論シタル所
 トヲ相參照スルヲ要ス海船ノ所有權ヲ他ニ移轉スルコトナキハニ航海
 ヲナスキハ以テ特權債主ヲ害スルコトヲ得可シ乃チ其債主カ最終ノ航

海ニ付テノ債主ヲラサルヲ以テ其特權ヲ失フナリ然レモ其債主ハ通
 常ノ債主トナルモ固ヨリ通常ノ債主タル所ノ者ノ有スル所ノ追跡ノ
 權ヲ猶ホ有シ買主ヲシテ船舶ヲ賣ラシメ又ハ其代價ヲ己ニ拂ハシ
 ムルコトヲ得可シ但シ其債主ハ最終ノ航海ニ付テノ特權債主トナリタ
 ル者先取權ヲ行フニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得サルハ無論又少クモ
 船舶ノ所有者ト直接ニ契約ヲナサス其船長ト契約ヲナシテ佛蘭西船
 證書ハ其買主ノ名前ニテ記シアラサルコトヲ知ルヲ得サリシ所ノ者ヲ
 シテ先取權ヲ行ハシメサルヲ得ス是レ余輩ヲ以テスルキハ第九
 十一條及ヒ第二百十六條ノ第一項ニ因テ生スル所ノ結果タリトス
 且又海船ノ航行ハ海船ノ賣主ノ諸債主ノ方ヨリハ故障ナクナスヲ要
 ス余輩ノ考フルニハ此故障トハ海船ノ買主ニ對シ其實主ニ代價ヲ拂
 フコトヲ禁止スル爲メ其債主ヨリナク故障ナリトス或ハ説ヲ爲シテ曰

ク其故障トハ關稅局ノ官吏ニ對シ其船長ニ出帆ニ付キ要スル書面ヲ渡スヲ禁止スル爲メナス故障ナリト是レ余輩ノ屢々聞ク所ノ言ナリト雖モ余輩ハ其官吏ニ對シテハ此故障ハナスヲ能ハサルモノトス
(以下第千百六十九號參看)○航海中ト雖モ其債主ハ猶ホ其買主ニ對シ故障ヲ述フルヲ得可シ(第百九十四條末項)

是ノ如ク債主カ故障ヲ述フルハ船舶ノ出帆前又ハ着港後ニ之ヲ差シ押フルノ權利ヲ消滅セシメヌシテ保續セシムルナリ夫レ此故障ヲナスニ依テ海船ノ買主其代價ヲ其ノ賣主ニ拂ハスシテ已レノ手ニ留置シ可キヲ知ルナリ其之ヲ留置クハ或ハ其賣主ノ債主賣買契約ヲ保存スルヲ承諾スルナレハ其債主ニ其代金ヲ拂渡ス爲メ或ハ其債主海船ヲ差押ヘタルニ依リテ賣買契約解除セラレタルハ確然其代金ヲ已ノ有トナス爲メナリ若シ其債主海船ヲ差押ヘタルハ其買主ノ

諸債主ヨリ先ニ分配ヲ受クナリ(又故障ヲナスヲ怠リタル債主ト雖受タナリ何トナレハ其權利ヲ失フハ買主ニ對シテ失ハナリ法律ハ其債主ヨリ追跡ノ權ヲ剝奪スト雖モ先取權ヲ剝奪セス即チ○ウレン氏王令第一編第十卷第二條○アロゼ!氏第一千六百七十一○反說○テフール氏第四百三十九以下)然レモ該債主カ航海中ニ故障ヲ述ヘタルモ余輩ノ既ニ説明シタル如ク其債主ハ此航海中ニ生シタル特權ヲ有スル債主ヨリ先ニ分配ヲ受クルヲ得ス以上論スル如キ規則アルヲ以テ船舶ノ買主ニシテ思慮深キ者ハ其名前ヲ以テ最初航海ヲナシ之ヲ終ラサル前ニハ其賣主ニ買入代價ヲ拂ハサルナリ

(第千百四十八號) 何レノ時ヲ以テ海船ハ一海上航行(航海)ヲナシタリトスル乎

○第百九十四條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ一海上航行ヲナシタリト看做ス可シ

海船ノ出帆及ヒ到着相異ナルニ港ニ於テ且其出帆後三十日ヲ經テ證明サレタルキ

他港ニ到着セスト雖モ出帆ト又同港ニ到着トノ間ニ六十日以上ヲ經過シタルキ又ハ海船遠路ノ航行ノ爲メ出帆シテ其賣主ノ諸債主ノ方ヨリノ請求ナク航行ニ於テ六十日以上ヲ經過シタルキ

此等ノ推測ヲ設ケタル所以ハ海船ノ買主カ其海船上ニ附着スル諸特權ヲ速力ニ消滅セシメンコトヲ欲シテ其海船ヲシテ二三日間ノ海船或ハ二三時ノ航海即チ眞ノ遊航ヲナサシムルコトアルヲ防クナリ諸入航海ヲ説明スルニ種々ノ方法ヲ求メタリト雖モ未タ商法典編纂委員ノナシタル本條ノ說明ヨリ最モ善良ナルモトヲ求メ得サリシナリ(王令編第十卷第二條)ハ何レノ時ヲ問ハス單ニ海上裁判區ヲ變換スルコト要シタリ(現令ハ余輩ノ諸學士ト同シク海船ハ商事上ノ航海ヲ爲シ且假令ヒ第九十四條ノ要件ヲ充タスト)モ修復ノ爲メ運行セサルコトヲ要スト云フ

第一項ニ於テハ海船カ出帆ノ港ヨリ異ナル他ノ港ニ至ルノ場合ヲ假定シテ少ナクモ出帆ト到着トノ間ニ三十日ノ時間ノ過クルヲ要ストセリ(海船ノ出帆及ヒ到着ハ各港ニ於テ官府ニ在ル)是レ之ヲ沿海航ヲナス所ノ海船又漁船ニシテ遠路ノ航行ヲナスモノト雖モ其漁船ニ要ムルハ少シク苛酷ニ似タリ然レモ此三十日間ノ期限ハ豫テ立法官ノ恐懼スル所ノ詐僞ノ所爲ヲ行フコトヲ得サラシムルニハ必要タルニ似タリ且最短期ノ航海數箇相加シテ一航海トナルコトアリ是レ余輩ノ後ニ説ク所ナリ此場合ニ於テモ特權追跡ノ權ヲ濫除スルナリ(或二三學者ハ第九十四條ノ法文ヲ余輩ノ如ク解釋セス其說ニ航海ノ時間ノ長短ヲ論スルヲ要セス假令ヒ一日ノ航海ヲナストモ出帆シテ後到着ノ港ニ碇泊シテ二十九日ノ日數ヲ經過スルキハ追跡ノ權ハ濫除スルモノトス而シテ其諸學者ハ且出帆後三十日ヲ經過シテノ語ヲ本條

ノ初文ノ「海船ハ一海上航行ヲナシタリト看做ス可シ」ノ語ニ關連スルモノトス然レモ彼等ノ如ク本條ヲ解釋スルハ其文章ノ自然ノ意義ニ反ス若シ彼等ノ如ク其文章ヲ解セサルヲ得サルキハ是レ眞ノ佛蘭西ノ文ニアラサルナリ○且其解釋ハ「且三十日云々」ノ語ノ前ニ句點ナキヲ以テ見レハ妄タルヲ知ル可キナリ其句點ナシ故ニ此語ハ「海船ノ出帆及ヒ其到着云々證明サレタルキ」ノ句ノミニ關連スルモノナリ○且又次項ニ於テ出帆ト到着トノ間ニ六十日ノ時間ノ經過スルヲ明カニ要ストス然レハ初項ノ三十日ニ於テモ同一タラサルヲ得ス若シ然カラサルキハ法律ノ定規相一致セサルナリ

（論題）若シ海船一航行ヲナスニ於テ其途中積荷ヲ陸揚スル爲メ又ハ積入ル爲メ處々ニ寄港シタルキ又ハ此期限内ニ處々ニテ寄港シテ積荷ヲ更ニ全ク積換ヘテ其實各々相異ナル數箇ノ航行ヲナシタル

キハ如何

或ハ曰ク其寄港ノ各航行ハ其海船寄港シテ出帆シタル後海上ニ三十日間アリテ又寄港シタルキニアラサレハ以テ一海上航行ヲナシタリトセスト余輩ノ考ニテハ此說ハ商法典編纂者ノ存意ニ適セサルモノトス○夫レ追跡ノ權ヲ行フチ最モ短少ナル期限ヲ以テ制限スルハ商法典ニ於テ望ム所ナリ若シ或者ノ說ニ依ルキハ或種ノ海船ニ付テハ其ノ追跡ノ權ヲ速カニ消滅セシメテ之ヲ永ク無窮ニ保續セシムルナリ○第百九十四條ヲ設ケタルノ目的ハ海船カ確定ノ目的ノナク唯々諸債主ノ權利ヲ消滅セシムル爲メ航海ヲナスヲアルヲ防クニ在リ然ルニ若シ或者ノ如ク本條ヲ解スルキハ本條ノ定規ハ全ク不要ノ事ヲ定ムルニ屬ス○本條ハ法律上ノ推測ヲ定ムルヲ以テ宜シク其意ヲ擴充セサル様ニ解ス可キモノニシテ其要スル所ハ海船ノ出帆シタ

ルヲト到着シタルトカ其間三十日ヲ經過シテ各々相異ナル二箇ノ
 港ニ於テ證認サレルヲノミニシテ其三十日ノ内ニ如何ナル航行ヲナ
 シタルカハ措テ問フ所ニアラサルナリ○又是ノ如ク「ベルリエー」氏カ
 此說ニ因テ諸特權ノ順序ヲ定ムルヲ付生スル種々ノ困難ナル場合
 ナ指示シテ本條ヲ解釋シタリ然ルニ今日マテ未ダ其解釋ヲ駁撃シタ
 ル者ナシ○是故ニ余輩ハ諸債主ノ權利ヲ消滅スル爲メニハ海船所有
 者佛蘭西船證書ニ之ヲ他ニ賣渡シタルヲ證記シタル後ニ出帆シ少
 ナクモ三十日間ヲ經テ他港ニ到着シタルヲ證明アルヲ以テ足レリ
 トシ其三十日間ニ處々ニ立寄りタルヲ如何ヲ問フヲ要セストス○
 出帆ト到着トノ間ニ三十日ノ時間アルヲ要セストスル學士ニ付テハ
 右論題ヲ變セサルヲ得ス即チ若シ海船立寄ノ港ニ在ルハ到着シタル
 モノト看做ス可キ乎ト問ハサルヲ得ス其學士ハ答ヘテ否トス且ツ海

上三十日ノ日數ヲ經過シタルノミニテハ追跡ノ權濫除セサル可シ必
 スヤ他港ニ到着シタル時ニアラサレハ濫除セス但シ明白ニ詐僞アル
 ノ場合ハ前論ノ限ニアラサルヲハ論ヲ俟タサルナリ例ヘハ海船荷物
 ナ載積セス空船ニテ一日ノ航海ヲナシ直ニ或港ニ立寄り此ニ碇留ス
 ル三十日ニシテ又虚船ニテ此ノ港ヲ出帆シテ三十一日目ニ他港ニ到
 着スル如キ場合はレナリ法律ハ推測ヲ定メテ以テ詐僞ノ場合ヲ豫防
 シテ之ヲ減少スルヲ得ルト雖モ全ク其跡ヲ絶ツテ能ハサルナリ其
 詐僞ト否トヲ審斷シテ法律ヲ遵守セシムルハ裁判官ノ任タリ
 「ベルリエー」氏ノ示ス所ノ困難ナル場合ノ如キハ余輩ヲ以テ觀ルルハ
 左程ニ困難ニ非ラス三十日ノ間ニナシタル各種ノ小航海ハ之ヲ一直
 線ノ一航海ト余輩ハ看做スヲ以テ處々ニ立寄りタルハ追跡ノ權ノ濫
 除ノ點ニ付キ云フキハ其一航海中ノ休息ト看做ス可シ且余輩ノ最終

ノ航海中ニナシタル費用ノ一ニ付キ論シタル諸規則ヲ是レニ適用ス可シ(殊ニ第九十一條第六項第七項ノ所第千百三十號以下ヲ參看ス可シ)

(第千百四十九號) 第九十四條ハ次ニ至テ海船カ此港ヲ出帆シテ他海ニ至ラスシテ復タ初メ出帆シタル港ニ立歸リタル場合ヲ想定ス此場合ニ於テ本條ハ其出港ト入港トノ間六十日ノ日數經過スルヲ要ス此場合ハ實際ニ行ハルヲ稀ナリ然レモ必ス行ハレ得サルノ場合ナリト言フヲ能ハス例トヘハ海船ノ指定シテ行カントスルノ港封鎖サレ之レカ爲メ船長同國ノ他ノ諸港ニモ入ルヲ能ハスモテ止ムヲ得ス元ノ港ニ立歸リタル場合ノ如シ是レ第二百七十九條ニ於テ思料シタル場合ナリ又漁業ノ爲メ海船何所ニ出帆シタル場合ノ如キ是レナリ若シ海船遠路ノ航海ノタメ出帆シタルキハ追跡ノ權ノ消滅スルニハ

諸債主ノ故障ヲ述フルヲナク航海中六十日以上經過スルヲ以テ足レリトス債主ノ故障ヲ陳スルヲナクシテ六十日ヲ經過スルキハ追跡ノ權ハ直ニ消滅ス買主ハ自由ニ航海ノ買入代價ヲ支拂フヲ得可シ賣主ノ諸債主ハ其買主ヲシテ再度其代價ヲ拂ハシムルヲ得ス且又其買主ノ特權債主若シクハ通常債主ニ對シテ其航海ヲ差押フルヲ得ストス○然レモ第九十四條ノ末尾ハ初項ノ定規ヲ廢罷セス即チ若シ海船航海ヲナシテヨリ六十日ヲ經過セスト雖モ三十日ヲ過キテ到着シタルキハ追跡ノ權ハ消滅ス

(第千百五十號) (論題) 海船ハ賣拂アリテヨリ以後ニシテ其賣拂ハ一チ船名簿并ニ佛蘭西船證書ニ登記シタル時ヨリ以前其賣主ノ債主トナリタル者ハ其買主ニ對シテ故障ヲ陳シテ其手ニ在ル海船ヲ差押フルヲ得ル乎

余輩ハ其債主ハ無論之ヲナシ得ルモノトス夫レ其登記ハ賣主ノ諸債主ノ爲メニ設ケタルナリ海船ヲ賣リタルニ付キ最モ害ヲ受クルモノハ海船ヲ頼ミ之ヲ保證トナシテ其所有者ニ金ヲ貸シ己レ知ラサル間ニ其海船ヲ賣拂ハレタル者即チ余輩ノ論スル所ノソノ諸債主是レナリトス通常債主ニシテ不動産ノトニ關シテ其所有權移轉ノ登記ナキヲ口實トシ己ノ爲メ引證スルヲ能ハサルハ其追跡ノ權ヲ有セサルヲ以テノ故ナリ然レモ若シ法律追跡ノ權ヲ其債主ニ與ヘタルハ亦其債主ニ所有權移轉ノ公廣ナキヲ己レノ爲メニ口實トシテ引證スルノ權利ヲ與ヘサルヲ得ス

(論題) 海船ハ賣拂ハテ適法ニ登記サレタル時ヨリ以後ニシテ其海船航海ヲナシ未ダ之ヲ終ラサルハ間ニ其賣主ノ債主トナリタル者コ付テハ如何

此場合ニ於テハ海船ノ所有權ハ其賣拂ノ適法ニ登記サレタルヲ以テ前ニ云フ所ノ其賣主ノ債主ノ權利未ダ生セサル前其買主ヲ離レテ其買主ニ全ク移ルナリ故ニ其賣主ノ債主ハ其海船上ニ一モ權利ヲ有セス然レハ其追跡ノ權ノ有無ヲ問フヲ要セサルナリ

第三項 海船ノ隨意ノ賣拂

第九十五條 海船ノ隨意ノ賣拂ハ書付ニ依テ之ヲナスヲ要ス可シ而シテ或ハ公正ノ證書ニ依リ或ハ私印ノ證書ニ依テ之ヲナスヲ得可シ
其賣拂ハ海船ノ港内ニアルトス又航海中ニアルトテ間ハ其全部ニ付又ハ其部分ニ付ナスヲ得可シ

(第千百五十一號) 此條ノ緊要ナル定規ハ航海ノ賣拂ハ書付ニ依テ之ヲナスヲ要スルモノ是レナリ(且其證書ニハ佛國船證書ヲ寫込マサ

ルヲ得ズ即共和曆第二年ウリンデミエール二十八日法令第十八條此定規ハ證人ノ證ヲ排斥スルヲ以テ目的トスルヤ明ナリ然レモ其定規ニ付キ困難ノ事生スルアリ

(論題) 右書付ハ法式トシテ(アドソラニタテム)要スル乎又ハ單ニ證據トシテ(アドプロバシヨチム)要スル乎又之ヲ他言ヲ以テ云ハバ書付即チ證書ヲ認メズシテナシタル海船ハ賣拂ハ全ク無効タル乎又ハ通常ノ證據ヲ以テ殊ニ自白及ヒ誓ヒヲ以テ證スルヲ得ル乎先ツ他人ニ對シテハ其賣拂ノ證書ハ必スナカレハカラサルモノトス何トナレハ其證書ナキハ關稅局ニ於テ其賣拂ノヲ簿冊上ニ記入セサレハナリ千七百九十三年九月二十一日勅令第四條○共和曆第二年ウリンデミエール二十七日法令第十八條且其賣拂ノヲ佛國船證書ノ裏面ニ記入セサレバナリ○其買主ト其買主トノ間ニ於テハ余輩ハ

其賣買ノヲ證書ヲ以テ證セザルモ他ノ證據就中自白及ヒ誓ヒヲ以テ證スルヲ得ルモノトス即チ余輩ノ己ニ適施シ又猶ホ後ニ適施セントスル所ノ規則ニ依ルキハ法律ノ確明ノ法文ナキニ於テハ凡ソ書付證書ハ其契約或ハ事件ヲ成立セシメ有効タラシムルタメ要ストナス可カラサルナリ若シ之ヲ其爲メ要ストスルハ我カ立法中全ク例外ノ事ニシテ變則ノヲタリトス(論題) 結、約、者、雙、方、間、ニ、在、テ、ハ、海、船、ノ、賣、拂、ノ、ヲ、往、復、ノ、書、狀、又、ハ、簿、冊、ヲ、以、テ、證、ス、ル、ヲ、得、ル、乎、

此問題ヲ解説スルモノ二說アリ第一說者ハ之ヲ然リトシ第二說者ハ之ヲ否トス余輩ハ第二說ヲ取ルモノナリ第一說ニ曰ク法律ノ單ニ望ム所ハ證人ノ證據ヲ禁スルニアリ○簿冊及ヒ往復ノ書狀ハ書付ノ證據ナリ若シ自白ヲ以テ證據トスルヲ許スルハ况ンヤ其自白ヲ含ミ

タル簿冊及ヒ往復ノ書狀ニ於テヤト○第二說ニ曰ク法律ノ望ム所
ハ只ニ書付ノ證據ノミニアラズ別段ニ公正ノ證書又ハ私印ノ證書ヲ
示定ス第九條ノ記ス所ニ依ルキハ此等ノ語即チ公正ノ證書又ハ私
印ノ證書トハ結約者雙方ノ手署アル書付ナリトス且往復ノ書狀及ヒ
簿冊ハ其條ニ於テ別ニ記載シテ全ク別物トス○故ニ法律ハ少ナクモ
私印ノ證書ヲ要シテ以テ暗ニ總テノ他ノ方法ヲ以テ証廷外ノ自白ヲ
證スルヲ禁ス是レ民法典第千三百五十五條ニ於テ證人ノ證ヲ許サ
、ルキハ口上ノ自白即チ書付ヲ以テ記サザル自白ヲ許サザルカ如シ
余輩ハ第九十五條ハ余輩ノ今マ論スル場合ニ於テハ民法典ノ要ス
ル所チ同シク要ストス故ニ余輩ハ私印ノ證書ハ二通ニ認メザルヲ得
ストス○然レモ日附ノ槩ナルヲニ付キ一論題ヲ起スヲ要セサルナリ
(民法典第千三百二十八條)何トナレハ關稅局ニ於テ海船ノ賣買ノヲチ

登記シテ其所有權ノ移轉ノヲチ確ニスルハ其證書ノ他人ニ對スルノ
ミナラス其賣主ノ通常ノ債主ニ對シテ効アルタメニハ必要ナレハナ
リ
(第千五百五十二號) 夫レ余輩ノ第九十三條ニ付與ヘタル解釋ニ因テ
左ノ結果ヲ生ス(第千四百四十七號第千五百五十號)即チ海船ヲ賣買シテ之
ヲ關稅局ノ簿冊及ヒ佛國船證書ニ登記スルキハ其賣買ハ其買主ノ他
人ナル諸債主ニ對シテ効ナシトスル是レナリ而シテ其債主ハ特權ヲ
有スルモノト之ヲ有セサルモソトチ區別セサルナリ○余輩ハ他人ナ
ル買得者(チエルフケロール)即チ第二ノ買主ニ於ケル亦タ前論ト同様
ナリトス此他人ナル買得者エ賣主ヨリ二度目ニ同一ノ海船ヲ買受テ
其買入レタルヲ初メノ買主ヨリ先キニ登記シタルモノヲ云フ此他
人ナル買得者ニ於テモ前論ト同様ナリトスル所以ハ其理由最初ノ買

主ノ追跡ノ權ニ於ケルモ又債主ノ追跡ノ權ニ於ケルモ正ニ同一ナレ
バナリ○裁判事例ハ若シ其他人ナル買主自ラ己ニ海船ノ賣買ノアリ
シトチ知リテ之ヲ又買受ケタルトハ最初ノ買主ノ公告ノ手續ヲナサ
ハルトチ以テ已レ利ヲ得ントスルコトヲ得ズトス

(第千百五十三號) 海船ノ賣拂ハ總テノ賣拂ノ如ク登記稅則ニ從ハザ
ルヲ得ズ千八百十八年四月二十一日ノ法令第五十六條及ヒ第六十四
條ニ依ルキハ「フランク」ノ定額稅ヲ拂ハサルヲ得ザリシナリ千八百
七十二年二月二十八日ノ法令第五條第二項ハ百分ノ二ノ準額稅ヲ拂
フ可キモノトセリ是レ共和曆第七年「フリメミル」二十二日ノ法令第六
十九條第五項第一ノ規則ニ復シタルナリ其百分ノ二ノ準額稅ヲ拂フ
ハ有報ニテ動產ヲ他ニ移轉スルノ場合ト同様ナリトス
(第千百五十四號) 第百九十六條 航海中ニ於テ海船ノ隨意ノ賣拂ハ

其賣主ノ諸債主ニ害セストス
故ニ其賣拂ニ拘ハラズ其海船又ハ其代金ハ前記ノ諸債主ノ引當品
タルトチ失ハサル可シ其諸債主ハ相當ナリト思慮スルキハ其賣拂
ヲ詐僞ノ原因アリトシテ取消スルヲ得可シ

法律ノ意ハ左ノ如シ即チ海船航海チナシ其航海中ニ海船ヲ賣買スル
トモ其海船ハ以テ其賣主ノ諸債主ノ諸權利ヲ濫除スルモノトナサズ
ト云フニアリ其之ヲ濫除消滅スルハ其次ノ海船ニシテ其買主ノ名前
ニテ其債主ノ方ヨリノ故障モナク又差押モナクシテナシタル者はレ
ナリ此ニ於テハ海船ノ語ハ「ウ、カ、イ、シ」ニ余輩ノ第千百三十九號ニ於テ
義解ヲ與ヘタル意義ニ解セザルヲ得ズトス而シテ其債主自己ノ權利
ヲ行ヒ海船ノ動勢ヲ視察シ其所有權ノ移轉ノヲチ知リ得ルハ其海船
ノ佛國ニ歸着シタルノ後ニアラザレハ能ハサルヲナリ本條末段ニ記

ス所ハ民法典千百六十七條ノ普通法ヲ指スナリ

(第千百五十五號) 余輩ハ海船ノ賣主ノ諸權利ニ付少シク論述セサルヲ得ス

余輩ハ其賣主ノ特權ノ一ニ付テハ既ニ充分ニ論述シタリ(第千百三十四號第千百四十號參看)余輩ハ唯々此ニ一ノ問題ヲ起シテ之ヲ解答セザルヲ得ズ其問題トハ前ノ賣主ノ特權ハ其買主ノ破産ノ場合ニ於テモ尙ホ存スル乎否ヤト云フニアリ余輩ハ此問題ヲ可決シ其特權ハ此場合ニモ尙ホ存スルモノトス何トナレハ第九十一條第八項ハ其特權ヲ一般ニ定メ別ニ破産ノ場合ヲ取除カズ且第五百五十五條末項ハ動産ノ賣主ノ特權ヲ破産ノ場合ニハ行フヲ禁スルモノナレドモ民法典第千百二條ノ第四項ノミテ明記シテ第九十一條ノエトチ一モ云ハサレハナリ○民法典第千百二條第四項ノ所有權取戻ノ權ニ

付テハ商法典第五百五十條ハ之ヲ買主ノ破産ノ場合ニハ總テノ動産ノ一ニ付キ行フヲ禁シ海船ノ一ニ付別ニ一モ規定セス故ニ其動産ノ一ニ付一般ニ禁シタルヲ以テ海船ノ一ニ付キ破産ノ場合ニ於テニ之ヲ行フヲ得ストス○未タ代金ノ支拂ヲ得ザル賣主ノ有スル解除ノ權ハ(民法典第千百五十四條破産ノ場合ニ於テ二三ノ特別ノ場合ニ之ヲ行フヲ得ルモノトス其場合トハ第五百七十六條ニ於テ物件取戻ノ名ヲ以テ指示スルモノ是ナリ)余輩ハ先ヅ此ノ如ク第五百七十六條ヲ解釋ス第千五號參看ス可シ然レモ此條ノ法文ハ海船ニ適用セザルヤ明ナリ何トナレバ此條ハ送リタル商品又破産人ノ倉庫中ニ引渡シタルノ語ヲ掲記シ且其要スル所ノ諸要件ハ海船ニ付存セサル所ノモノナレハナリ然レバ余輩ハ如何論決ス可キ乎

(論題) 解除ノ權ハ未タ代價ノ支拂ヲ得ザル海船ハ賣主之ヲ口實トシ

之ヲ行フヲ得ル乎、

百三十六

第一説者ハ之ヲ否決シ其賣主ハ此權ヲ行フヲ得ストス曰ク夫レ第五百七十四條及ヒ其以下ノ諸條ハ例ヲ示シタルニアラズ制限ヲ定メタルモノナリ故ニ第五百七十六條ノ定規ハ其記ス所ノ場合ノミニ適用シ論題ノ場合ニハ適用スルヲ能ハス故ニ其賣主チシテ物件取戻ノ權ヲ行フヲ得セシムル所ノ定規ナキナリ○此權ヲ其賣主ニ行フヲ許スキハ其買主ノ債主ノタメ甚タ害トナルナリ○殊ニ其權利ヲ消滅セシムル原因ヲ示ス所ノ法文ナキヲ以テ其權ヲシテ三十年間保續セシメザルヲ得ズ是レ其害トナル主因ナリト○第二説者ハ右問題ヲ可決シ其賣主ハ其權ヲ行フヲ得ルモノトス余輩ハ此説ヲ取ルナリ曰ク余輩ハ第五百七十四條及ヒ以下ヲ解クキニ其諸條ニ於テ定メサル所ノ數多ノ物件取戻ノ權ヲ行ヒ得ルノ場合アルヲ論明シタリ(第

九百九十八號)勿論此等ノ諸條ハ例ヲ示シタルニアラズシテ制限ヲ示シタルモノナルヲハ前論者ノ如シト雖モ是レ或ル場合ニ限ルヲコシテ一般ニ此ノ如ク云フヲ能ハズ即チ其諸條ノ定ムル事件ニ付テハ其制定シタル場合外ニ其定規ヲ及ホスコト能ハズ依テ其場合外ニハ物件取戻ノ權ヲシト反對説ノ解釋法ヲ以テ云フハ其事件ニ於テハ至當ナリ然レモ其諸條ノ未タ規定セザル所ノ事件ニ付テ物件取戻ノ權ヲ其他ノ元則ヨリシテ許サベルヲ得サルハ必ス之ヲ許サ、ルヲ得ス是レニ因テ余輩ハ第五百七十六條ハ海船ニ適用セサルヲ以テ解除ノ權ハ其海船ニ付民法典第千六百五十四條ニ依テ成立スルモノト論決ス○且第五百七十六條ノ制限ノ理由ハ海船ニ適用セズ海船ハ商品ノ如ク甚タ短縮ノ期限内ニ再度他ニ賣ルヲ能ハザルヲ以テナリ○第五百七十六條ハ只ニ動産ノ一ニ付テハ現ニ占有スルヲ以テ所有權アル

百三十七

ノ證アリトス」トノ規則ニ依リテ設ケタル者ナリ是レ此規則アルニ因
 リ他人ハ買主ニ其商品ヲ只ニ占有スルノミチ以テ金ヲ貸シ融通ヲナ
 スナリ然ルニ此規則ハ余輩ノ後ニ論明スル如ク海船ニハ適用セサル
 ナリ海船ノ買主ト契約ヲナサントスル者ハ其買主海船ヲ占有スルヲ
 以テ直ニ其所有權ヲ有スルモノトシテ其契約ヲ取結ブ可カラズ必ス
 先ツ其買主ニ其買入レタルヲ證スル所ノ證書ヲ示スヲ求メザル
 ヲ得ズ(第九十五條)且又其買入ノノ佛國船證書上ニ記入アルカチ
 問ヒ其有無ヲ檢セザルヲ得ズ若シ之レナキハ買主ノ權利ハ甚タ不
 確ノ者ナリトス又其海船其買主ノ名前ニテ一度航海ヲナシタル後ニ
 アラザレハ其航海ニ信ヲ置キ之ヲ頼シトナスヲ得ス(第九十三條
 何トナレバ其航海ヲナサバニ迄テハ其海船其賣主ノ追跡權ヲ行フテ
 差押ヘラル、トアレハナリ故ニ此航船ヲナスマデハ一モ安心スル

能ハス故ニ假令ヒ其賣主ヨリ解除ノ權ヲ行フテ其海船ヲ取戻スヲア
 ルモ以テ不正ニ害ヲ受ケタルモノトナス可カラス○以上ノ論述ニ於
 テ又タ余輩ハ其解除ノ權ヲ行フノ期限アルヲ知ルナリ此期限ヲ過
 クルキハ之ヲ行フヲ得ス其期限ハ即チ第九十三條及ヒ第九十
 四條ノ海上航行是レナリトス前ニ云フ所ノ賣主ノ解除ノ權ハ其期限
 外ニ行フヲ得サルハ明ナリ何トナレハ若シ然ラサルキハ其賣主ノ
 諸債主ハ其賣主ニ代リテ解除ノ權ヲ行ヒ第九十三條ニ於テ剝奪ス
 ル所ノ權ヲ間接ニ行フヲ得ヘケレハナリト(民法典第千百六十六條
 ○故ニ此權利ハ余輩ノ見ニ於テハ駁撃スヘカラサルモノニシテ且正
 當ノ區域内ニ存立スルモノトス

附錄 海船ノ所有權ニ適用ス可キ期滿得免ノ

(第千百五十六號) 動産ノ事ニ於テハ現ニ之ヲ占有スルヲ以テ其所有

權アルノ證トス」トハ是レ民法典第二千二百七十九條ノ掲記スル所ノ規則ナリ此規則ハ海船ニハ適用セザルモノトス請フ其理ヲ説カシ○夫レ此規則ノ起ル所以ノ理由ハ海船ニ付テハ存セザルナリ海船ハ他ノ動産ノ如ク手カラ手ニ渡シテ以テ其所有權ヲ他人ニ屢ニシテ且神速ニ移轉スル所ノ財産ニ非ス是レ其理由ノ海船ニ適用セザル所以ナリ他ノ動産ト異ニシテ海船ノ賣買ハ必ス常ニ證書ニ依リテ以テナスモノニシテ(第九十五條)且之ヲ關稅局ノ簿冊ニ登記スルナリ故ニ其買主ハ常ニ其證書ヲ他人ニ示スヲ得可キナリ且其買主ハ其海船ヲ買入ル、時ニ當テ其賣主ニ對シ其眞ニ所有權ヲ有スルヲ證スルヲ請求スルヲ得故ニ其買主ハ他ノ動産ノ買主ノ如ク不意ニ物件取戻ノ訴ヲ受ケ其物件ヲ取揚ケラル、ノ恐レアルヲナシ而シテ第二千二百七十九條ノ前ノ如キ規則ヲ設ケタルノ意ハ一ニ是ノ如キ恐レナ

カラシメテ動産ノ買主ヲ保護シ動産ノ所有權ヲシテ安固ナラシムルコアリ○第九十條第二項ハ海船ヲ買入レテ眞ニ其所有權ヲ得タルキト雖モ其賣買後或時間ノ間其賣主ノ諸債主ニ追跡ノ權ヲ得セシムルナリ然ルニ其買主ニシテ眞ニ其所有權ヲ得サル者其賣買ノ後直ニ他人ヨリ訴權ヲ一モ受クルヲナキモノトスルハ實ニ許ス可カラサルノ論ナリトス若シ海船ノ買主其賣買後直ニ所有者トナラザルキハ其名前ヲ以テナシタル初度ノ航海ノ効ニ依テ其所有者トナルモノトナスハ不當ノヲナリ而シテ之レカ爲メ第九十條第二項第九十三條ヲ引援トナスヲ許ス可カラス何トナレバ第九十三條ハ海上航行ニ依テ債主ノ追跡ノ權ノミヲ消滅スト雖モ眞ノ所有者ノ所有權ヲ消滅セサレバナリ

海船ニハ善意ノ占有者ノ爲メ十年又ハ二十年ノ期滿得免テ適用スル

トチ得ス(民法典第二千二百六十五條)何トナレバ一方ニアリテハ此條ニ於テハ不動産ノミノトチ規定シ且期滿得免ハ常ニ例外ノトナルヲ以テ其定ムル所ノ場合外ニ及ホシ適用スルトチ得サレハナリ○又他ノ一方ニアリテハ真正ノ海船ノ所有者其海船ノ所在ノ地ノ控訴院ノ管轄内ニ住スルカヲ判定スルニ付確乎タル規則ナシ蓋シ定繫港ハ海船ノ航海中ナルキハ其實ノ所在ノ地トナスコト能ハズ○又海船ノ所有權ヲ移轉スルトニ付テハ諸法式ヲ履行セザルヲ得サルヲ以テ其海船ヲ占有スル者ハ詐僞アラズシテ全ク善意ナリト思料スルコト最モ難シトス(以下第千五百五十一號參看)

故ニ海船ノ所有權ハ三十年ヲ經過スルニアラサレハ期滿得免アラサルモノトス(民法典第二千二百六十二條)然レモ其三十年ノ期限ハ關稅局ニ於テ海船ノ所有權ノ移轉アラザル前ニ之ヲ占有シタル時ヨリ起

算スルモノトス何トナレバ眞ノ所有者ハ其海船ノ所有權ノ移轉ノ前ニ於テハ假令ヒ當時其事ヲ知テザルトモ訴ヲ起スコト得ベケレバナリ而シテ若シ其三十年ノ間ニ訴ヲ起シタルキハ期滿得免ハ消滅スルナリ

終リニ至テ一言ス可キコトアリ船長ハ決シテ海船ヲ期滿得免ヲ以テ得ルコト能ハザルナリ(第四百三十條)以下第千四百四十一號參看

第四項 海船ノ書入質權

(第千五百五十七號) 海船ノ書入質權ハ千八百七十四年十二月十日ノ法令ヲ以テ創定シタリ其主意ハ佛蘭西國ノ商船ニ信用融通ノ一新元素ヲ供與シ評價スレバ佛國ヲ寧テ三億フランクヨリ下ラザル所ノ貨物ヲ利用セシムルニアリ此制度ハ千八百六十五年ニ任命シタル調査委員カ制定シタル商法典第二編ノ修正案中ニ既ニ之ヲ設ケタリ然レモ

此草案ハ帝政府滅亡ノ前ニ終ラザルヲ以テ實施セサリシナリ近頃
 「ルベ」グリバル「サボワ」三君ノ意見ニ從ヒ海船ノ書入質權ニ關スル法
 接テ特別ニ頒布スルコトニ決シ前ノ修正按中其法案ヲ採取シテ千八百
 七十三年七月二十八日ノ法令ニ依リ政府ヨリ任シタル調査委員ノ總
 可決ヲ以テ別ニ頒布スル爲メ國會ノ討議ニ附シタリ是レ即チ現時商
 船ノ苦難ヲ受ケ盛大ニ至ラサルヲ醫スルタメナリ故ニ此法案ハ國會
 ニ於テ反説ヲ立ツル者至稀ニシテ遂ニ可決トナリタリ商法典第百九
 十條ニ於テ動産ナリト定メタル物件上ニ書入質ノ權ヲ定ムルコト付
 テハ此法令調査委員中或ハ之ヲ奇異トシ反對説ヲ立テタル者アリ又
 國會ニ於テ此法令討議ノ際ニ駁説異論ヲ吐キタル者アリタリ然レモ
 答辨者斷乎シテ到底海船上ニハ物件上ノ保證ヲ設クルコト能ハサルコ
 ト明白ニ説明シタリ且又海船上ニハ質權ヲ設クルハ不能モノナリト

ス何トナレバ質權ノ本質ハ債主ヲシテ其物件ヲ占有セシムルニアリ
 (民法典第二千七十六條商法典第百九十二條)然ルニ若シ此ノ如クスル
 事ハ其所有者ハ其海船ヲ利用スルコト能ハザレハナリ(關稅局ニ於テ登
 賣買シタル様ニシテ之レヲ抵當トナシテ我が法典ノ法網ヲ脱シタリ
 然レモ此手段ハ我カ法律ノ主要タル元則ヲ破ルナリ何トナレバ民法
 典第二千七百八條ト商法典第九十三條第四項トノ規定ニ違反シタリ
 モ法式ヲ行ハズシテ質權ヲ有スル債主ヲシテ其抵當物ヲ處分セシム
 レハナリ(第百四十九號參看)又或ル論者ハ海船上ニ書入質權ヲ設クルハ海船ノ
 所有者其海船ヲ順次ニ數度抵當トナスコトヲ得ズ又此レノミナラズ實
 際ニ多クアル夫ノ海船ヲ數人ニテ共有スルノ場合ニ於テ其各共有者
 ノ持前ヲ分ツテ諸債主ニ抵當トナスコトヲ得ス故ニ海船上ニ書入質權
 ヲ設クルハ不都合ナリト陳シタリ又委員ヨリ差出シタル答辨者タル
 「アルフレード、デュボン」氏ハ左ノ事ヲ陳述シタリ即チ調査委員ハ固ヨリ
 動産上ニ書入質權ヲ設クルハ望マザル所ナリ唯タ要スルハ實際ノ便

宜チ酌量シテ海船ノ所有者ナシテ其海船ヲ抵當トナシ之ヲ以テ融通ノ具トナスコトヲ得セシムルコトヲ欲シ其名稱ハ議決ノ上全体ヲ觀察シテ至當ニ附スルヲ可トシ初メニ名稱ノ議論ノ爲メニ時間ヲ費スハ無益ノコトナリト思惟シタルコトヲ陳シタリ然ルニ其調査ノ業全ク終リ其全体ヲ觀察スルキハ衆目ノ視ル所ニテハ委員ハ海船上ニ書入質權ヲ設ケタルコト明白ナリ故コト斯ク書入質權トハ名稱ヲ下シタリ夫レ保證抵當ニシテ債主ヲシテ其物件ヲ占有セシメズ共有ノ場合ニ於テハ其共有者ノ各持前ニ付テ構成スルコトヲ得可ク又諸債主ニ順次ニ數度ニ引當質トナスコトヲ得可ク其順序ハ登記ノ順ヲ以テ定メ且其債主ニ追跡ノ權ヲ附與スル所ノモノニハ書入質權ヨリ他ノ名稱ヲ下スコト能ハザルナリ

余輩ハ千八百七十四年ノ法令ヲ總テ詳説セザル可シ此法令ノ諸定規ノ多クノ部分ハ不動産ニ關スル書入質權ノ民法ノ諸規則ヲ取リタルナリ民法上ノ諸註解書ヲ見ルキハ此法令ノ諸規則ノ解釋ヲ知ルコト容易ナリ余輩ハ重モニ海船ノ書入質權ノ特別ノ性質ヲ解ク可シ(附言)○余ノ解カントスル所ノモノヲ左ノ四項ニ分別ス第一海船ノ書入質權ノ性質○第二此書入質權ノ構成及ヒ其取消ニ付テノ諸要件○第三其移轉○第四其書入質權ヲ有スル諸債主ノ諸權利并ニ其濫除是レナリ

(附言) 此新法ハ其未タ執行セサル前ニ既ニ甚タ激烈ナル攻撃ヲ受ケタリ「ビレット」君著海上書入質權及ヒ其結果ト題スル書ヲ參看ス可シ同君ハ或ル保險會社ノ頭取ナリ(巴里)「デュビュイソン」千八百七十五年此書ハ「リヨン、カアン」君ノ二度ノ寄書ニ於テ論駁スル所トナレリ此寄書ハ千八百七十五年四月一日ト二日トノ「ガゼット」デトリビュノ「新聞紙ノ名」ニアリ又「ビレット」君著千八百

七十四年十二月十日法令再調ト題スル書ヲ參看ス可シ且又千八百七十五年五月二十五日ノ「シユルナール、デユ、ハーアル」新聞紙ノ名中ニアル「クールシ」君ノ書翰ヲ見ル可シ○余輩ハ駁撃論中不當トスル所ノモノアリ之ヲ後ニ論スルコトアル可シ

此新法ハ書入質權ノコトニ於テ緊要ナル二點ノ改正ヲナシタリ即チ分派ノ「エフエ、デクララチーフ」解ハ民法ニ就テ知ル可シノコトニ關スル民法典ノ第八百八十三條ヲ海船ノコトニ付改正シタリ余輩ハ之ヲ第二卷ニ於テ解ク可シ又商法典第九十一條第九項ニテ運賃ノ場合ニ設定シタル特權ヲ廢シタリ余輩ハ其條ヲ解キタル片其事ニ付一言ヲ陳シタリ第九卷ニ至リテ再論ス可シ

第一 海船ノ書入質權ノ性質

(第千五百五十八號) 新法第一條ハ海船上ニ書入質權ヲ構成スルコトヲ許

スト雖モ只々契約上ノ書入質權ノミナリトス夫レ新法ヲ制定シタルハ信用融通ノ便ヲ増ス爲メナリ獨リ能ク之ヲ増スハ契約上ノ書入質權ナリトス其他ノ書入質權ハ他ノ理由ニ原クナリ故ニ立法者ハ更ニ之ヲ定メザルナリ

○新法ニ於テ海船上ニ書入質權ヲ構成スルコトヲ許スト雖モ之レニ制限ヲ加ヘタリ即チ其書入質權ハ二十噸以下ノ海船ニハ之ヲ適用スルコトヲ禁スル是レナリ(第二十九條)立法者ハ二十噸以下ノ小海船ニ書入質權ヲ構成スルコトヲ許スモ左程信用融通ノ便ヲ益セズ反テ此類ノ小海船ハ運轉ノ屢コシテ且神速ナルヲ以テ債主ノタメ確乎不動ノ保證ヲ有セサルモノトセリ

然レモ前ニ異ニシテ現在製造中ノ海船ニ書入質權ヲ設定スルコトヲ許シタリ(第五條)但シ之ヲ構成スルニハ其地ノ關稅局ノ收稅掛ニ届キナ

大ヲ要ストセリ是レ其海船ノ船名簿ニ登記セラレザルヲ以テ船其船
 ニ相違ナキヲ確明スル爲メナリ(同シク第五條)此ノ如ク製造中ノ海
 船ニ書入質權ヲ構成スルヲ許スハ新法ノ一般ノ目的ニ適合スルモ
 ノトス夫レ海船ノ所有者ノ金銀ヲ要シ融通ノ便ヲ要スルハ海船ヲ製
 造スル時ニ其製造ノ爲メナリ何トナレハ其時ニ之レカ爲メニ巨額
 ノ金ヲ拂ハザルヲ得ザレハナリ此ノ如キ便ヲ與ヘタルヲ以テ爾來我カ
 海船製造ノ業ヲ擴張シ増々之ヲ盛大ニスルヲ期スルヲ得可キナリ
 新法第四條ニ曰ク「海船上又ハ其部分上ニ約諾シタル書入質權ハ反對
 ノ契約ナキハ船身諸船具諸機械及ヒ其他ノ附屬物ニモ及ブ可シ」ト
 是レ民法典ノ元則ヲ單純ニ適施シタルナリ右ノ諸物件ハ余輩ノ已ニ
 論シタル如ク本然ノ不動産ノ書入質權中ニ包含スル所ノ使用ニ依テ
 ノ不動産ニ類似シタルモノナリトス(民法典第二千百十六條第一項第

二千百三十三條比較其書入質權ハ海船賃貸料ニ及ハサルモノトス又
 明定ノ契約ヲ以テスルトモ之ニ及ボサシムルヲ得ズ何トナレハ其
 賃貸料ノ債主權ハ通常ノ動産ニシテ其海船ノ附屬物タラザレハナリ
 凡ソ書入質權ハ海船上ニ於テモ不動産上ニ於ケルト同一ノ有力ノ効
 アリ殊ニ其書入質權ハ其權ヲ有スル諸債主ノ間ニ先取權ヲ生シ且追
 跡ノ權ヲ生スルモノトス其先取權ノ順序ハ登記ノ日附ノ順序ヲ以テ
 之ヲ定ムルナリ(第十八條第一項第二項)

第二 海船ノ書入質權ノ構成及ヒ其取消ニ付テノ諸要件

(第千百五十九號) 海船上ニ書入質權ヲ構成スルニハ新法ニ於テハ民
 法典ノ如ク公正ノ證書ヲ要セストシ以テ大ニ寬典ヲ與ヘタリ(民法典
 第二千百二十七條)新法第二條ハ只ク其書入質權ヲ構成スルニハ證書
 ヲ要ストス然レモ此證書ハ私印ノ證書タルモ妨ケナシ是故ニ其第三

條ハ書入質權ヲ構成スルノ委任狀ハ必ス部理委任狀タルヲ要シ其證書ハ必ズ公正タルヲ要セス○其委任狀ハ必ス部理タルヲ要スルノ故ニ海船ヲ書入質トナスノ權ハ船長ノ有スル諸權利内ニ自然含まサルモノトス但シ斯ク論スルハ實際甚ク要用ノコトナシ何トナレハ航海中ニ海船ヲ書入質トナスコハ其所有者出帆前ニ二三ノ法式ヲ履行セザルヲ得サレハナリ而シテ此二三ノ法式ヲ履行スルキハ以テ充分ニ部理委任狀ヲ構造シタルモノトスレハナリ

海船ノ書入質權ノ證書若シ私印ノ證書アレハ登記税ニ付諸商事ニ附與シタル寛典ヲ受クルコトヲ得(第四百四十八號參看)即チニ「フランク」ノ定額税ヲ拂フテ登記スルコトヲ得且準額税ヲ拂ハスシテ公正ノ書タル登記簿册上ニ登記セラル、コトヲ得(第二條第二項第二條ノ末項ニ左ノ事ヲ加記ス)即チ然レモ準額税ハ若シ私印ノ證書之レニ從フタルノ場

合ニハ登記税ノ法令ニ依リ後之ヲ徴収スルコトアルベシト是レ此登記税ノ法令トハ余輩ノ考ニテハ登記ノコトニ付テノ普通法ヲ指スニアラズシテ千八百五十九年六月十一日ノ法令第二十二條ヲ指スナリ(第四百四十八號)今マ其理由ヲ説カン夫レ海船ヲ書入質ニスルコトハ商事タルヲ以テ(或ル二三ノ場合ニ於テハ此限ニアラス此場合ハ稀ナリ余輩ハ此場合ニハ例外ヲナス可シ)本條ニ云フ所ノ登記税ノ法令トハ商事ノ證書ノ登記税ノ法令ヲザルヲ得ズトス之ニ因テ余輩ハ海船上書入質構成ノ證書ニシテニ「フランク」ノ定額税ヲ拂フテ登記シタルモノハ準額税ヲ拂ハズシテ裁判所へ差出ストヲ得且其準額税ハ裁判申渡ノ後ニ其申渡ノ目的タル價額ニ付徴収スルモノトス○第十五條第二項ニ曰ク(書入質權塗抹ノ時ニハ私印ノ證書ハ假令ヒ其塗抹ノ爲メ必要ナル公正ノ證書中ニ記載サレタルト雖モ準額税ヲ拂ハザル可シ

但シ其公正ノ證書單純ノ取消ヲナスニ止ムルヲ要スト
 (第千百六十號) 書入質權ノ構成ノ公告ハ海船ヲ書入質ニスル場合ニ
 モ不動産ヲ書入質ニスル場合ノ如ク必ス要スルモノトス(第六條)而シ
 テ其公告ヲナサバルキノ罰ハ諸ノ書入質權ハ登記ノ日附ノ順序ニ從
 フニ其列序ヲ定ムルニアリ(第十條第一項)又同日ニ登記シタルモノハ
 其時間ノ前後ヲ論セス皆ナ同列ノモノトス(第十條第二項)民法典第二
 千四百七十七條比較)此規則ハ海上ノ事件ニ付不都合ナシトモ何トナ
 レハナリ保險ノ付キ定ムル所ニ依ヒ其不足ヲ補フテ海上書入
 質ノ事ニ付テモ時間ヲ記入スルヲ要ストスルヲ可トス(以上第千三百
 十二見合)○マレ! ○登記ハ元金ト同列ニ當年ノ外ニ二年ノ利子ヲ
 擔保スルモノトス(第十三條民法典第二千五百五十一條比較)
 書入質權ノ登記ハ海船ノ登記サレタル地ノ關稅局ノ收稅官ノ有スル
 簿冊上其收稅官之ヲナシ又其由ヲ佛蘭西船證書ノ裏面ニ記入ス(第六

條)若シ海船製造中ナルキハ其登記ハ其海船ノ在ル所ノ地ニ於テ之ヲ
 ナスヲ要ス其海船未タ船名簿ニ登記サレザルヲ以テナリ且其佛蘭西
 船證書未タアラザルヲ以テ其登記ノ由ヲ此證書ニ記入セス然レモ此
 證書ヲ下附シタル時ハ其登記猶ホ未タ取消レサルキハ其登記ノ由ヲ
 此證書ニ記入セサルヲ得ス又海船其登記サレタル所ノ港ヲ變移スル
 ノ場合ニ於テハ此新定繫港ノ簿冊ニ舊定繫港ニ於テナシタル登記ヲ
 書替ヘサルヲ得ス(第七條)○關稅局ノ收稅官ハ海船上ニ存在スル諸登
 記ノ目錄又其登記ノ一切ナキトノ保證狀ヲ何人ヲ問ハス之ヲ望ム者
 アルキハ渡サバサルヲ得ス(第十六條)
 國會ニ於テ關稅局ノ收稅官ニ書入質權ヲ構成シタルヲ登記スル
 ヲ任スルハ其官職ノ面目ニ關シ其當ヲ得タルヤ否ヤニ付キ數度ノ討
 議ヲ費シタリ然レモ海船ノ所有權ニ關スル一切ノ事件ヲ之ヲ司トル

同一ノ官吏ニ任スルハ最大便利ニシテ之ヲ他ノ官吏ニ分任スルハ最大不便利タルハ論ヲ俟タサル所ナリ此故ニ分任セサルヲニ議決シタリ且又人民ニ對スルノ保證ノタメ關稅局ノ收稅官ニ保證金ヲ出ス可キヲ命シ此官吏ノ所爲ニ付テノ關稅局ノ責任ノヲハ新法ニ於テ定メタル登記ノ職務ニハ適用セズトセリ(第三十條)

其登記ノ法或ハ第九條第八條ニ於テ之ヲ定ム少差ハナキニシモアラスト雖モ大体不動産ノ書入質權ノ登記ノ法式ト同一タリ(民法典第二千四百八十八條第二千五百五十條)其法式ノヲ略言セバ左ノ如シ即チ書入質權ノ構成證書ノ本書又ハ寫本書ノ公正證書ニシテ正本ノアル場合ヲ其登記ニ必要ノ事件ヲ記シタル「ボルドロー」(明細書ノ「ナリ」)ニ通テ添ヘテ收稅官ニ差出ス是レナリ其一通ハ收稅官之レヲ留メ置キ其他ノ一通ニ登記シタルノ由ヲ附記シテ之ヲ登記依願者ニ渡スナリ又其登記

ノ由ハ書入質權ノ構成ノ本證書ニ亦之ヲ附記ス(第六條末項)○登記依願者ハ二通ノ「ボルドロー」ニ手署スルヲ要ス是民法ニ於テ要セザル所ナリ民法ニ於テハ書入質權ノ構成ノ證書ハ必ス公正ノ證書タルヲ要スト雖モ海船ノ場合ニ在テハ之ヲ要セス故ニ夫ノ「ボルドロー」ニ手署スルノ規則ヲ定メテ以テ其公正ノ證書ニアル所ノ保證ニ代ヘタルナリ」新法ハ海船ノ所有者ニ航海中之レヲ書入質トスルノ權ヲ與ヘタリ是レ法ノ明文ナキニ於テハナスコト能ハザルナリ何トナレハ航海中ニ在テハ其海船定繫港ニ於テ其書入質權ヲ構成シタルヲ登記スルヲ得ザレバナリ但シ航海中海船ヲ書入質トナサントスルニハ新法ハ其出帆前ニ豫メ其書入質トナシ貸ラントスルノ金高ヲ關稅局ニ届置ヲ要セリ之ニ因テ其書入質權ヲ構成シタルヲ佛蘭西船證書ニ登記シ其書入質ヲ約定シタル地ノ簿冊ニ其由ヲ附記スルヲ以テ其書入質

質ノ順列ヲ認定スルニ足レリトス(航海中海船ノ書入質ハ船長又ハ海
レチ約諾スルヲ得ルニ留テ生ル所ノ其所有者ハ其書入質權ヲ
成スルヲ得ルニ是レ第六條ニ因テ生ル所ノ其所有者ハ其書入質權ヲ
證書ハ航海ト共ニ航海中ニアレハナリ第百三十三條○佛國ノ法律ハ外國ノ
二十六條第千二百一十一條○マレハ第百三十三條○佛國ノ法律ハ外國ノ
ラ命スルヲ得ズ○其地ノ簿冊ニ記入ナキト雖モ書入質ハ登記ナス
ラザルナリアロゼ氏第四十七丁○ボイルミエ氏第一百丁見合)又
新法ハ佛國外ニ於テ其登記ヲナシ得可キ役員ヲ示定ス(第二十六條參
看)

(第千六百六十一號) 書入質權ノ塗抹ニ付テハ新法ハ其構成ニ於ケルト
ハ最モ苛酷タリ其第十四條ニテ塗抹ハ結約者雙方ノ者ノ承諾又ハ終
審裁判言渡若クハ確定トナリタル裁判言渡ニ依リ之ヲナスヲ得可
シト定メ而シテ後第十五條ニ於テ其雙方ノ者ノ承諾ニ依リ塗抹ヲナ
スニ付テハ債主又ハ其讓受人ノ承諾アリシヲ證スル公正ノ證書ヲ
要ストセリ○此公正ノ證書ヲ要スルハ其塗抹ヲ承諾シタル債主其債

主ニ相違ナキヲ確證シテ以テ他人ノ其債主ト偽リ其塗抹ヲ承諾シ
眞ノ債主ノ權利ヲ破毀スアルヲ防クニ在リ債主其債主ニ相違ナク
眞ノ債主タルカヲ點檢スルハ公證人ニ非サレバ能ハズ之ヲ關稅局ノ
収稅官ニ任スルヲ得ザルナリ○新法ノ立法者ハ其書入質權ノ構成
ニ付テハ公正ノ證書ヲ以テスルヲ要セストセリ何トナレハ眞ノ所有
者タラザル者カ書入質權ヲ構成シタリト雖モ之ヲ治スルニ策アルナ
リ其所有者タル者之レヲ知リタルモ爲ニ害セラレタル己レノ信用
ヲ回復スルヲ其塗抹ヲ要求スルヲ得可シ又書入質權ノ登記ヲ求
ムルニ付テハ佛蘭西船證書ヲ示シ(第六條)又ハ第二十條ニ記ス所ノ届
ヲナスヲ要ス是レ眞ノ所有者タラサル者ニアラサレバ此要件ヲ履行
スルヲ得ザルナリ

書入質權ノ塗抹ハ其構成證書私印ノ證書又ハ正本ナキ公正ノ證書ヲ

ルキハ其本證書ニ附記セザルヲ得ズ而シテ其附記ヲナス爲メ其本證書ヲ差出スヲ要ス(第十五條)是既ニ取消ニ屬シタル書入質權ヲ他人ニ讓渡シ以テ後日其他人ヲシテ欺詭ニ陥ラシムルヲアルヲ防クニ在リ

○若シ書入質權構成ノ證書正本アル公正ノ證書タルキハ其書入質權ノ塗抹ノコニ付更ニ謄寫ヲ作ラシムルコトヲ要セズ是レ前ニ言フ如キ詐僞ヲ行フコトヲ得可クシテ法令ノ目的ヲ遂ケサルナリ何トナレハ其塗抹ノコトヲ附記セザル所ノ謄寫ヲ再度作ラシムルコトヲ得可クレバナリ

○書入質權塗抹ノコトハ佛蘭西船證書カ關稅局ノ收稅官ノ手ニ戻リ來リタルキハ之ニ亦又附記ス(第十五條)

新法ハ或ル場合ニ於テ結約者雙方ヲシテ書入質權ノ塗抹ノコトニ付公正ノ證書ヲ作ルコトヲ免カラシムル爲メ又其登記ノ既ニ効ナキキト雖モ猶ホ之ヲ利用シ得可キノ弊ナカラシムル爲メ民法典第二千百五十

四條ノ定規ニ倣ヒ短縮ノ期限ヲ設ケ之ヲ經過スルキハ其登記ノ効ナキコトヲ制定シタリ(第十一條)而シテ民法典ニ於テ其期限ヲ十年ト定ムト雖モ新法ニ於テハ三年ト定メタリ此期限ノ終ル前ニ其登記ヲ簿冊上ニ書替ヘセス且海船ノ定繫港ニ歸着シタルキ直ニ其登記ヲ佛蘭西船證書ニ再記入セサルキハ其登記ハ効ナシトス是レ此規則ノアルヲ以テ海船ニ金ヲ貸シタル者ハ海船ノ定繫港ニ歸着シタリヤ否ヤノコトヲ尤モ注意ス可キナリ是ノ爲メニ其貸主ハ其定繫港ニ通信者ヲ置クヲ要ス是レ其貸主ニ於テ煩勞ノコトナリ若シ新法ニシテ關稅局ノ官吏ニ職務トシテ佛蘭西船證書ニ夫ノ登記ヲ再記入ス可キコトヲ命シ佛蘭西船證書ハ海船ノ定繫港ニ歸着シタルキハ船長ヨリ之ヲ直ニ其收稅官ニ納ム可シト命シタルキハ此煩勞ヲ省クコトヲ得可シ是レ民法典第二千百八條ニ先例アリ惜ム可シ新法ニ於テ是レ之ヲ設ケザルヲ

(法文ナキ)

キハ此義務ヲ登記局ノ官吏(コンセルウヱトール)ニ命スルヲ得ズ○「マ
レイ」氏第七十九丁○反説ニ○「アロゼ」氏第二十八丁○「ポールミエ」
氏第三十三丁

第三 海船ノ書入質權ノ移轉

(第千百六十二號) 第十二條ニ依ルキハ若シ書入質權構成ノ證書指圖
附ナルキ裏書ヲ以テ他ニ讓渡シ得キ法式ヲ以テ認めタル場合ニ裏
書ノ方法ニテ之ヲ他ニ讓渡セタルキハ書入質ノ權ハ自ラ他ニ移ル可
シトセリ夫レ裏書ヲ以テ他ニ讓渡シ得ヘキ債主權ヲ裏書ニ依リ他ニ
移スキハ他法ノ式ヲ履行スルヲ要セズシテ其保證トナル所ノ書入
質ノ權ハ共ニ自ラ他ニ移ル可シトハ是レ多ク諸學士ノ認ムル所ノ説
ニシテ裁判事例ニ於テ又既ニ之ヲ許ス所ノモノタリ第十二條ハ乃チ
此説ヲ適用シタルニ過キス(以上第七百五十二號參看)
或ハ曰ク第十二條ノ此規則ハ書入質權ノ滌除ノコトニ付困難ナル事ヲ

生ス何トナレハ其讓受人ハ是レ誰レナルカ知レサルヲ以テ通知狀シ
ギフイカシヨシヲ受クルコトヲ得ズ故ニ己レノ權利ヲ儘ムルコト能ハズシ
テ滌除ノ爲メ之ヲ消滅スルコトヲ坐視スルニ至ルト或ハ又之レニ簡答
ニ答テ曰ク自己ノ權利ヲ保存スルニ付注意ス可キハ債主ノ任タリト
然レモ債主其之ヲ保存スルニ付如何ナル方法ヲ有スル乎余輩ハ之レ
ニ答ヘテ言ハン此方法トハ海船ノ所有者ヲシテ其讓受人ニ書入質權
取消ニ付テノ通知狀ヲ示スコトヲ得セシムルタメ其讓受人ヲシテ關稅
局ノ簿冊ニ裏書シタルコトノ附言ヲナカシムルコトヲ許スニ在リト是レ
決シテ依據ナキノ説ニ非ス法律ハ「ウヱラン」(藏預リ切手ノ類)ノ付已
ニ此ノ如キ定規ヲ設ク夫ノ「ウヱラン」ノ讓受人ハ「レセヒセ」(藏預リ切手
ノ類)解前ニアリノ持主ヲノ已レニ前以テ通知スルコトナク其商品上ニ
負ハシメタル物權ヲ免セシムルコトヲ得ザラシムルタメ其讓受ノコトヲ

共同倉庫(マガゼン、ゼチラール)ノ簿冊ニ登記セシムルヲ得可シ(千八百五十八年五月二十八日ノ法令第六條參看)

第四 書入質權ヲ有スル諸債主ノ諸權利

第一千六百三十三號) 書入質權ヲ有スル債主ハ己レノ權利ヲ海船上ニ行フヲ得ルノミナラズ其附從タル物件上ニモ行フヲ得可シ(第四條) 海船ノ滅盡若クハ航海スルヲ能ハサル様ニナリタル場合ニ於テハ其債主己レノ權利ヲ其救上ケラレタル物件上又ハ其物件ヲ賣拂フテ得タル代金上ニモ亦行フヲ得可シ其債主ハ之レヲ行フニ付テハ己レノ權利ヲ行フヲ中止スル所ノ期限ヲ守ラサレフヲ得可シ(第十七條) 又債主己レノ權利ヲ何レノ時ヲ問ハズ又前ニ記ス所ノ二箇ノ場合ニ於テモ借主カ書入質トナシタル海船上ニナシタル保險契約ニ付キ生スル所ノ金額上ニ行フヲ得可シ(附言)此場合ニ於テハ第十七條ハ特權

債主ノコトニ付一定セザル所ノ疑問ノ其債主ノ利トナル様ニ決定シテリ余輩ハ之ニ反シ其不利トナル様ニ決定シタリ(第一千四百四十三號)且ツ第十七條ハ書入質權ノ登記ハ保險ノ償金ヲ拂フコトニ付テノ故障タルコトヲ定ムルヲ以テ保險者ハ假令ヒ債主カ別段故障ヲ述ヘザルキト雖モ又假令ヒ保險契約書指圖附又ハ持主證書タルキト雖モ其債主ニ直ニ保險ノ償金ヲ拂フニ非サレハ自ラ其義務ヲ免カルコトヲ得ザルナリ是レ實際大ニ妨害トナル所ノ規則ナリ法律ハ前ノ如ク定メタルハ債主ヲシテ告知狀(ノチファイカシヨ)ヲ出スノ煩ヲ避ケシメタルナリ其費用ハ保險者常ニ許多アルヲ以テ甚タ巨額ニ上ルナリ

(附言) 第十七條ノ明文ヲ讀ムキハ此權利ハ何レノ場合ニモ亦海

船ノ滅盡ヲ來タサヌ又ハ之ヲシテ航海スルヲ能ハザラシメザル海難ノ場合ト雖モ獨リ書入質ノ權ヲ有スル債主ニ屬スルト

思料セサルヲ得サルガ如シ何トナレハ本條ノ第二ノ定規ハ第一ノ定規ニ於テ定メタル場合ノミニ限ル可キヲ明カニ示サレバナリ然レモ編纂委員ノ名ヲ以テナシタル上申書ニ依ルキハ第二ノ定規ハ第一ノ定規ニ定メタル場合ノミニ限り適用スルコトハ疑ヒナシ○然レバ或ハ問フテ曰ク第二ノ定規ヲ斯ク制限シタルノ理由如何ト或ハ之レニ漠然答ヘテ曰ク上申書ニ於テ保險者ノタメ屢々到來スル所ノ困難ヲ除クヲ以テ目的トスト○余輩ハ以テ足レリトセズ他ニ最モ確乎クル理由アラント思考ス「ヒレット」「グーレル」ノ二君保險者ニ代リテ第十七條ノ爲メニ其期セサル所ノ損害ヲ受クルコト既ニ論辨シ大ニ哀訴シタリ曰ク保險者ハ被保險者ガ關稅局ノ收稅官ノ渡ス所ノ海船上ニ書入質權ノナキコトヲ證シタル保證狀ヲ示スニ非サレ

ハ之レニ償金ヲ拂ハザルコト得ルト雖モ如何セシ此保證書ノ引渡ト拂ヒチナスノ間ニ多少ノ時間ヲ要スルヲ以テノ故ニ書入質權此時間中ニ登記セサルコトヲ得ス若シ果シテ其登記アルキハ保險者ハ二度償金ヲ拂ハザルヲ得サルニ至ルト余輩ハ同ク第十七條ニ依テ答ヘテ曰ン此弊ハ海船ノ滅盡又ハ航海スルコト能ハサル様ニナリタル場合ニ生セサルナリ何トナレバ既ニ無キ所ノ財産上又ハ既ニ海船ヲラズトスル所ノ破壊物上ニ書入質權ヲ設定スルコトヲ得ザレバナリト「リヨン」カアン君ノ論說ヲ見ル可シ是ニ因テ之ヲ觀レバ第十七條ハ前ニ示ス所ノ二箇ノ場合ノミニ適用スルハ明カニシテ多少著大ノ海上損失ノ場合ニ適用セサルナリ何トナレハ此場合ニ於テハ海船ハ海船ナルノ姿ヲ備ヘテ存ス而シテ前ニ示ス所ノ弊ハ得

テ生スレバナリ且海上損失ノ場合ニ於テハ保險者ノ拂フ所ノ
 償金ハ多クハ海船ヲ修繕フルニ費用シテ書入質權ヲ有スル債
 主ノ引當品ヲ保全スルモノトナルナリ「ビレット」君ハ第十七條
 ノ區別ヲ貸主ノ點ニ付テ論シ駁シテ曰ク被保者ハ海船ノ航海
 スル丁能ノザル様ニナリタルコトノ申渡ヲナサシメズシテ之ヲ
 海上損失トシテ其貸主ノ權利ヲ消滅スルコトヲ得ル最モ多シ故
 ニ其區別ヲナスハ非ナリト然レモ之ニ左ノ言ヲ以テ答ヘサル
 ナ得ス即チ保險ノ償金ニ法律上代權スルコト（シニプロガシヨ、レ
 ガール）ハ海船ノ滅失又ハ航海スルコト能ハザル様ニナリタル場
 合ニ設定サレタルヲ以テ此二箇ノ事件生シ來ルルハ被保者カ
 海船ノ拋棄（デレスマン）ヲナスモ又海上損失ノ訴權ヲ行フモ其
 如何ヲ問ハズ（法律上代權ノコト）成立スルモノナリト答ヘザル

ヲ得ズ且貸主ハ甚タ簡易ナル一策ヲ有ス即チ法律ノ定メサル
 コトヲ契約ヲ以テ定ムルコト是レナリ即チ何レノ場合ヲ問ハズ保
 險者ニ對シテ保險セラレタル者ノ權ニ代ルコトヲ明カニ定ムル
 コト是レナリ但シ此レニ付テハ其權ニ代ルコトヲ保險者ニ通告セ
 ザルヲ得ズ是ニ因テ貸主ハ要ス可キ一切ノ擔保ヲ受ク又保險
 者ハ夫ノ代權ノコトヲ通告狀ニ依リテ知ルヲ得可キヲ以テ已レ
 ニ對シ故障ヲ述ヘラレタルト同一ナル所ノ遲延ノ登記ノ爲メ
 ニ害ヲ受クルノ恐レアラズ故ニ決シテ怨訴スル者ナキナリ
 又第十七條ニ依ルルハ其債主ハ己レノ權利ヲ慥ムルタメ海船ヲ猶ホ
 保險セシムルコトヲ得可シ此場合ニ於テハ保險者ハ償金ヲ拂フルハ其
 負債主ニ對シ其債主ノ權利ニ代ル可キコトヲ定ム

（第一千百六十四號）書入質權ヲ有スル債主ノ先取權ハ特權債主ノ先取

權ヲ行フタル後ニ行フモノトス是レ普通法タリ新法ノ第二十七條ニ於テ之ヲ示スタメ商法典ノ第九十一條ニ一項ヲ加ヘタリ然レモ此先取權ヲ儲ムルタメニハ航海前ニナシタル運賃ニ依リ生スル所ノ特權(第九十一條第九項第九十二條ノ第七項)ヲ廢セサルヲ得ス何トナレハ運賃ノ方法ヲ以テ海船ノ所有者ハ何レノ時ニテモ既ニ己ニ登記サレタル書入質權ヲ有スル債主ヨリ先キニ運賃主ナシテ分配ヲ受ケシムルコトヲ得可ケレバナリ是故ニ第二十七條ニ於テ此特權ヲ廢シタリ(第二十七條ノ法文ハ一般ニシテ例外ノ設ケス故ニ二十噸以下ト雖モ前ノ如クモ適用セサルヲ得ス此海船ハ書入質コナスヲ得スハ本條ノ理由成立セス)而シテ第三十八條ニ於テ商法典第二百三十三條ヲ變更シテ第二十七條ニ因テ生スル所ノ結果ヲ詳定ス(第二百三十三條ニ付テノ論說參看)

(第千百六十五號) 追跡ノ權ハ第十八條ニ於テ之ヲ定ム然レモ立法官

ハ海船ノ所有權ヲ數人共有スルノ場合ハ實際ニ於テ頗ル多キト又此共有權ノ弊害ノ少ナルト又如何ナル人ト雖モ他ノ共有者ト物件ヲ永ク分タズシテ共通スル義務ナシトノ規則ニ第二百二十條ノ第三項ニテ例外ヲ設ケタルトトテ酌量シテ第十八條ニ於テ債主海船ノ一部分ノミニ付書入質ノ權ヲ有スルキハ此一部分ノミヲ賣ルヲ得可シ但シ其海船ノ半部以上ノ部分ニ付書入質ノ權ヲ有スルキハ此限ニ非ストノ規則ヲ定メタリ是レ民法典第千百六十六條ヲ以テ第二百二十條ノ第三項ヲ參酌シ因テ生スル所ノ規則ノ適施タリ民法典第千百六十六條ニハ債主ハ其負債主有スル所ノ權利ヲ行フヲ得可ントス○前ト同一ノ理由ニ依リ第十八條ハ分派ノ「エフエー、テクラ、チャーフ」(解在上)ノ規則ニ從ハズシテ其例外ヲナシタリ夫レ書入質權ヲ有スル債主カ何レノ時ニテモ分派又ハ「リシタシヨ」(解會社ノ部ニアリ)以テ

己レノ權利ヲ消散スルノ恐怖ヲ抱クキハ是レ立法官ハ海船ノ各共有者ニ全ク信用ヲ奪ヒ之ヲ利用セサラシムルナリ第十八條ノ此例外ハ財產共通又ハ相續ニ依リ起リタル「エンタイビジョン」解在上ノ通常ノ場合ニ適用セザルナリ余輩ハ之ヲ第三卷ニ於テ再說セン

(第一千百六十六號) 海船ノ獲得者ハ其賣主ノ書入質權ヲ有スル債主ノ追跡ノ權ヲ行フヲ滌除ノ方法ヲ以テ避クルヲ得可シ然レモ此滌除ハ特權ニ於ケル如ク迅速ニシテ且容易ナラス(商法典第九十三條)此滌除ノ規則ハ不動産ノ書入質權ノ滌除ニ付民法典ニ於テ定メタル規則ト大体相同シ(民法典第二千八百一十一條以下)此滌除ノ手續ハ之ヲ略言セバ即チ海船ノ買主ハ書入質權ヲ有スル債主ニ送達ス可キ書面(第十九條)ト共ニ買入代金ヲ其債主ニ拂フトチ(第二十條)通知スルト又通常ノ債主ニ於テハ(何トナレハ法律ノ總テノ債主ト云ヘハナリ)其

送達書ノ日附ヨリ十日内ニ其買入代金ヨリ十分ノ一ノ増價ニ付競賣チナスコトヲ要ムルコトヲ得ルトニ止ルナリ(第二十一條第二十二條)若シ其競賣チナスコトヲ要メサルキハ其買入代金ハ以テ確乎動カス可カラサルモノトナリ債主ハ之ヲ變換センコトヲ求ムルヲ得ス又其競賣ヲ要メタルキハ其買入代金ハ競賣ニ依リテ確定ス(第二十三條)○其買入代金ハ債主間ニ或ハ協議ヲ以テ或ハ裁判上確定シタル順序ニ從フテ之ヲ分配ス(第二十五條)○第二十四條ニ依ルキハ競賣チナスコトヲ要ムルコトハ裁判上賣拂ノ場合ニハ之ヲ許サズトス(裁判上賣拂トハ第一千百四十六ニ於テ已ニ示シタル理由ニ付差押上ノ賣拂ノコトヲ云フ此賣拂ノミ自ラ書入質權ヲ滌除スルノ効アルナリ而シテ此場合ニ於テハ普通法ニ於ケル如ク買入代金ヨリ十分一以上ノ増價ニ付競賣スルコトヲ要セサルナリ

以上余輩ノ論述シタル諸定規ハ千八百七十五年五月一日ヨリ執行セラレタルモノナリ

新法ヲ攻撃シタル諸學士ハ此新法ハ實際適用スベカラズト豫言シタリ且保險者ハ第八百六十五丁ノ註第一ニ示シタル理由ニ原キ最初ノ間ハ書入質トナリタル海船ヲ保險スルコトヲ拒絕シ保險スルキハ其海船ニハ書入質權アラザル旨ヲ陳セシメタリ夫レ此ノ如クノ新法ヲ殆ント實施スルコトヲ難カラシメ其後之レカ趣向ヲ變シ左ノ定見ニ歸シタリ夫レ保險者ハ巧智アル艦裝者ハ充分ニ書入質トナリタル船舶ヲ修繕セザルヲ以テ其書入質トナリタル船舶ハ危險多シト思惟シ海船ノ保險ヲ依頼スル者ハ其海船上ニ書入質權ノ存スルコトヲ陳述スルコトヲ要シ若シ之ヲ陳述シタルキハ前ノ理由ヲ以テ保險料ノ増加ヲ求メタリ(若シ偽リノ陳述ヲナスキハ第三百四十八條ニ依テ罰セラル、ナリ)

此ノ如ク抵抗アルニ抱ハラズ新法ハ猶ホ未タ廣ク行ハレズト雖モ全ク徒法トハナラズ千八百七十五年五月一日ヨリ千八百七十六年六月ニ至ルノ間「マレー」氏ノ調査スル所ニ依ルキハ其年間ニ書入質トナリタル船舶四十七艘アリテ其價額百十九万三千七百「フランク」ナリ其中千八百七十五年ニ二十一艘千八百七十六年ニ二十六艘アリ出帆前ニ書入質トナシタルモノ四十四艘航海中ニナシタルモノ一艘製造中(ナント)ニ於テ)ニナシタルモノ二艘ナリトス

第二卷 海船ノ差押及ヒ其賣拂

(第千百六十七號) 此卷ニ於テハ訴訟手續ノ規則ヲ定ム余輩ハ之ヲ略言スルヲ以テ足レリトス差押ハ何レノ場合ヲ問ハズ支拂ヲナス可キ要決ノ書ヲ送リタル後ニ非サレバ之ヲナスヲ得ス(第百九十八條)要決書ハ債主カ海船ノ所有者ノ總テノ財産ニ關スル訴權ヲ有スルキハ其

所有者ニ送リ又特權ニ依リテ海船ノ引當トナリタル債主權ニ付キ生
スル所ノ訴權ヲ有スルキハ之ヲ船長又ハ所有者ニ送ルモ自由ナリト
ス(第九十九條)

差押ハ使吏之レヲナシ其始末書ヲ作ルナリ(第二百條)而シテ差押ノ
ハ海船ノ所有者裁判所ノ管轄内ニ住スルキハ三日内ニ其所有者ニ通
知シ又其裁判所ノ管轄内ニ住セザルキハ船長又ハ差押ヲ受クル者ノ
代理者又ハ船長ノ代理者ニ通知ス其所有者裁判所ノ管轄内ニ住セサ
ルキハ其所有者ノ住所ヲ去ル路程ニミリヤメートル半毎ニ其三日ノ定
期ハ一日ヲ増ス可シ(第二百一條)此通知書ニハ海船ノ賣拂ノ時立合
ナス爲メ此裁判所ニ出頭ス可キノ呼出狀ヲ記入ス可シ

十噸以下ノ海船ニ付テハ其賣拂ハ毎八日ヲ隔テ引續タル三度ノ法度
ニ於テ之ヲ爲シ(第二百五條)其各法庭ニ於テ競賣ヲ爲ス(第二百五條)其

賣拂ハ第三ノ法庭ノ後ニ非ザレハ確定セズ又裁判官ハ場合ニ依リ更
ニ八日ノ間競賣ヲ延ハシ又ハ其上猶ホ八日ノ間之レヲ延スヲ得可
シ(第二百六條)其各法庭ヲ開ク前ニハ海船ノ碇泊スル場所ノ商人集會
場又ハ其衆人ノ群集スル場所(第二百二條)ニ競賣ニスル所ノ物件ノ賣
價ヲ叫告シ且廣告シ又之レヲ新聞紙ニ揭示シ(第二百二條)又各所及ヒ
就中船ノ大櫓ニ貼付ス(第二百三條)第二百四條○十噸及ヒ其以下ノ海
船ニ付テハ之ヲ競賣スルニハ一法庭ヲ要スルノミ又從テ其手續簡易
ナリ(第二百七條)

海船ノ競賣ハ以テ船長ノ職ヲ罷止ス(第二百八條)何トナレバ競賣ニ於
テ海船ヲ買取ラントスル者ハ其海船ヲ自由ニ點檢等ヲナスノ權アル
ヲ要シ且船長ハ或ハ償金ヲ要ムルノ權アルモ其船長ニ對シ之ヲ償フ
ノ義務ナケレバナリ(第二百十八條參看)若シ船長其職務上ノ事ヲ取扱

ヒ爲メコ損害ヲ受ケ其償金ヲ要ムベキハ海船ノ所有者ニ對シ之ヲ要ム可キモノトス(第二百八條)

競賣ニ於テ海船ヲ買取リタル者ハ二十四時間内ニ其代金ヲ拂ヒ又ハ預リ所ニ預クルヲ要ス之レニ違フキハ再タヒ競賣ヲナシ其海船ヲ他ニ賣拂フ可シ(第二百九條)

分離ノ訴訟(ドマンド、アン、ディストラクシヨン)及ヒ代金ノ拂渡ニ付キ爲スヲ得可キ故障ニ關スル事柄ニ付テハ第二百一十一條乃至第二百十三條ヲ見ル可シ

第二百十四條ニ依ルキハ諸債主ハ元金利息費用ニ付特權債主タルキハ第九十一條ノ順序ニ從ヒ又通常債主タルキハ高割ヲ以テ其支拂ノ分配ヲ受クルヲ得可シ余輩ノ既ニ解説シタル千八百七十四年十二月十日ノ法令頒布以來ハ特權債主ト通常債主トノ二級ノ間ニ登記

ノ順序ニ從ヒ一切ノ通常ノ債主ヨリ前ニ支拂ノ分配ヲ受ク可キ所ノ書入質權ヲ有スル債主ノ一級ヲ加ヘザルヲ得ス

(第千百六十八號) 余輩ハ第二百十五條ニ付テハ少シク説カサルヲ得ス

第二百十五條

出帆ノ用意ヲ爲シタル船舶ハ其ナサントスル航海ニ付負フタル債ノタメニ非ラザレハ差押ヲ受クルヲナカル可シ但シ此終ノ場合ニ於ケルト雖モ其負債ノ保證ヲ立ツルキハ其差押ヲ免カル可シ
船長既ニ航海ノタメ(必要ナル)書類ヲ備有シタルキハ船舶ハ出帆ノ用意ヲナシタルト看做ス可シ

此條ハ第二百三十一條ト參照ス可シ第二百二十一條ニ於テハ本條ト同一ノ場合ニ就テハ船長及ヒ乗組人ハ民事上ノ負債ノタメ拘留セラ

ルヲナカル可キヲ決定ム
 海船ニ積入レタル荷物其出帆ノ時ニ至リ差留メラレ爲メニ之レヲ荷
 卸シセサルヲ得サルヲアルキハ其荷主ニ於テハ大ナル不便ヲ來タス
 可シ是レ本條ノ此定規アル所以ナリ而シテ獨リ其荷主ノ不便タルノ
 ミナラス又海船ヲ差押ヘタル債主ノ不利トナル可シ其負債主ハ爲メ
 ニ其荷主ニ償金ヲ拂ハサルヲ得ズ且利徳タル可キ船賃ヲ失フヲ以テ
 ナリ又其債主ハ出帆前ニ海船ヲ差押ヘサルモ其歸着ヲ待テ之ヲ差押
 ユルヲ得可シ尤モ其海船海上ニ於テ滅盡スルヲアルキハ債主ハ其
 引當品ヲ失フヲアルハ論ヲ俟タズト雖モ海船ノ出帆スルヲハ債主ニ
 前以テ之ヲ知ルヲ得可シ然ルニ海船ノ將ニ航海セントスル時ニ至テ
 俄カニ差押ヘテナサントスルハ其怠リナリ自ラ其責ニ任ス可キナリ
 其以前餘リアルノ時間アルニ何ゾ之ヲ差押ヘサルヤ○海船ノ海上ニ

アルキハ之ヲ差押フルヲ能ハサルハ論ヲ俟タス是レ實ニ不能ノヲナ
 リ法律ノ定ムル所ノ手續ヲ行フヲ能ハサルナリ
 法律ニ於テハ海船カナサントスル航海ノ爲メ約諾シタル負債ニ付例
 外ヲ設ケタリ○且猶ホ此場合ニ於テモ其債主ニ對シ負債主ヨリ保證
 人ヲ立テタルキハ差押ヘテナスヲ得スト立法者ハ定メタリ即チ海
 船ノ保證ニ代ルニ他ノ保證ヲ以テス而シテ其保證人トナリタル者ハ
 海船ノ滅盡又ハ此航海ニ於テ新クニ設定シタル特權ノアルニ依リ其
 債主海船ヲ以テ支拂ヲ得ザルキハ其總テノ債主權ヲ拂フノ義務ヲ負
 ハザルヲ得ズ是レ法律ノ明言スル所ナリ法律ハ保證人ノ保證ス可キ
 ハ此等ノ負債ナリトス其保證人ハ海船ノ歸着又債主カ初メ出帆ノ時
 ニ當テ差押ヘテナシ得可キ所ノモノヲ保證スルヲ以テ足レリトセザ
 ルナリ

(第千百六十九號) 第二項ニ於テハ法律上ノ推測ニ依リテ海船カ出帆ノ用意ヲナシタリトスル時ヲ定ム其時トハ即チ船長カ航海ノ爲メ必要ノ書類ヲ備有シタル時^レ是レナリ余輩ハ後ニ船長ハ港ニ到着シタルキハ直ニ保證ノ所有權ヲ^レ諸證書佛蘭西証書乘組人姓名簿ヲ關稅局ニ納メ又出帆セントスルキハ此諸證書類ヲ受取り且港長ノ渡ス所ノ出帆免狀ヲ得ルニ非サレハ出帆スルヲ得ズトス乃チ此諸證書類ハ船長カ出帆ノ用意ヲナシタルト看做スニ付船長ノ備有セザルヲ得サル所ノ必要ノ書類ナリ若シ之ヲ備有シタル以上ハ順風ナキ爲メ海船猶ホ港内ニ在ルト雖^レ之ヲ差押フレ^レヲ得ズ但シ前ニ指示シタル債主權ニ付テハ例外タリ

關稅局ニ於テハ船長カ海船取締ノ法又ハ收稅ノ法ニ背ク^レアルキハ出帆スルニ付テノ必要ノ書類ヲ渡ス^レテ拒ム^レヲ得可シ○債主餘時

ナク急速ヲ要シ海船ヲ差押フルニ付執行ノ證書ヲ有セザルモノハ自己ノ利益ノ爲メ裁判所長ノ許可ヲ得テ船長ニ出帆スルニ付必要ノ書類ヲ渡サ、ラシムル爲メ關稅局又ハ港長ニ對シ故障ヲ述ブル^レヲ得ルト^レ其爲メ訴訟法典第五百五十七條ヲ引援シタリ然レ^レ此債主ノ希望ハ拒絕サレタリ至當ト云フヘシ其理由ハ出帆スルニ付必要ノ書類ハ金ヲ以テ見積ル^レヲ得ヘキ動産ニアラスシテ債主ニ拂チナス爲メ賣ル^レヲ得可キモノニ非ス第五百五十七條ニ於テ記ス所ハ唯此動産ナリ故ニ第五百五十七條ヲ引援スルヲ得ズトスルニ在リ是故ニ海船ヲ真正ニ差押フルヲ得ルニ付テノ方法ヲ他ニ求ムルハ債主ノ任トス

(第千百七十號) (論題) 第百十五條ハ河船又ハ川船ニ適用スヘキ乎
余輩ハ第二編ノ諸定規ハ河川ニ用ヰル所ノ船ニハ適用ス可カラサル

トナ説キタリ(第千百十六號)此規則ハ本條ノ如キ非常ノ例外ニ屬スル諸定規ニ付テハ殊ニ至當ナリトス

(論題) 第、二、百、十、五、條、ハ、寄、港、ニ、於、テ、ハ、適、用、ス、可、キ、乎、

余輩ハ適用ス可キモノトス何トナレバ第二百十五條ノ法文ハ一般ニシテ區別セザレバナリ而シテ之ヲ適用スルノ理由亦全ク同一ナリ海船ハ船長航海ニ必要ノ書類ヲ備有シタルキハ差押フ可カラザルモノトス○負債アリ其爲メ航海ヲ差押フルトナリ許ス可キハ寄港ニ於テ負フタル者は、ミナリトス○寄港ハ佛國ノ港タリト思料セサルヲ得ズ何トナレハ訴訟手續ノ法ニ付テハ其土地ノ法律ニ從ハサルヲ得ザレハナリ

(論題) 第、二、百、十、五、條、ハ、佛、國、ニ、在、ル、外、國、ノ、海、船、ニ、適、用、ス、可、キ、乎、

余輩ハ適用ス可シトス何トナレハ第二百十五條ハ一般ナレバナリ○

且荷主ノ利益ハ大抵佛國ノ利益タリ故ニ本國人同様ノ保護ヲナスヲ要ス又佛國ノ人民ニ於ケルヨリ外國ノ海船ヲ待ツニ嚴ニシテ以テ之ヲ佛國ニ拒絕スルハ佛國ノ利ニ非ズ○或ハ外國ノ海船ハ逃避スルト易クシテ再々ヒ佛國ニ來ラザル、便アリト云フモノアラシ余輩ハ之レニ答ヘテ云ハン法律ハ外國人ニ付キ定メタル如ク外國ノ海船ニ付亦此ノ如キノ定規ヲ設ク可シ(民法典第十六條訴訟法典第百六十六條)然レモ惜ラクハ法律ニ於テ此ノ如キノ定規ナシ依テ此ノ如キノ例外ニ屬スルトナリ解釋ヲ以テ補足スルトナリ得サルナリ○且外國船上ニ成立スル債主權ハ大抵ハ其將コトサントスル航海ニ關スルモノナルヲ以テ其債主權ノ爲メ海船ヲ差押フルトナリ得可シ以上ノ理由アルノ故ニ論者ノ説ハ非ナリ又外國ノ船長ノ信用ノミヲ頼ミ其船ヨリ他ノ保證ヲ有セスシテ契約ヲナスモノハ不注意ナリ其債主權ノ引當物トナ

ル可キモノヲ能ク取調ベ已レノ權利ヲ儘メテ後契約ヲナス可キハ其者ノ任ナリトス

第三卷

海船ノ所有者

商法典ハ此卷ニ於テ三事件ヲ合定シタリ而シテ各々相異ナルヲ以テ余輩ハ分ツテ之ヲ三章トス即チ第一章海船ノ共有權○第二章船長雇入ノ契約○第三章船長ノ所爲ニ付他人ニ對スル海船所有者ノ義務是レナリ

第一章 海船ノ共有權

(第千七百七十一號) 海船ノ所有權ハ數人之レヲ共有スルヲ甚タ多シトス夫レ海船ハ常ニ價額ノ巨大ナルモノナリ是ヲ以テ一人ニシテ之ヲ買ヒ得可キモノ少ナシ又殊ニ海船ハ沈沒損廢等ノ危險アレハ之ヲ

買ヒ得可キモノト雖モ己レノ財産ヲシテ皆之レニ投シ又ハ己レノ財産ノ大部ヲ之レニ投シテ買フヲ欲セサルナリ○是故ニ通商ノ便益ヲ計リ海船ヲ共有スルヲ最モ容易ナラシム可シ然ルニ一般ニ付テ論スルキハ所有權ヲ數人共通スルハ著シキ經濟上ノ妨碍タリ夫レ共通物ヲ使用シ之ヲ開作シ又ハ之ヲ賣ル等ニ付テハ共有者一全ノ承諾ヲ要ス可シトノ元則ハ頗ル至當ナリトス是レニ由テ共有者ノ一人之レニ故障ヲ述フルキハ以テ最モ利益タル所ノ處分ヲ爲スヲ妨クルヲ得可シ是此經濟上ノ妨碍ハ即チ何人ヲ問ハス共通ノ物件ヲ共通スルノ義務ナシトノ規則ヲ設ケシメタルノ理由タリ(民法典第八百十五條)夫レ物件共通ハ多クハ各自ニ害アルヲ以テ之レヲ共通スル各人ハ之ヲ止メント欲スルキハ直ニ之ヲ止ムルノ權アリ